

平成26年度

学 生 便 覧

大阪大学大学院理学研究科

平成26年度大学院行事予定表

	月	日(曜)	学 務 事 項	
第 一 学 期	4	2(水)	入学式(大阪城ホール)	
		3(木)	第1学期(通年科目を含む)履修登録開始(~4月25日)	
		4(金)	大学院新入生オリエンテーション(於:理学研究科D501講義室)	
		7(月)	博士論文題目届提出期限(6月審査分)	
		10(木)	第1学期授業開始	
		中旬	学生定期健康診断(豊中地区学生)	
		下旬	学生定期健康診断(吹田地区学生)	
	4	5	1(木)	大阪大学記念日/いちょう祭準備(授業休業)
			2(金)・3(土)	いちょう祭(2日(金)は授業休業)
	5	7	7(水)	課程博士学位申請書類提出期限(6月審査分)
			7(月)	博士論文題目届提出期限(9月審査分)
			不定	第1学期末試験(担当教員が適宜実施)
	9	8	下旬	第1学期授業終了(学年暦参照)
			上旬	
		4(月)	課程博士学位申請書類提出期限(9月審査分)	
12(火)		夏季休業(~9月30日)		
9		25(木)	学位記授与式	
第 二 学 期	10	30(火)	夏季休業終了	
		下旬	第2学期履修登録開始(~10月下旬)	
		1(水)	第2学期授業開始	
	10	11	6(月)	博士論文題目届提出期限(12月審査分)
			31(金)	大学祭(待兼祭)準備(授業休業)
	11	1	1(土)	大学祭(待兼祭)
			3(月)	
			4(火)	大学祭(待兼祭)後片づけ(授業休業)
	12	1	23(火)	冬季休業
			4(日)	
	1	1	5(月)	授業再開
			6(火)	博士論文題目届提出期限(3月審査分)
			下旬	第2学期授業終了(学年暦参照)
	3	2	中旬	
			2(月)・3(火)	博士前期・後期課程修了予定者の学位論文・研究概要報告書受付
不定		第2学期末試験(担当教員が適宜実施)		
下旬		平成26年度研究概要報告書受付(博士前期・後期課程修了予定者を除く)		
31	3	6(金)	修士・博士課程修了者発表	
		25(水)	修士・博士学位記授与式(大阪城ホール)	

注1 大学入試センター試験および大阪大学前期日程入学試験の際には、その実施準備および教室準備等のため、試験当日の他、試験の前日(試験実施日が日または月曜日の場合はその前の週の金曜日)の授業は臨時休業となります。(なお、このことについての日程等は、決定され次第掲示により通知します。)

注2 上記日程等は変更されることがあるので、常に学生用掲示板を見るようにしてください。

平成26年度 理学研究科 学年暦

○数字は授業回数を示す

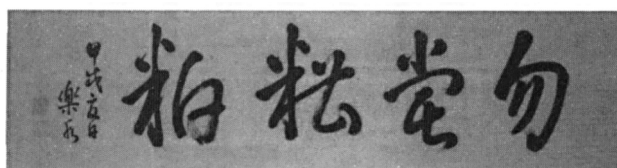
月/曜日	日	月	火	水	木	金	土	
平成26年 (2014年)			1	2	3	4 新入生オリエンテーション	5	
	4月	6	7	8	9	10	11	12
		13	①	①	①	②	②	19
		20	②	②	②	③	③	26
		27	③		③			
						1	2	3
		5月	4	5	6	7	8	9
11	④		③	⑤	⑤	⑤	17	
18	⑤		④	⑥	⑥	⑥	24	
25	⑥		⑤	⑦	⑦	⑦	31	
6月	1		⑦	⑥	⑧	⑧	⑧	7
	8		⑧	⑦	⑨	⑨	⑨	14
	15	⑨	⑧	⑩	⑩	⑩	21	
	22	⑩	⑨	⑪	⑪	⑪	28	
	29	⑪						
7月	6	⑫	⑪	⑬	⑬	⑬	12	
	13	⑬	⑫	⑭	⑭	⑭	19	
	20	⑭	⑬	⑮	⑮	⑮	26	
	27	⑮	⑭	⑯	⑯	⑯	31	
	8月	3	⑰	⑰	⑱	⑱	⑱	9
		10	⑱	⑱	㉑	㉑	㉑	16
17		㉒	㉒	㉔	㉔	㉔	23	
24		㉓	㉓	㉕	㉕	㉕	30	
31								
9月		7	8	9	10	11	12	13
		14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					

月/曜日	日	月	火	水	木	金	土	
10月				①	①	①		
	5	①	①	②	②	②	11	
	12	②	②	③	③	③	18	
	19	③	③	④	④	④	25	
	26	④	④	⑤	⑤	⑤	31	
	11月	2	⑤	⑤	⑥	⑥	⑥	8
9		⑥	⑥	⑦	⑦	⑦	15	
16		⑦	⑦	⑧	⑧	⑧	22	
23		⑧	⑧	⑨	⑨	⑨	29	
30								
12月		7	⑩	⑩	⑪	⑪	⑪	13
		14	⑪	⑪	⑫	⑫	⑫	20
	21	⑫	⑫	⑬	⑬	⑬	27	
	28	⑬	⑬	⑭	⑭	⑭	31	
	平成27年 (2015年)	4	⑭	⑭	⑮	⑮	⑮	10
		11	⑮	⑮	⑯	⑯	⑯	17
18		⑯	⑯	⑰	⑰	⑰	24	
25		⑰	⑰	⑱	⑱	⑱	31	
1月		1	⑱	⑱	⑲	⑲	⑲	7
		8	⑲	⑲	⑳	⑳	⑳	14
	15	⑳	⑳	㉑	㉑	㉑	21	
	22	㉒	㉒	㉓	㉓	㉓	28	
	2月	1	㉔	㉔	㉕	㉕	㉕	7
		8	㉕	㉕	㉖	㉖	㉖	14
		15	㉖	㉖	㉗	㉗	㉗	21
22		㉗	㉗	㉘	㉘	㉘	28	
3月		1	㉘	㉘	㉙	㉙	㉙	7
		8	㉙	㉙	㉚	㉚	㉚	14
	15	㉚	㉚	㉛	㉛	㉛	21	
	22	㉛	㉛	㉜	㉜	㉜	28	
	29	㉜	㉜	㉝	㉝	㉝	31	

は、土・日・祝日及び休業日を示す。

は、大学行事による臨時休業日及び入試のための臨時休業日（予定）を示す。

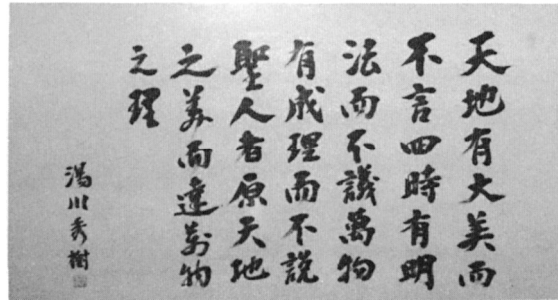
5月	1日(木)	いちよう祭準備	10月	31日(金)	大学祭準備
5月	2日(金)～5月3日(土)	いちよう祭	11月	1日(土)～3日(月)	大学祭
5月	4日(日)	いちよう祭片付け	11月	4日(火)	大学祭片付け
			1月	16日(金)	センター試験準備



上の写真の書

勿嘗糟粕 甲戌夏日 樂 水

は理学研究科本館大講義室（D501）に掲げられている額です。楽水とは、有名な物理学者で、第1回文化勲章を受章された本学初代総長 長岡半太郎先生の雅号です。甲戌は昭和9年に当たり、この年の4月に大阪市内の中之島に理学部の旧建物が竣工しています。「勿嘗糟粕」は糟粕を嘗る勿れと読みます。辞書によると、糟粕とは酒のしぼりかすで、転じて、「滋味をとりさった不用物、精神のない遺物」とあり、また、糟粕をなめるとは、「作った人の精神を汲みとらず、形だけまねることをするな」と解説しています。従って、この書は科学を志す者にとって貴重な教訓といえましょう。



上の写真の書

天地有大美而不言 四時有明法而不議
萬物有成理而不說 聖人者原天地之美
而達萬物之理

は理学研究科長室に掲げられている額で、湯川秀樹先生の筆になるものです。この句の出典は「莊子」で、その最終編第4節の冒頭に出ているもので、「天地は大美有れども、而も言わず。四時は明法有れども、而も議せず。萬物は成理有れども、而も説かず。聖人は天地の美を原(たづ)ねて萬物の理に達す」と読みます。本学名誉教授森三樹三郎先生は次のように訳されました。「天地は萬物を生育するという、すぐれた働きをもちながらも、それを口に出して語ることがない。春夏秋冬の四時は、明らかな法則をそなえながらも、みずからこれを論じたてることがない。萬物はそれぞれに完成した理をそなえながらも、みずからこれを説くことはない。聖人とは、この天地のすぐれた働きのありかたをたずね、萬物の理に達した人間のことをいうのである」。

また、James Legge 氏により次のように英訳されています。

(The operations of)Heaven and Earth proceed in the most admirable way, but they say nothing about them; the four seasons observe the clearest laws, but they do not discuss them; all things have their complete and distinctive constitutions, but they say nothing about them. The sages trace out the admirable operations of Heaven and Earth. and reach to and understand the distinctive constitutions of all things ….

(F. M. Muller; The Sacred Books of the East, vol. 40, 1891 より)

目 次

大阪大学大学院理学研究科の沿革	1
各専攻の研究内容及び指導教員	2
1. 学生心得（学生としての生活について）	3
2. 修学上の注意	6
1) 交通機関運休等の場合の授業の取扱いについて	6
2) 教育職員免許状取得について	6
3. 授業料の免除及び奨学金	8
1) 入学料免除・授業料免除等について	8
2) 日本学生支援機構第一種・第二種奨学金（外国人留学生を除く）について	8
3) 地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について	9
4. 健康及び傷害関係	11
1) 健康診断	11
2) 保健センター診療週間予定表について	11
3) 学生教育研究災害傷害保険について	12
5. 学生相談	14
1) 学生相談員（理学部・理学研究科）	14
2) なんでも相談室（理学部・理学研究科）	15
3) 留学生相談室（理学部・理学研究科）	15
4) ハラスメント相談員（理学部・理学研究科）	16
5) 学生相談室（全学）	16
6) キャンパスライフ支援センター（全学）	16
7) ハラスメント関連相談室（全学）	17
6. 理学研究科建物への入館	19
7. 理学研究科情報資料室の利用について	19
8. 理学研究科ホームページ	19
理学研究科教育プログラム	20
1) 大阪大学学部学則	20
2) 大阪大学大学院学則	29
3) 大阪大学大学院理学研究科規程	39
4) 大阪大学学位規程	59
5) 学位論文の審査及び最終試験の基準について	62
6) 履修方法等	63
7) 履修手続きの流れ	70
8) シラバスについて	70
9) 平成26年度 開講授業科目及び担当教員表	71
10) 長期履修学生制度	100
11) STEP10	100
12) aSTEP	100
13) 学際融合的な教育について	101
14) 奈良女子大学大学院人間文化研究科、兵庫県立大学大学院生命理学研究科及び 大阪府立大学大学院理学系研究科との交流の取扱いについて	104
15) 海外留学	106
16) 博士論文及び修士論文提出の手続き概要について	110
付 録	
大学院理学研究科授業担当等教員名簿	117
理学研究科・理学部 建物配置図	132
講義室等案内図	133

大阪大学大学院理学研究科の沿革

本研究科は、1933年から旧制大学院学生を受け入れ、その教育・研究を開始した。1943年からは大学院特別研究生の受け入れも行い、1961年までに総計361名の大学院学生を教育し、旧制大学院の使命を果たした。1953年に、新学制による理学研究科が、数学系1、物理学系3、化学系2および生物学系2の計8専攻の構成で発足した。その後1963年に高分子学専攻が増設され、1966年に物理学系3専攻が物理学専攻に統合され、また1995年には宇宙地球科学専攻が新設された。さらに1996年から大学院重点化により、理学研究科は数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物科学専攻、高分子科学専攻、宇宙地球科学専攻の6専攻に再編成された。

本研究科の講義及び研究指導は、理学研究科の教員のほか、情報科学研究科、生命機能研究科、微生物病研究所、産業科学研究所、蛋白質研究所、レーザーエネルギー学研究センター、ラジオアイソトープ総合センター、極限量子科学研究センター、遺伝情報実験センター、核物理研究センター、総合学術博物館などに所属する教員によって行われている。また、連携併任枠を使って、独立行政法人産業技術総合研究所関西センター、株式会社ペプチド研究所、独立行政法人情報通信研究機構、株式会社JT生命誌研究館など、学外の研究機関からの、本研究科の研究と教育への参画も行われている。なお、大学院重点化に伴い、前期（修士）課程及び後期（博士）課程の入学定員は、それぞれ117名、59名から288名、140名へと大幅に増員されたが、2002年に生命機能研究科及び情報科学研究科が新設されたことにより、前期課程は258名、後期課程は126名と入学定員の改定が行われ、その後、2007年の大阪外国語大学との統合により、前期課程の入学定員は266名となった。

最近の科学の急速な発展に柔軟に対応しうる優秀な人材を育成するために、1989年に学校教育法施行規則が改正され、学部3年次から大学院に進学できる、いわゆる「飛び級」の受験が認められるようになった。本研究科は、これを直ちに実施し、1991年度に2名を合格させた。これは全国で初めてのことである。その後、2013年度までに34名の学生が3年次から大学院に進学している。

なお、2014年3月現在で新制度の理学修士の学位取得者は8,649名、理学博士の学位取得者は3,347名（うち、課程博士2,531名、論文博士816名）である。また、旧制度の理学博士の学位取得者は621名で、この中には湯川秀樹博士も含まれている。

付 表（平成26年度）

		理 学 研 究 科						
専 攻		数 学	物 理 学	化 学	生物科学	高分子科学	宇宙地球科学	計
入 学 定 員	前 期	32	68	60	54	24	28	266
	後 期	16	33	30	23	11	13	126

各専攻の研究内容及び指導教員

(平成26年度)

数 学	<p>関数解析学、微分方程式論、複素解析学、確率論、代数学、整数論、代数幾何学、微分幾何学、位相幾何学、複素多様体論、情報数学、数理物理学、数理工学、実験数学などについて講義と研究指導を行います。</p> <p>* 臼井三平・大鹿健一・小木曾啓示・小磯憲史・後藤竜司・小林 治・今野一宏・杉田 洋・土居伸一・中村博昭・●西谷達雄・林 仲夫・藤原彰夫・*満洲俊樹・盛田健彦・渡部隆夫・有木 進・宇野勝博・小田中紳二・日比孝之・●松村昭孝・三町勝久・和田昌昭 各教授</p>
物 理 学	<p>(1) 素粒子、重力、原子核構造・反応、物性、統計、初期宇宙、プラズマなどに関する理論。 (2) 高エネルギー物理学、素粒子反応・構造及び原子核反応・構造に関する実験と加速器開発。 (3) 固体、液体、気体の示す電氣的、磁氣的、光学的特性や超伝導、ナノサイエンス、極限物性などに関する実験。</p> <p>青井 考・阿久津泰弘・浅川正之・疇地 宏・●磯山悟朗・大野木哲也・小川哲生・小口多美夫・菊池 誠・岸本忠史・木村真一・久野良孝・窪田高弘・黒木和彦・小林研介・下田 正・高部英明(国際物理特別コース)・田島節子・豊田岐聡・中野貴志・能町正治・野海博之・野末泰夫・萩原政幸・橋本幸士・●畑中吉治・花咲徳亮・福田光宏・保坂 淳・細谷 裕・山中 卓・與曾井 優 各教授</p>
化 学	<p>(1) [Aコース] 無機及び物理化学の分野を究めるのに必要な分析化学、放射化学、無機化学、錯体化学、生物無機化学、物性物理化学、表面化学、化学熱力学、量子化学、反応物理化学、生物物理化学、構造物性化学、結晶化学、生体分子動力学などについて講義と研究指導を行います。</p> <p>石川直人・上田貴洋・岡田美智雄・奥村光隆・小林 光・今野 巧・篠原 厚・谷口正輝・塚原 聡・中澤康浩・中野元裕・中村春木・藤原敏道・船橋靖博・松本卓也・水谷泰久・宗像利明・山口和也・吉村 崇・田口隆久・谷本一美 各教授</p> <p>(2) [Bコース] 構造有機化学、物性有機化学、生体分子化学、有機生物化学、天然物有機化学、精密制御化学、医薬品化学、機能物質化学、蛋白質有機化学、プロテオミクス分析化学など広範な有機化学の分野について講義と研究指導を行います。</p> <p>小川琢治・梶原康宏・加藤修雄・久保孝史・笹井宏明・高尾敏文・中谷和彦・深瀬浩一・北條裕信・村田道雄・豊島 正・西内祐二・林 文晶 各教授</p>
生 物 科 学	<p>生体高分子(蛋白質など)および超分子装置の構造と機能、遺伝子発現・複製、細胞周期、発生・分化・生長、運動・生体エネルギー代謝および神経分化・感覚・記憶・体内時計などの機序と制御、環境馴化・適応・進化の実態などの解明をめざし、ジェノミクス、プロテオミクス、有機化学、物理化学、構造生物学、超分子構造学、分子生物学、生化学、細胞生物学、生理学、システム生物学、系統進化学、自然史学などの様々な視点から講義と研究指導を行います。本専攻では従来のカリキュラム(Bコース(生物科学))に加えて、分野融合を目指した人材を養成するための新たなカリキュラム(Aコース(生命理学))を新設しました。</p> <p>[A、B両コース担当]</p> <p>上田昌宏・岡田雅人・小倉明彦・柿本辰男・*河村 悟・*倉光成紀・栗栖源嗣・後藤祐児・篠原 彰・●関口清俊・高尾敏文・高木淳一・滝澤温彦・●田嶋正二・中川敦史・中村春木・西田宏記・●長谷俊治・平岡 泰・藤原敏道・古川貴久・北條裕信・升方久夫・松野健治・●安永照雄・●吉川和明・●米崎哲朗・蘇 智慧・橋本主税・原口徳子 各教授</p> <p>[Aコース専任]</p> <p>今田勝巳・梶原康宏・佐藤尚弘・*原田 明・山口浩靖 各教授</p>
高 分 子 科 学	<p>高分子科学の研究を行うために必要な教育を、講義及び研究指導を通じて行います。特に、高分子の合成・反応・化学構造などの高分子化学、高分子の光物性・固体構造・溶液及び融体の静的及び動的特性などの高分子物理化学、蛋白質・多糖などの生体高分子の構造・機能に重点をおきます。</p> <p>青島貞人・井上正志・今田勝巳・鬼塚清孝・栗栖源嗣・後藤祐児・佐藤尚弘・中川敦史・*原田 明・山口浩靖・山本 仁 各教授</p>
宇 宙 地 球 科 学	<p>物理学的手法を基盤とし、宇宙・銀河・星・惑星・物質・生命の起源と進化に関して、伝統的な天文学や地球惑星科学とは異なった視点から理論的・観測的・実験的研究を推進しています。宇宙物理、X線や赤外線による天体観測、物性理論、極限環境下の固体物性、地球惑星の構造、地球外物質、地球史等についての講義と研究指導を行います。</p> <p>川村 光・近藤 忠・佐々木 晶・芝井 広・高部英明・常深 博・寺田健太郎・中嶋 悟・長峯健太郎 各教授</p>

注) *印は、平成27年3月の退職予定を示します。●印は、平成28年3月の退職予定を示します。

1. 学生心得（学生としての生活について）

大学院生の諸手続きに関する窓口は、理学研究科大学院係で行います。

また、学生の修学上必要な事項についての通知は、原則として掲示により行います。登校時には必ず掲示板を見るよう心がけてください。

また、学生生活全般については、大阪大学学生部発行の「学生案内」を参照してください。

1-1. 願・届について

提出先 大学院係

提出書類	提出時期
在学年限延長願	2ヶ月前（博士後期課程在学年限5年を越える者）
休学願・復学願・退学願	1ヶ月前（厳守）
研究指導委託願	研究指導開始2ヶ月前（厳守）
転籍・住所変更・改姓等	その都度速やかに提出してください。

（留意）

- 1) 休学：病気その他の理由により3ヶ月以上修学を中断しようとする場合は、研究科長の許可を得て、その学年の終わりまで休学することができます。
 - (1) 休学期間は在学年限には算入されませんが、学年は進行します。
 - (2) 許可された休学期間が学期の途中からである場合は、その学期または学年に開講している授業科目を履修することは認められません。単位の修得が不可能になることがありますので、十分注意してください。
 - (3) 前期課程においては2年、後期課程においては3年の期間を越えて休学することはできません。
 - (4) 休学する場合の授業料の取り扱いは、1学期または2学期の始めから休学する場合は、その学期の納付は免除されますが、学期の途中から休学する場合は、その学期の授業料は徴収されます。
- 2) 復学：休学の理由が解消し履修を再開しようとする場合は、研究科長の許可を得て復学することができます。ただし、病気等で医師の診断書に基づく休学を許可された者は「医師の診断書」を添えて願い出てください。
 - (1) 学期の途中で復学した場合は、その学期または学年に開講している授業科目を履修することは認められません。単位の修得が不可能になることがあります。
- 3) 退学：退学しようとする場合は、総長の許可を得て、退学することができます。退学する場合、その学期の授業料は徴収されます。
- 4) 研究指導委託願：教育上有益と認められる場合には、他の大学院等で研究指導を受けることができます。指導教員と相談のうえ、履修を志願してください。願の期間は前期課程の学生は1年を越えることはできません。

1-2. 届について (外国人留学生)

提出先 留学生・国際交流担当

提出書類	提出時期
一時帰国届	その都度 (速やかに提出してください)

(留意)

外国人留学生は、一時日本を離れる時は、短期・長期に関わらず、必ず「一時帰国届」を提出してください。届をしないで日本を離れた場合、国費留学生であれば、給与の支給ができない場合がありますので、十分注意してください。

2-1. 証明書等について

交付事務 大学院係

証明書等の種類	摘要
学生証 (常に携帯し、本学職員の要求があったときはいつでも呈示してください)	入学の際交付します。 学籍を離れたときは必ず返還してください。
通学定期乗車券発行控	年度始めに交付します。 通学区間等を変更した場合は、届け出てください。
修了証明書、同見込証明書、成績証明書、その他	大学院所定の交付願に所定事項を記入し、願出てください。即日発行はできませんので注意してください。 和文：申請日翌日、英文：7日

*教務・大学院関係等行事により証明書発行業務が停止する場合は、事前に掲示等により通知します。

*修了見込証明書、成績証明書等は、在学生については証明書自動発行機を利用してください。

2-2. 証明書自動発行機について

発行できる証明書	設置場所等
1. 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証） 1日3枚まで、年10枚を限度に発行できます。 有効期限：発行日から3ヶ月	豊中地区 豊中学生センター（2台） 全学教育管理・講義A棟
2. 在学証明書 3. 成績証明書 平成10年度以降入学者の大学院生	吹田地区 吹田学生センター1階 医学部医学科共通棟1階 工学部管理棟1階（2台）
4. 修了見込証明書（前期課程2年次のみ） 5. 健康診断証明書（定期健康診断受検者のみ）	箕面地区 外国語学部研究・講義棟A棟

*健康診断証明書は個人によって証明書自動発行機から出力されない場合があります。その場合は保健センターに問い合わせてください。

2-3. 学生証の再交付について

交付事務 学生センター

種類	摘要
学生証の再交付	紛失したときは、豊中・吹田学生センターで再交付手続きをしてください。 なお、理学研究科建物への入館システムを利用するには、再交付後、理学研究科留学生・国際交流担当に申し出てください。

2. 修 学 上 の 注 意

1) 交通機関運休等の場合の授業の取扱について

(1) 交通機関運休の場合の取扱

ストライキ等により交通機関が運休となった通学路線のうち、特に「阪急電車」が運休した場合に限って次のとおり取り扱います。

運 休 解 除 時 刻	授業の取扱
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を超過しても解除されない場合	全日授業休業

(2) 気象警報発令時の取扱

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」又は「特別警報」が発令された場合、授業は休業します。

なお、同警報が解除された場合の取扱いは次のとおりです。

警 報 解 除 時 刻	授業の取扱
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を超過しても解除されない場合	全日授業休業

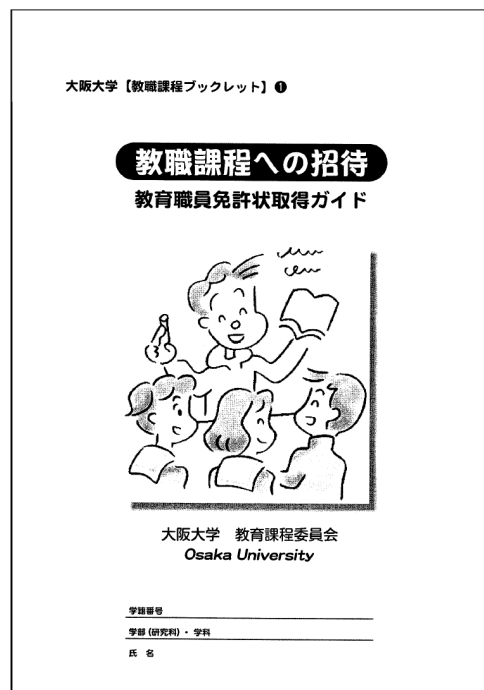
〔注意〕 解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によります。

〔補足〕 授業時間帯中に暴風警報又は特別警報が発令された場合は、当該授業終了以後は休講とします。

2) 教育職員免許状取得について

- (1) 大学を除く全ての国公立学校の教育職員（常勤、非常勤を問いません）になるためには、それぞれ相当の教育職員免許を有する必要があります。
- (2) 教育職員免許状に関する基準は、「教育職員免許法」で基準資格及び科目別の最低修得単位数を、「教育職員免許法施行規則」で科目及び単位の修得方法を規定しています。
- (3) 理学部は、中学校教諭、高等学校教諭の一種免許「数学」「理科」および高等学校教諭の一種免許「情報」を取得できる課程として認定されています。また、大学院理学研究科は、中学校教諭、高等学校教諭の専修免許「数学」「理科」を取得できる課程として認定されています。

- (4) 平成26年4月3日(木)に教職課程ガイダンスが行われます。教職課程ガイダンスは、翌年以降も同じ時期に開催される予定です。
- (5) 教育職員免許状の取得についての詳細は、大阪大学教育課程委員会が作成する「大阪大学【教職課程ブックレット】1 教職課程への招待 教育職員免許状取得ガイド」(以下「ブックレット」とします)をご覧ください。このブックレットは、上記の教職課程ガイダンスで配布するほか、理学研究科学務係でも入手可能です。
- (6) 中学校教諭の免許を取得する場合は、「介護等の体験」を受講する事が義務づけられています。これは、特別支援学校及び社会福祉施設等で、7日以上の間、高齢者や障害者に対する介護、介助、交流等の体験をするものです。詳しくは、ブックレットをご覧ください。
- (7) 教育実習を履修するために必要な単位数や履修要件など、詳しくはブックレットをご覧ください。履修の手続き等については、教育実習を履修する前年度の4月頃より順次掲示等によりお知らせします。



[注] 教職課程に関する連絡事項は、KOANの掲示板に掲載されます。見逃すことのないように注意してください。

3. 授業料の免除及び奨学金

1) 入学料免除・授業料免除等について

担当事務 学生センター

修学援助の一環として、経済的理由により入学料（授業料）の納入が困難であり、学力基準を満たす方を対象に、本人の申請に基づき選考のうえ、予算の範囲内で入学料（授業料）の全額又は半額の免除、収納猶予、及び授業料分納を認める制度があります。

1. 対象

《入学料免除》

- ①大学院学生で、入学前1年以内において、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、納入が著しく困難であると認められる方。
- ②経済的理由によって納入が困難であり、学力基準を満たす方。

《授業料免除》

- ①経済的理由によって納入が困難であり、学力基準を満たす方。
- ②各学期の授業料の納入前6ヶ月以内（新入生の入学当期分に限り納入前1年以内。）に、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納入が困難であると認められる方。

《入学料収納猶予・授業料収納猶予・授業料分納》

○対象者については、大阪大学ホームページを参照してください。

2. 申請方法

詳細は、大阪大学ホームページ、各学生センター及びKOANの掲示板でお知らせします。

なお、申請時期、申請書類等の詳細は「申請要項」を参照してください。

また、「申請要項」については、大阪大学ホームページよりダウンロードによる配布及び、ダウンロードができない方には各学生センターでの配布を行います。申請を希望する方は内容をよく確認してください。

3. 問い合わせ先

吹田学生センター（ICホール1階） 06-6879-7088、7089

4. ホームページアドレス

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/remission>

2) 日本学生支援機構第一種・第二種奨学金（外国人留学生を除く）について

担当事務 学生センター

日本学生支援機構「第一種・第二種」奨学金は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に貸与される制度です。貸与を受けた奨学金は返済の義務があり、必ず返済しなければなりません。

また、条件を備えていても、推薦人数に限りがあるため必ずしも希望者全員が採用されるとは限りません。

奨学金の種類と貸与月額

(平成25年11月現在)

奨学金の種類	貸与月額	
大学「第一種」奨学金 (無利子)	自宅通学	30,000円、45,000円の いずれかを選択
	自宅外通学	30,000円、51,000円の いずれかを選択
大学「第二種」奨学金 (有利子)	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、 120,000円の中から希望する金額を選択	
大学院「第一種」奨学金 (無利子)	博士前期(修士)課程	50,000円、88,000円の いずれかを選択
	博士後期(博士)課程	80,000円、122,000円 のいずれかを選択
大学院「第二種」奨学金 (有利子)	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、 150,000円の中から希望する金額を選択	

(注1) 第二種奨学金に採用された方は、卒業・修了後、奨学金を返還する際、利子を附加した額を返還することになります。

なお、利率は年3%を上限とし、変動します。

(注2) 大学院において第一種奨学金の貸与を受けた方で、在学中に特に優れた業績を挙げた方として認定された場合、奨学金の返還が免除される制度があります。

1. 申請について

申請に関する情報及び申請の受付時期(4月頃)等は、大阪大学ホームページ、学生センター及びKOAN掲示板にて随時通知します。奨学金を希望する方はご確認の上、定められた期日までに申請の手続きをしてください。

なお、申請書類は大阪大学ホームページからのダウンロードにより配布する予定です。

2. 窓口

吹田学生センター(吹田キャンパス・ICホール1階)

豊中学生センター(豊中キャンパス・学生交流棟2階)

3. 問い合わせ先

豊中学生センター奨学金担当(gakusei-sien-en2@office.osaka-u.ac.jp)

4. ホームページアドレス

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/jasso>

3) 地方公共団体及び民間奨学団体奨学金(外国人留学生を除く)について

担当事務 学生センター

地方公共団体及び民間奨学団体奨学会による奨学金(以下、「各種奨学金」という。)は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に給与もしくは貸与される制度です。

しかし、このような条件を備えていても、推薦人数に限りがあり、またそれぞれの奨学会での推薦基準があるため、必ずしも申請者全員が推薦候補者になるとは限りません。

また、民間奨学団体等奨学会の奨学生に採用されると、在学中のみならず卒業後も民間奨学団体

等との関係は続きます。大阪大学から推薦されたという自覚を持ち、向学心をさらに高め、交流会、面談、研修会への出席や、生活状況調書、成績表、奨学金受領書の提出など、奨学生としての義務を果たさなければなりません。これらの義務を怠った場合、辞退や採用取り消しとなる場合もありますので、十分に考慮の上、申請してください。

学生センターで取り扱っている各種奨学金は、「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」と「希望者が直接出願する奨学金」があります。

1. 対象者

奨学金の種類により異なります。

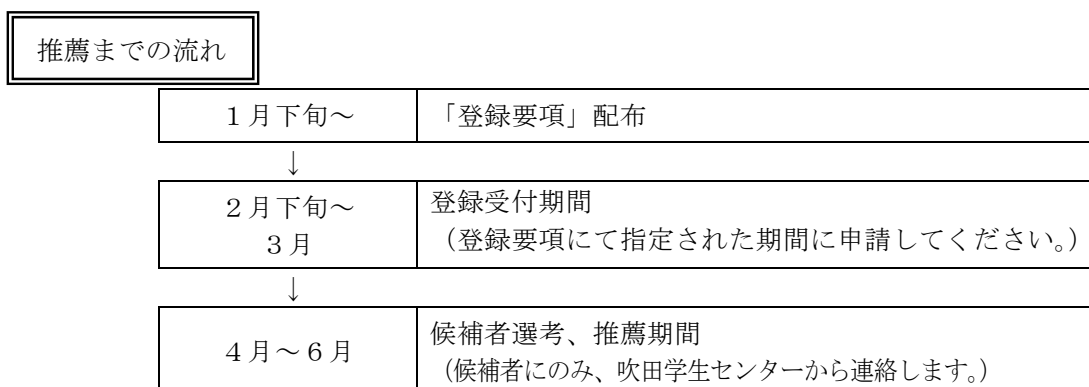
2. 申請方法

(1) 候補者を選考し大学から推薦する奨学金

大学からの奨学生候補者は、登録者から選考します。

詳細は、当該期の「民間団体等奨学生推薦候補者登録要項」（以下、「登録要項」）を参照してください。

「登録要項」は、配布時期に合わせて大阪大学ホームページよりダウンロードできます。



(2) 希望者が直接出願する奨学金

大学に募集案内があった場合、その都度学生センター、KOAN 掲示板にてお知らせします。

(3) その他

地方公共団体奨学金については、本学に募集案内が来ない場合があるので、直接、出身地等の教育委員会等へ照会してください。

3. 受付窓口

各キャンパスの学生センター

4. 問い合わせ先

吹田学生センター (IC ホール 1 階) 06-6879-7084

5. ホームページアドレス

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/gov_n_private

4. 健康及び傷害関係

1) 健康診断

担当事務 保健センター

定期健康診断	時期	未受検者の届出
必ず受検してください。	日時、場所等については掲示等で周知します。	受検していない人は、他で受検した健康診断証明書（身長・体重・血圧・尿・胸部レントゲンを含む*様式任意）を後日、部局事務へ提出してください。

2) 保健センター診療週間予定表について

豊中本室 窓口対応時間 9:00～12:00 13:00～17:00

時間	診療科	月	火	水	木	金
受付時間 9:30～11:45	内科		○	○	○	○
	精神科	○		○	○	○
	整形外科	○				
受付時間 13:00～15:15	内科	○		○		○
	精神科	○			○	○
	整形外科				○	

吹田分室 窓口対応時間 9:00～12:00 13:00～17:00

時間	診療科	月	火	水	木	金
受付時間 9:30～11:45	内科	予約診察	○	○	○	○
	精神科	○	○	○	○	
	整形外科				○	
受付時間 13:00～15:15	内科	○	○	○		○
	精神科	○		○		
	整形外科					

箕面分室 窓口対応時間 9:00～12:00 13:00～17:00

時間	診療科	月	火	水	木	金
受付時間 9:30～11:45	内科			○(第1水曜日)		
	精神科			○	○	
受付時間 13:00～15:15	内科		○		○	○(第3金曜日)
	精神科			○		

*保健センター診療週間予定表は、事情により変更することがあります。保健センターのホームページで必ず確認してください。

大阪大学保健センター <http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/>

○女子学生と女子職員のためのからだと心のなんでも相談（事前に電話で予約・お問い合わせください。）

豊中本室：木曜日 午前 金曜日 午後 電話：06-6850-6038

吹田分室：月曜日 午前 金曜日 午前 電話：06-6879-8970

箕面分室：木曜日 午後 第3金曜日 午後 電話：072-730-5151

3) 学生教育研究災害傷害保険について

担当事務 学生センター

学生教育研究災害傷害保険（学研災^{がっけんさい}）は、国内外における教育研究活動中に学生が被った「けが」に対して補償を提供するために設立された保険制度です。

大阪大学では、全ての対象者がこの保険に加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

1. 対象

学部生、大学院生、研究生、聴講生及び科目等履修生（留学生を含む。）

（大学施設を単に利用するだけの研修生は対象となりません。ただし日本学術振興会特別研究員は対象となります。）

2. 保険金の内容

（平成26年 4月以降）

保険金が支払われる事故の範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
正課中（授業、実験実習、演習等） 学校行事中	2,000万円	程度に応じて 120万円～3,000万円	治療日数 1日以上 が対象 3,000円～30万円	1日につき 4,000円
通学中 学校施設等相互間の移動中	1,000万円	程度に応じて 60万円～1,500万円	治療日数 4日以上 が対象 6,000円～ 30万円	1日につき 4,000円
上記以外で大学施設内 にいる間 公認団体が大学に届 け出した学外の課外活動中	1,000万円	程度に応じて 60万円～1,500万円	治療日数 14日以上 が対象 3万円～30万円	1日につき 4,000円

3. 加入方法及び請求方法

《加入方法》

入学手続きの際に「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」とゆうちょ銀行の払込取扱票を配布しますので、**必ず郵便局またはゆうちょ銀行の窓口で通学中等傷害危険担保特約保険料を含む下記の金額を払い込んでください。**接触感染予防保険金支払特約には対応していません。

※誤った金額を振り込まれた場合、加入手続きが取れず、この保険の対象となる「けが」であっても、保険金の支払いができません。必ず、所属学部（研究科）及び学年に対応した金額を払い込んでください。

所属 学年	文・人・外・法・経・理・医（保健）・薬（薬科・創成薬）・工・基礎工・ 言文・国際公共・情報・高等司法*・連合小児		
	学 部	大学院 （前期・修士）	大学院 （後期・博士）
1	3,300	1,750	2,600
2	2,600	1,000	1,750
3	1,750		1,000
4	1,000		

所属 学年	医（医・医科）・歯・薬（薬・医療薬）			生命機能
	学 部	大学院 （修士医のみ）	大学院 （後期・博士）	大学院 （博士）
1	4,700	1,750	3,300	4,050
2	4,050	1,000	2,600	3,300
3	3,300		1,750	2,600
4	2,600		1,000	1,750
5	1,750			1,000
6	1,000			

* 高等司法は、別途法科賠償保険料を上乗せする。

《事故の通知》

保険事故が発生したときは、ただちに事故の日時・場所・状況・傷害の程度を事故通知ハガキにより保険会社へ通知する必要があります。事故の日から30日以内に通知のない場合は、保険金が支払われないことがあります。

事故通知ハガキは、学生センターに取りに来てください。記入したハガキは、学生センターから保険会社へ送付します。

《保険金の請求》

請求に必要な書類は学生センターで渡します。記入・作成のうえ、学生センターに提出してください。

※学生教育研究賠償責任保険（学研賠）について

正課・学校行事中やインターンシップ・介護体験活動・教育実習・保育実習及びその往復中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上支払わなければならない損害賠償金を補償する保険です。「学研賠」へは、「学研災」へ先に参加していなければ、加入することができません。加入希望者は必ず「学研災」に参加していることを確認のうえ、学生センターで必要書類を受け取り、郵便局で保険料を払い込んでください。

4. 窓口

吹田学生センター（吹田キャンパス・ICホール1階）

豊中学生センター（豊中キャンパス・学生交流棟2階）

5. 問い合わせ先

豊中学生センター（学生交流棟2階） 06-6850-6114

6. ホームページアドレス

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/general/insurance.html>

5. 学生相談

理学部・理学研究科では、学生の皆さんが大学生活を送る中で抱える様々な悩みや疑問などに対して、気軽に相談できるよう複数の相談窓口を設置しています。例えば、その悩みは、学業のことや大学の手続きのことであったり、あるいは、将来の進路のこと、健康のこと、友人関係のことであったり、もしかしたら、1人で解決できない困難な悩みを抱えてしまうこともあるかもしれません。そんなとき、家族、友人、身近な教員等に相談する方法以外に、理学部・理学研究科には、悩みの解決に向けたサポートを行う相談窓口として、下記1)～4)があることを知っておいてください。どうしてもよいのかわからない、そう思ったときは気軽に相談してみましょ。なお、どの窓口にもどんな相談をしても適切な対応が行われますので、相談する内容に関わらず、相談しやすい窓口、相談しやすい方法で相談してみてください。また、理学部・理学研究科の相談窓口のほか、全学の相談窓口として、下記5)～7)もあります。

下記のすべての相談窓口は、秘密厳守で相談に応じています。

1) 学生相談員（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の学生の皆さんが抱える修学面、生活面、健康面等の日常における様々な悩みに対して、担当教員が学生相談員として、解決のためのアドバイスやサポートを行っています。学生相談員は、所属学科・専攻関連の相談内容に限らず対応することになっていますので気軽に何でも相談してみてください。相談は電話でもよいですがEメールでも受け付けています。悩みごとがあれば、どんな小さなことでも構いませんので、とにかく一度メールしてみてください。

s o d a n [at] s c i. (全専攻共通)

※電子メールアドレスは「@」を「[at]」に読替、末尾が「osaka-u.ac.jp」の場合は省略しております。

理学部・理学研究科学生相談員 平成26年 4月現在

学科（専攻）	職名	氏名	連絡先
数学	教授	大鹿 健一	06-6850-5724
	准教授	落合 理	06-6850-5711
物理学	教授	花咲 徳亮	06-6850-5751
	准教授	佐藤 透	06-6850-5345
化学	教授	中澤 康浩	06-6850-5396
	准教授	大山 浩	06-6850-5401
生物科学	教授	柿本 辰男	06-6850-5421
	教授	関口 清俊	06-6879-8617
高分子科学	教授	今田 勝巳	06-6850-5455
	准教授	金岡 鍾局	06-6850-5450
宇宙地球科学	教授	長峯 健太郎	06-6850-5501
	准教授	大高 理	06-6850-5797

2) なんでも相談室（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の学生の皆さんが、気軽になんでも相談できるように、学生相談員の他に「なんでも相談室」を理学研究科内に設置しています。勉学や学問の内容に限らず、対人関係のほか、学生生活全般に関するものや「漠然とした相談」「誰に聞いたらいいかわからない質問」など、担当者が文字通りなんでも相談にのってくれます。相談は基本的に、授業開講日に相談時間枠を設けてあり、場所は、理学研究科E棟2階（E 2 1 7）の「なんでも相談室」です。悩みがあれば気軽に相談しに来てください（場合によっては、他の場所で相談を受け付けることもあります。）。なお、Eメールによる相談や予約も受け付けています。

n a n d e m o [at] s c i.

※電子メールアドレスは「@」を「[at]」に読替、末尾が「osaka-u. ac. jp」の場合は省略しております。

理学部・理学研究科なんでも相談室担当者 平成26年 4月現在

職名	氏名	連絡先
教授	阿久津 泰弘	06-6850-5348

3) 留学生相談室（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の留学生の皆さんが、日本で大学生活を送る中で抱える修学面、生活面、健康面等の様々な悩みを英語により相談できるように、「留学生相談室」を理学研究科内に設置しており、担当の留学生専門相談員が、解決のためのアドバイスやサポートを行っています。「留学生相談室」の場所は、理学研究科B棟2階（B 2 2 4）です。相談したいことがあれば、どのようなことでもよいので一人で悩まずに遠慮なく相談してください。Eメールや電話の相談はもちろんのこと、相談室で直接相談にのることもできます。相談室で相談したいときは、Eメールで予約を行ってください。

また、各学科、専攻には留学生担当教員（氏名、連絡先はホームページに掲載）がいますので、そこでも相談ができるほか、留学生相談室担当職員が、生活相談に対応しています。

f o r e i g n [at] s c i.

※電子メールアドレスは「@」を「[at]」に読替、末尾が「osaka-u. ac. jp」の場合は省略しております。

理学部・理学研究科留学生専門相談員 平成26年 4月現在

職名	氏名	連絡先
講師	浦川 理	06-6850-5458
助教	卓 妍秀	06-6850-5763

留学生相談室担当職員 平成26年 4月現在

氏 名	事 務 室
網 ひとみ	理学研究科本館D棟2階D 2 0 1 国際交流サロン内

4) ハラスメント相談員（理学部・理学研究科）

ハラスメントの防止等に関する取り組みの一環として、ハラスメントに関する苦情や相談に対応するため、理学部・理学研究科にハラスメント相談員を置いています。学生の皆さんが、不幸にしてハラスメントの被害に遭ったときには、一人で悩まず、まずは家族や友人など信頼できる人に相談し、必要に応じて理学部・理学研究科のハラスメント相談員に相談してください。相談があった場合、ハラスメント相談員は真摯に話を聞いて問題解決にあたります。下記6)の専門相談員のいる全学の相談室での対応がより適切であると判断される場合には、相談者本人の了解を得た上でそちらへ連絡することもあります。相談は、学科・専攻に関わらず、誰にしてもらっても構いません。

理学部・理学研究科ハラスメント相談員 平成26年 4月現在

学科（専攻）	職名	氏名	連絡先
数学	教授	小林 治	06-6850-5294
物理学・宇宙地球科学	教授	田島 節子	06-6850-5755
化学・高分子科学	講師	井頭 麻子	06-6850-5786
生物科学	助教	田中 博和	06-6850-5984

※事務部にも相談員がいます（相談員名等は、理学部・理学研究科のホームページに掲載）

<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/restricted/harrasment-jp.html>（内部専用ページ）

5) 学生相談室（全学）

大阪大学には、学生相談室（カウンセリング・ルーム）が設置されています。本学の学生は誰でも、経験豊かな相談相手（カウンセラー）に相談することができます。何か相談したいことがあれば、電話で相談日と時間を予約し相談してください。学生相談室は、どんな相談も受け付けています。相談は1回だけでも結構ですし、継続して何回でも相談することができます。詳細は下記ホームページを参照してください。

〔豊中相談室〕

場所：保健センター豊中本室建物東側階段の2階（入口は保健センターとは別です）

電話：06-6850-6014（予約制） 受付時間：月～金 9:30～16:00

〔吹田相談室〕

場所：保健センター吹田分室2階

電話：06-6850-6014（予約制） 受付時間：月～金 9:30～16:00

※相談曜日および時間帯などの詳細はホームページでご確認ください。

http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/3_0_gakusou.html

6) キャンパスライフ支援センター（全学）

キャンパスライフ支援センターでは学生の人間的な成長を総合的に支えるため、障害学生支援ユニット、学生生活支援ユニット、進路相談ユニットの3つのユニットが協力して活動しています。

場所は各キャンパスの学生センターに隣接しています。

（吹田地区：I Cホール1階、 豊中地区：学生交流棟2階、 箕面地区：研究講義棟A棟1階）

○障害学生支援ユニット

障害学生支援ユニットでは、身体障害、発達障害、精神障害等の障害を有する学生が障害を持たない学生と同じように学び、学生生活を送ることができるよう支援や配慮のコーディネートを行っています。

事前の予約は必要ありません。電話やファックス、電子メールでの相談も受け付けています。

【吹田】 電話・FAX:06-6879-4762 受付時間 火・木 10:00~17:00

【豊中】 電話・FAX:06-6850-6107 受付時間 月・水 10:00~17:00

【箕面】 電話・FAX:072-730-5089 受付時間 金 10:00~17:00

s h i e n [at] c h. w a n i.

※電子メールアドレスは「@」を「[at]」に読替、末尾が「osaka-u.ac.jp」の場合は省略しております。

○学生生活支援ユニット

学業・進路・人間関係の悩みのほか、カルト団体・消費者トラブル、サークル活動や経済上の問題など、学生生活上のさまざまな問題について、教員や学生の皆さんと年齢の近い大学院生が相談に応じています。

事前の予約は不要です。

【吹田】 電話:06-6879-4424 受付時間 火 8:50~12:50

【豊中】 電話:06-6850-6651 受付時間 月・水・金 13:00~17:00

○キャリア支援ユニット

キャリア支援ユニットでは、就職相談員、CDA（キャリアアドバイザー）が相談業務を行っています。

予約の必要はありません。

【吹田】 電話:06-6879-7078 受付時間 月・火・水・金 13:00~17:00

【豊中】 電話:06-6850-5027 受付時間 月~金 13:00~17:00

【箕面】 電話:072-730-5089 受付時間 月~金 13:00~17:00

※相談曜日および時間帯などの詳細は、ホームページでご確認ください。

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/support_st

7) ハラスメント関連相談室（全学）

大阪大学では、ハラスメントのない大学を目指し、その発生の防止や解決に取り組んでいます。その一環として、各キャンパスに全学の相談室を設置しており、上記4)のハラスメント相談員とは別に、専門相談員が問題の解決にあたっています。ハラスメントの被害に遭ったときや周囲の人が被害に遭って困っているときは、勇気を出して相談しましょう。

[セクシュアル・ハラスメント豊中相談室]

場所：保健センター豊中本室建物東側階段の2階（入口は保健センターとは別です）

電話：06-6850-5029

[セクシュアル・ハラスメント吹田相談室]

場所：工学研究科R 4棟2階

電話：06-6879-7169

[アカデミック・パワー等ハラスメント豊中相談室]

場所：保健センター豊中本室建物東側階段の2階（入口は保健センターとは別です）

電話：06-6850-6006（予約制）

[アカデミック・パワー等ハラスメント吹田相談室]

場所：工学研究科R 4棟2階

電話：06-6879-7169（予約制）

※相談曜日および時間帯などの詳細はホームページでご確認ください。

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/prevention_sh

6. 理学研究科建物への入館

理学研究科、理学部の建物の外部に通じる玄関、通用口等は平日夜間時間及び休業日終日、入館が規制されます。

入館する場合は、磁気カードが必要です。但し、大学院正規生については、学生証により入館が可能です。

大学院非正規生（研究生）については、研究のため夜間入館が必要な場合は、留学生・国際交流担当で磁気カードの申請手続きをしてください。

科目等履修生については、磁気カードの発行は認めません。

曜 日	開 閉 時 間
平日（月～金）	正面玄関：6：00～23：00 カード入館：23：00～ 学生通用口：7：00～19：00 カード入館：19：00～
土・日・祝祭日	全館終日閉鎖（カード入館のみ可）
年末・年始	全館終日閉鎖（カード入館のみ可）

7. 理学研究科情報資料室の利用について

理学研究科・理学部には研究上必要な資料を保存している理学研究科情報資料室（図書室）があります。

場所は理学研究科D棟2階で、開館時間は終日（ただし、平日9：00～9：30は完全閉室）です。

8. 理学研究科ホームページ

シラバスや担当教員などの教育に関する情報、その他の必要な情報、また教員の研究活動について理学研究科ホームページで閲覧することができます。

<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/index-jp.html>

なんでも相談室のスケジュール、掲示板情報、意見・相談コーナー、ハラスメント相談員名簿、印刷用キャンパスマップのダウンロード等、より詳しい情報が、内部限定ページにあります。これらの情報は理学研究科情報処理室のパソコンから接続することにより閲覧することができます。

理学研究科教育プログラム

1) 大阪大学学部学則

第1章 総 則

(趣旨)

第1条 この学則は、大阪大学（以下「本学」という。）の学部の修業年限、教育課程その他の学生の修学上必要な事項について、定めるものとする。

(教育研究上の目的の公表等)

第1条の2 本学は、学部又は学科ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

(学部及び学科)

第2条 本学に、次の学部及び学科を置く。

理 学 部 数学科、物理学科、化学科、生物科学科（他学部 略）

(収容定員)

第3条 前条に定める学部及び学科の収容定員は、別表1のとおりとする。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第5条 学年を分けて、次の2学期とする。

第1学期 4月1日から9月30日まで

第2学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日及び土曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）

に規定する休日

大阪大学記念日 5月1日

春季休業 4月1日から4月10日まで

夏季休業 8月5日から9月30日まで

冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

2 春季休業、夏季休業及び冬季休業については、学部の事情により学部長が総長の承認を得て、その都度変更することができる。

3 臨時の休業日については、総長がその都度定める。

第7条 削 除

第2章 学 生

(修業年限)

第8条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科については、6年とする。

2 第10条の5の規定に基づき、長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）は、当該許可された年限を修業年限とする。

(在学年限)

第9条 在学年限（長期履修学生の在学年限にあっても同様とする。）は、8年とする。ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科については、12年とする。

2 前項の規定にかかわらず、第14条から第15条までの規定により、入学を許可された者の在学年限については、学部規程で別に定める。

3 学生が前2項に規定する在学年限に達したときは、当該学生はその身分を失う。

(教育課程及びその履修方法等)

第10条 教育課程は、本学、学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、次のセメスターに区分する。

第1セメスター 1年次第1学期

第2セメスター 1年次第2学期

第3セメスター 2年次第1学期

第4セメスター 2年次第2学期

第5セメスター 3年次第1学期

第6セメスター 3年次第2学期

第7セメスター 4年次第1学期

第8セメスター 4年次第2学期

3 医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科にあつては、前項のセメスターに次のセメスターを加え、区分する。

第9セメスター 5年次第1学期

第10セメスター 5年次第2学期

第11セメスター 6年次第1学期

第12セメスター 6年次第2学期

4 授業科目の区分は、次のとおりとする。

共通教育系科目

教養教育科目、言語・情報教育科目、基礎セミナー、健康・スポーツ教育科目

専門教育系科目

専門基礎教育科目、専門教育科目、関連専門教育科目

教職教育科目

国際交流科目

コミュニケーションデザイン科目

グローバルコラボレーション科目

5 共通教育系科目及び専門教育系科目の専門基礎教育科目は、全学共通教育科目として全学が協力して開設し、専門教育系科目（専門基礎教育科目は除く。）は、学部が開設する。

6 第4項に定める各授業科目及びその履修方法については、学部規程又は全学共通教育規程で別に定める。

7 前項の規定にかかわらず、教職教育科目、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目及びグローバルコラボレーション科目の開設並びに履修方法等については、別に定める。

(大学院等高度副プログラム等)

第10条の2 前条の教育課程のほか、幅広い分野の素養等を培う教育を行うため、次のプログラムを開設する。

大学院等高度副プログラム

知のジムナスティックス(高度教養プログラム)

2 前項の各プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(授業の方法)

第10条の2の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(単位の計算方法)

第10条の2の3 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、

授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部規程又は全学共通教育規程で定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部規程又は全学共通教育規程で定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して学部規程又は全学共通教育規程で定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めることができる。

(他の大学等における授業科目の履修)

第10条の3 学部が教育上有益と認めるときは、他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。ただし、やむを得ない事情により、外国の大学又は短期大学との協議を行うことが困難な場合は、これを欠くことができる。

2 前項の規定により、学生が他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において修得した単位は、60単位を限度として、卒業に要する単位に算入することができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第10条の3の2 学部が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることのできる単位は、前条第2項により修得した単位と合わせて60単位を限度とする。

(入学前の既修得単位の認定)

第10条の4 学部が教育上有益と認めるときは、本

学に入学者が本学入学前に大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において修得した授業科目の単位（大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学において修得したものとして認定することができる。

2 学部が教育上有益と認めるときは、本学に入学者が本学入学前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとして認定し、又は与えることのできる単位数は、第14条から第15条までの規定により入学又は転学を許可された場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第10条の3第2項及び前条第2項の規定により修得した単位と合わせて60単位を限度とする。

（長期にわたる教育課程の履修）

第10条の5 学部は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第8条第1項に規定する修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

（教育職員の免許状授与の所要資格の取得）

第10条の6 本学における教育職員の免許状授与の所要資格の取得方法は、別に定める。

（試験及び評価）

第10条の7 履修した各授業科目の可否は、当該授業担当教員が実施する筆記試験によって決定する。ただし、試験に代わる方法によることもできる。

2 各授業科目の試験の成績は、100点を満点として次の評価をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

- S (90点以上)
- A (80点以上90点未満)
- B (70点以上80点未満)
- C (60点以上70点未満)
- F (60点未満)

（成績評価基準等の明示等）

第10条の8 本学においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあら

かじめ明示するものとする。

2 本学においては、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第10条の9 本学においては、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（入学）

第11条 入学の時期は、学年の始めとする。

ただし、特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと学部が認めたときは、第2学期の始めに入学させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、医学部医学科の第2年次の入学については、この限りでない。

第12条 入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程により、12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある

と認められた者で、18歳に達したもの

第13条 入学を志願する者に対して選抜試験を行い、総長は、入学を許可すべき者を決定する。

2 選抜試験については、別に定める。

第14条 次の各号のいずれかに該当する者については、前条の規定にかかわらず、学部規程の定めるところにより、入学を許可することがある。

(1) 一の学部を卒業し、更に他の学部又は同一学部の他の学科（文学部、人間科学部及び外国語学部の場合にあっては、同一学科の他の専攻分野）に入学を志願する者

(2) 学部を退学した後、更にその学部に入學を志願する者

(3) 他の大学の学部を卒業し、更に本学の学部に入學を志願する者

2 国立工業教員養成所を卒業した者で、工学部に編入を志願するものは、当分の間、工学部規程の定めるところにより、編入を許可することがある。

3 高等専門学校を卒業した者で、工学部又は基礎工学部に編入を志願するものについては、当該学部規程の定めるところにより、編入を許可することがある。

4 外国において、学校教育における13年（大学における1年以上の在学期間を含む。）の課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者で、工学部又は基礎工学部の第2年次に編入を志願するものについては、当該学部規程の定めるところにより、編入を許可することがある。

第14条の2 次の各号のいずれかに該当する者で、法学部第3年次に入学を志願するものについては、法学部規程の定めるところにより、入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(2) 大学において2年以上在学し、法学部が別に定める所定の単位を修得した者

(3) 外国において学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者（外国において最終の学年を含め2年以上継続して学校教育を受けていた者に限る。）

(4) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

第14条の3 次の各号のいずれかに該当する者で、人間科学部又は経済学部の第3年次に入学を志願するものについては、当該学部規程の定めるところにより、入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(2) 大学において2年以上在学し、当該学部が別に定める所定の単位を修得した者

(3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(4) 外国において、前3号に相当する学校教育における課程を修了した者

第14条の4 外国語学部の第3年次、医学部の第2年次若しくは第3年次又は歯学部の第3年次に入学を志願する者については、当該学部規程の定めるところにより、入学を許可することがある。

第15条 一の学部の学生で他の学部、又は他の大学の学部の学生で本学に転学を志願する者については、学部規程の定めるところにより、転学を許可することがある。

2 前項の規定により、転学を願い出た者は、その際現に在学する学部の長又は当該大学の長の許可書を願書に添えなければならない。

第16条 第14条から前条までの規定により、入学を許可された者であつて、既に1学年以上本学の授業科目を学修したものと同等以上の学力があると認定されたものの修業年数の計算については、既に1学年以上本学において修業したものとみなすことができる。

2 前項の認定に当たり必要があるときは、学部規程の定めるところにより、試験を行う。

第17条 入学を志願する者は、所定の期日までに、入学願書に別に定める書類を添えて、提出しなければならない。

第18条 入学の許可は、別に定める書類の提出、入学科の納付等所定の手続を経た者に対して行う。

第19条 前2条に定める手続その他に虚偽又は不正があつた場合は、入学の許可を取り消すことがある。

第19条の2 次の各号のいずれかに該当する者が、その者に係る納付すべき入学科を所定の期日までに納付しないときは、当該学生はその身分を失う。

(1) 第45条の2第1項の規定により入学科の免除を願い出た者で、免除が不許可となつたもの又

は一部の免除が許可となったもの

(2) 第45条の3第1項の規定による入学料の徴収
猶予の可否を決定された者

(転学)

第20条 他の大学に転学を志願する学生は、学部長
に願い出て、その許可を受けなければならない。

(留学)

第20条の2 第10条の3第1項の規定に基づき、外
国の大学又は短期大学に留学を志願する学生は、
学部長に願い出て、その許可を受けなければなら
ない。

2 前項により留学した期間は、第8条に規定する
修業年限に算入するものとする。

(休学)

第21条 学生が、疾病その他やむを得ない事由によ
り3年以上修学できない場合は、学部長の許可を
得て、その学年の終わりまで、休学することがで
きる。

第22条 疾病のため、修学が不相当と認められる学
生に対しては、学部長は、休学を命ずることがで
きる。

第23条 休学した期間は、在学年数には算入しない。

第24条 休学期間は、4年を超えることができない。
ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科
については、その休学期間は、6年を超えること
ができないものとする。

第25条 休学期間中に、その事由が消滅したときは、
学部長の許可を得て、復学することができる。

(退学)

第26条 学生が退学しようとするときは、事由を詳
記した退学願書を、学部長に提出し、その許可を
受けなければならない。

第27条 削 除

(卒業)

第28条 第8条に規定する期間在学し、所定の授業
科目を履修してその単位数を修得し、かつ、学部
規程に定める試験に合格した者に対し、学部長は、
教授会の議を経て、卒業を認定する。

2 前項の規定にかかわらず、医学部、歯学部及び
薬学部薬学科を除き本学に3年以上在学した者で、
卒業の要件として当該学部の定める単位を優秀な
成績で修得したと認めるものに対し、学部長は、
当該学部規程の定めるところにより、教授会の議

を経て、卒業を認定することができる。

(学士の学位)

第29条 総長は、前条により卒業の認定を受けた者
に対し、学士の学位を授与する。

2 前項の学位には、学部又は学科の区分に従い、
次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。
理学部 理学 (他学部略)

3 本学において学士の学位を授与された者が、そ
の学位の名称を用いるときは、大阪大学と付記す
るものとする。

4 学士の学位記の様式は、別表2のとおりとする。

(除籍)

第30条 削除

第31条 学生が故なく授業を受けないことが長きに
わたるとき、又は成業の見込みがないときは、学
部長は、総長の許可を得て、除籍することができる。

第32条 学生が授業料の納付を怠り、督促を受けて
なお納付しないときは、学部長は、除籍すること
ができる。

(復籍)

第32条の2 前条の規定により除籍となった者から
復籍の願い出があったときは、学部の定めると
ころにより復籍を認めることができる。

(懲戒)

第33条 学生に、本学の規則に違反し又はその本分
に反する行為があるときは、総長の命により学部
長が懲戒する。

2 懲戒は、戒告、停学及び放学とする。

3 停学の期間は、第9条に規定する在学年限に算
入し、第8条に規定する修業年限に算入しない。
ただし、停学の期間が1月未満の場合には、修業
年限に算入することができる。

4 懲戒に関する手続は、別に定める。

第3章 特別聴講学生、科目等履修生、聴 講生及び研究生

(特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生)

第34条 他の大学、短期大学若しくは高等専門学校
又は外国の大学若しくは短期大学との協議に基づ
き、当該大学等に在学中の者を特別聴講学生とし
て入学を許可し、授業科目を履修させることがで
きる。

第34条の2 授業科目中1科目又は複数科目を選んで履修し、単位を修得しようとする者があるときは、学部において選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

第35条 授業科目中1科目又は複数科目を選んで聴講しようとする者があるときは、学部において選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

第36条 学部において特定事項について攻究しようとする者があるときは、学部において選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生の入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の事情があるときはこの限りでない。

3 在学期間は原則として1年とする。ただし、研究上必要と認めるときは在学期間を延長することができる。

第37条 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生又は研究生として入学を志願する者は、願書に別に定める書類を添えて、学部長に提出しなければならない。

第38条 実習及び攻究に要する特別の費用は、科目等履修生及び研究生の負担とする。

第38条の2 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生が次の各号のいずれかに該当するときは、学部長は、除籍することができる。

- (1) 成業の見込みがないと認められるとき。
- (2) 授業料の納付を怠り、督促を受けてなお納付しないとき。

第39条 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生については、この学則に定めるもののほか、学部規程で定める。

第4章 外国人留学生

(外国人留学生)

第40条 外国人で留学のため本学に入学を志願する者は、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

第41条 削除

第42条 第40条の規定のほか、外国人留学生の入学については、別に定める。

第43条 外国人留学生に関してはこの章に定めるもののほか、学生に関する規定を準用する。

第5章 検定料、入学料及び授業料

(検定料の納付)

第44条 入学を志願する者は、願書提出と同時に、検定料を納付しなければならない。

(検定料の免除)

第44条の2 総長が相当の事由があると認めて別に定めた場合は、検定料を免除することができる。

(入学料の納付)

第45条 入学に当たっては、所定の期日までに、入学料を納付しなければならない。

(入学料の免除等)

第45条の2 入学する者(科目等履修生、聴講生又は研究生として入学する者を除く。以下この項及び次条において同じ。)であって、次の各号のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められるものには、別に定めるところにより、入学料の全部又は一部を免除することができる。

(1) 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者(以下この号において「学資負担者」という。)が死亡した場合、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であって、総長が相当と認める事由がある場合

2 第19条の2の規定により学生の身分を失った場合は、別に定めるところにより、当該学生に係る入学料を免除することができる。

3 本学学部合格し、一方の学部に対する入学(編入学、転入学及び聴講生、研究生としての入学を除く。)を行った後に、その入学を辞退し、他方の学部に対する入学手続を行う者については、入学料を免除することができる。

4 前3項に定めるもののほか、総長が相当の事由があると認めて別に定めた場合は、入学料を免除することができる。

第45条の3 入学する者が次の各号のいずれかに該当する場合には、別に定めるところにより、入学料の徴収を猶予することができる。

(1) 経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる場合

(2) 前条第1項第1号に掲げる場合で、納付期限

までに入学料の納付が困難であると認められる場合

(3) その他やむを得ない事情があると総長が認めた場合

2 前項の徴収猶予の期間は、当該入学に係る年度を超えないものとする。

第45条の4 第45条の2第1項又は前条第1項の規定により、入学料の免除又は徴収猶予を受けようとする者は、所定の期日までに必要書類を添えて、総長に願い出るものとする。

2 前項の規定により入学料の免除又は徴収猶予を願い出た者に係る入学料の納付については、免除又は徴収猶予の可否が決定するまでの間、猶予するものとする。

(授業料の納付)

第46条 学生は、授業料を毎年前期（4月から9月まで）及び後期（10月から翌年3月まで）の2期に分けて、所定の期日までに、年額の2分の1ずつ納付しなければならない。ただし、特別の事情がある場合は、月割分納を許可することができる。

2 第1項本文の規定にかかわらず、学生は、前期に係る授業料を納付するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて納付することができる。

3 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生は、各学期に受講する単位数分又は月数分の授業料を第1項（ただし書を除く。）に準じて納付しなければならない。

4 第1項ただし書の月割分納を許可された者は、授業料年額の12分の1に相当する額を毎月納付しなければならない。ただし、夏季及び冬季休業中の授業料については、その開始前に納付させるものとする。

第47条 学生が退学し、除籍又は放学された場合の授業料については、別に定める場合を除くほか、その納期に属する分は徴収する。

2 停学中の学生の授業料については、その期間中も徴収する。

(授業料の免除等)

第48条 学生が休学した場合の授業料は、休学月の翌月（休学する日が月の初日からのときは、その月）から復学当月の前月まで月割をもって免除する。ただし、休学する日が前期にあつては5月以後、後期にあつては11月以後であつて、授業料の

徴収猶予又は月額分納を許可されていない者の当該期の授業料については、この限りでない。

2 第19条の2の規定により学生の身分を失った場合、第32条若しくは第38条の2の規定により学生を除籍した場合、又は死亡若しくは行方不明のため、学籍を除いた場合は、当該学生に係る未納の授業料の全額を免除することができる。

3 第49条の規定により授業料の徴収猶予を許可されている学生が退学した場合は、月割計算により、退学の翌月以降に納付すべき授業料の全額を免除することができる。

第49条 本学の学生（科目等履修生、聴講生及び研究生を除く。）であつて、経済的理由によって授業料の納付が困難であると認めるとき、その他やむを得ない事情があると認めるときは、別に定めるところにより、授業料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

2 前項の徴収猶予の期間は、当該年度を超えないものとする。

第49条の2 前2条に定めるもののほか、総長が相当の事由があると認めて別に定めた場合は、授業料を免除することができる。

第50条 第49条の規定により授業料の免除又は徴収猶予（月割分納の場合を含む。以下同じ。）を受けようとする者は、その事由を具して所定の期日までに総長に願い出るものとする。

2 前項の規定により授業料の免除又は徴収猶予を願い出た者に係る授業料の納付については、免除若しくは徴収猶予の可否が決定するまでの間、猶予するものとする。

第51条 授業料の免除又は徴収猶予を受ける学生は、納期ごとに総長が定める。

第52条 授業料の免除を受けている者がその事由を失ったときは、その当月から当該期末までの授業料を月割をもって納付しなければならない。

2 授業料の徴収猶予を受けている者がその事由を失ったときは、直ちに授業料を納付しなければならない。

(授業料等の不徴収等)

第52条の2 第44条及び第45条の規定にかかわらず、特別聴講学生に係る検定料及び入学料は徴収しない。

2 第46条第3項の規定にかかわらず、特別聴講学

生が国立大学の学生であるとき又は本学と相互に授業料の不徴収を定めた大学間相互単位互換協定（部局間協定を含む。）に基づき授業科目を履修する公立の大学若しくは短期大学若しくは私立の大学若しくは短期大学の学生であるときは、授業料を徴収しない。

- 3 第44条、第45条及び第46条の規定にかかわらず、国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年3月31日文部大臣裁定）に基づき入学する者及び本学と外国の大学等との間において相互に検定料、入学料及び授業料の不徴収を定めた大学間交流協定（部局間交流協定を含む。）に基づき入学する者については、検定料、入学料及び授業料を徴収しない。

（検定料、入学料及び授業料の額）

第53条 第44条の検定料、第45条の入学料及び第46条の授業料の額は、大阪大学学生納付金規程（以下「納付金規程」という。）の定めるところによる。

（納付済の検定料、入学料及び授業料）

第54条 納付済の検定料、入学料及び授業料は返付しない。

- 2 第13条に規定する選抜試験における次の各号のいずれかに該当する者に対しては、前項の規定にかかわらず、その者の申出により、前項の検定料のうち当該各号に掲げる額を返付する。
- (1) 出願書類等による選抜（以下「第1段階目の選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下「第2段階目の選抜」という。）を行う場合において、第1段階目の選抜に合格しなかった者 納付金規程第2条第4項に定める第2段階目の選抜に係る検定料相当額（以下「第2段階目選抜検定料相当額」という。）
- (2) 出願を受け付けた後において、大学入試センター試験の受験科目の不足により出願資格のないことが判明した者 第2段階目選抜検定料相当額
- 3 第46条第2項の規定により前期分の授業料納付の際、後期分授業料を併せて納付した者が、前期末までに休学又は退学した場合は、納付した者の申出により後期分授業料相当額を返付する。

第6章 学寮等

（学寮等）

第55条 本学に、学寮及び外国人留学生を寄宿させる施設（以下「学寮等」という。）を設ける。

- 2 学寮等は、総長の監督に属する。

第56条 学寮等について必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この通則は、公布の日から施行する。

（以下省略）

附 則

- 1 この改正は、平成12年4月1日から施行する。ただし、改正後の第10条の3及び第10条の4の規定は、平成12年度入学者から適用する。

（以下省略）

附 則

この改正は、平成13年1月6日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年12月19日から施行する。

（以下省略）

附 則

この改正は、平成15年2月19日から施行し、平成15年度に入学する者（科目等履修生、聴講生又は、研究生として入学する者を除く。）から適用する。

（以下省略）

附 則（抄）

- 1 この改正は、平成15年10月15日から施行する。ただし、第6条第1項の改正規定は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（抄）

- 1 この改正は、平成16年4月1日から施行する。（以下省略）

附 則

この改正は、平成17年2月15日から施行する。

（以下省略）

附 則

- 1 この改正は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第12条の改正規定は、平成18年2月15日から施行する。
- 2 改正後の第28条第2項の規定は、この改正施行の日前から引き続き本学に在学する者については、適用しない。

- 3 理学部生物学科、薬学部総合薬学科及び工学部電子情報エネルギー工学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

(以下省略)

附 則

- 1 この改正は、平成19年4月1日から施行する。
ただし、第10条の3の2及び第34条の改正規定は、平成19年2月20日から施行する。
- 2 平成19年3月31日現在在学中の者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年4月1日以後において在学者の属する年次に編入学、再入学又は転入学する者については、改正後の第10条第4項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この改正は、平成19年10月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

この改正は、平成19年12月26日から施行する。

附 則

この改正は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成21年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

- 1 この改正は、平成22年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

この改正は、平成22年4月20日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成23年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

この改正は、平成23年6月15日から施行する。

附 則

この改正は、平成24年4月1日から施行する。
ただし、別表2の改正規定は、平成24年2月15日から施行し、平成20年度入学者から適用する。

附 則

この改正は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成26年1月15日から施行する。

附 則

この改正は、平成26年4月1日から施行する。

別表1（略）

別表2（略）

2) 大阪大学大学院学則

第1章 総 則

(趣旨及び目的等)

第1条 この学則は、大阪大学(以下「本学」という。)の大学院の修業年限、教育方法その他の学生の修学上必要な事項について、定めるものとする。

- 2 本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。
- 3 本学大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

(課程及び標準修業年限)

第2条 本学大学院の課程は、博士課程とする。ただし、文学研究科及び医学系研究科においては、修士課程及び博士課程とし、高等司法研究科においては、法科大学院の課程とする。

- 2 修士課程の標準修業年限は、2年とする。
- 3 博士課程の標準修業年限は、5年とする。ただし、医学系研究科医学専攻、歯学研究科又は薬学研究科医療薬学専攻の博士課程(以下「医学・歯学・薬学の博士課程」という。)の標準修業年限は、4年とする。
- 4 博士課程は、これを前期2年の課程(以下「前期課程」という。)及び後期3年の課程(以下「後期課程」という。)に区分する。ただし、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程にあっては、この区分を設けないものとする。
- 5 前項の前期課程は、標準修業年限を2年とし、これを修士課程として取り扱うものとする。
- 6 法科大学院の課程の標準修業年限は、3年とする。
- 7 第3項及び第4項の規定にかかわらず、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科の博士課程は、後期課程のみの博士課程とし、その標準修業年限は、3年とする。
- 8 第10条の規定に基づき、長期にわたる教育課程の履修を認められた者(以下「長期履修学生」と

いう。)は、当該許可された年限を標準修業年限とする。

(研究科、専攻及び課程)

第3条 本学大学院に置く研究科、専攻及びその課程は、次表に掲げるとおりとする。

研究科名	専攻名	課程の別
理学研究科	数学	博士課程
	物理学	
	化学	
	生物科学	
	高分子科学 宇宙地球科学	

(他研究科略)

- 2 前項の高等司法研究科は、学校教育法(昭和22年法律第26号)第99条第2項に定める専門職大学院とする。

(課程の目的)

第4条 修士課程及び前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

第5条 後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

第5条の2 法科大学院の課程は、専門職大学院設置基準に定める専門職学位課程のうち、専ら法曹養成のための教育を行うことを目的とする。

第2章 教育課程

(教育課程の編成方針)

第5条の3 本学大学院(専門職大学院を除く。以下次項、第5条の5第1項、第9条の2、第9条

の4第1項及び第12条において同じ。)においては、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、本学大学院においては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

第5条の4 専門職大学院においては、その教育上の目的を達成するために専攻分野に応じ必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

- 2 専門職大学院においては、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう専攻分野に応じ事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮しなければならない。

(博士課程教育リーディングプログラム)

第5条の5 各研究科において編成する教育課程のほか、本学大学院に、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くための教育を行うため、博士課程教育リーディングプログラムを開設する。

- 2 博士課程教育リーディングプログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(大学院副専攻プログラム等)

第5条の6 前3条に規定する教育課程等のほか、本学に、幅広い分野の素養等を培う教育を行うため、次のプログラムを開設する。

大学院副専攻プログラム

大学院等高度副プログラム

知のジムナスティックス(高度教養プログラム)

- 2 前項の各プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(教育方法等)

第6条 本学大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。ただし、専門職大学院にあっては、研究指導を除くものとする。

- 2 各研究科の専攻別の授業科目の内容及び単位数並びに研究指導の内容並びにこれらの履修方法は、各研究科において別に定める。

- 3 授業の方法及び各授業科目の単位の計算方法については、本学学部学則第10条の2の2及び第10条の2の3の規定を準用する。

- 4 第2項に規定する授業科目のほか、次の授業科目を開設する。

大学院横断型の教育に関する授業科目(以下「大学院横断教育科目」という。)

博士課程教育リーディングプログラムに関する授業科目(以下「リーディングプログラム科目」という。)

- 5 大学院横断教育科目及びリーディングプログラム科目に関し必要な事項は、別に定める。

第7条 本学大学院においては、当該研究科教授会において必要と認めるときは、当該研究科の他の専攻の授業科目、他の研究科の授業科目若しくは前条第4項の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを第15条に規定する単位に充当することができる。

第8条 本学大学院においては、当該研究科教授会において必要と認めるときは、他の大学院の授業科目、外国の大学院の授業科目又は国際連合大学の教育課程における授業科目を履修し、10単位を超えない範囲で、これを第15条に規定する単位に充当することができる。

- 2 前項に規定する授業科目の履修については、本学学部学則第10条の3第1項の規定を準用する。

第8条の2 本学大学院においては、当該研究科教授会において教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院入学前に大学院、外国の大学院又は国際連合大学の教育課程において修得した授業科目の単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学大学院において修得したものとして認定することができる。

- 2 前項の規定により修得したものとして認定することができる単位数は、第24条の2第1項に規定する入学又は第32条第1項に規定する再入学若しくは転学を許可された場合を除き、前条第1項の規定により修得した単位とは別に、10単位を超えない範囲で、第15条に規定する単位に充当することができる。

第8条の3 専門職大学院における他の大学院における授業科目、外国の大学院における授業科目又

は国際連合大学の教育課程における授業科目の履修及び入学前の既修得単位の認定については、当該研究科の定めるところによる。

第9条 本学大学院においては、当該研究科教授会において教育上有益と認めるときは、他の大学院等又は外国の大学院等とあらかじめ協議の上、当該大学院等において必要な研究指導を受けることができる。

2 前項の研究指導を受ける期間は、修士課程及び前期課程の学生にあつては、1年を超えることはできない。

(成績評価基準等の明示等)

第9条の2 本学大学院においては、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学大学院においては、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第9条の3 専門職大学院においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 専門職大学院においては、学修の成果に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第9条の4 本学大学院においては、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

2 専門職大学院においては、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(長期にわたる課程の履修)

第10条 研究科は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第2条第2項、第3項及び第5項に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることがで

きる。

(教育職員の免許状授与の所要資格の取得)

第10条の2 本学大学院における教育職員の免許状授与の所要資格の取得方法は、別に定める。

第3章 課程の修了及び学位の授与

(試験及び評価)

第11条 履修した各授業科目の合否は、筆記試験若しくは口頭試験又は研究報告によって決定する。ただし、試験に代わる方法によることもできる。

2 各授業科目の試験の成績は、100点を満点として次の評価をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

S	(90点以上)
A	(80点以上90点未満)
B	(70点以上80点未満)
C	(60点以上70点未満)
F	(60点未満)

(学位論文の提出等)

第12条 本学大学院においては、在学期間中に学位論文を当該研究科長に提出し、最終試験を受けるものとする。ただし、第15条第1項本文に規定する特定の課題についての研究の成果の審査を受ける場合並びに同条第2項に規定する試験及び審査を受ける場合は、この限りでない。

第13条 医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程を除く博士課程の後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、前条の規定にかかわらず、退学後においても、当該研究科教授会の許可を得て博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

2 医学・歯学・薬学の博士課程に4年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、前条の規定にかかわらず、退学後においても、当該研究科教授会の許可を得て博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

3 生命機能研究科の博士課程に5年以上(第24条の2の規定により入学を許可された者にあつては3年以上)在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、前条の規定にかかわらず、退学後においても、当該研究科教授会の許可を得て博士論文を提出し、最終試験を受ける

ことができる。

(学位論文の審査等)

第14条 学位論文の審査及び最終試験の可否は、当該研究科教授会が、審査委員会を設け、その報告に基づいて決定する。

2 学位論文の審査においては、当該論文の内容に関する発表会を実施するものとする。

3 学位論文の審査に当たって必要があるときは、当該研究科教授会の議を経て、他の大学院等の教員等の協力を得ることができる。

第1項及び前項の規定は、次条第2項に規定する試験及び審査を行う場合について準用する。

(修了要件)

第15条 修士課程又は前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会が特に認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前期課程の修了の要件は、当該博士課程の目的を達成するために必要と認められる場合には、前項に規定する修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することに代えて、次に掲げる試験及び審査に合格することとすることができる。

(1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験

(2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期課程において修得すべきものについての審査

3 前項の規定は、第5条の5に規定する博士課程教育リーディングプログラムを履修する者に限り適用することができる。

4 医学・歯学・薬学の博士課程を除く博士課程の修了の要件は、この課程に5年（修士課程又は前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を

含む。）以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会が特に認めた場合に限り、この課程に3年（修士課程又は前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

5 第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は前期課程を修了した者の医学・歯学・薬学の博士課程を除く博士課程の修了の要件は、この課程に修士課程又は前期課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会が特に認めた場合に限り、この課程に3年（修士課程又は前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

6 医学・歯学・薬学の博士課程の修了の要件は、この課程に4年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会が特に認めた場合に限り、この課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

7 第4項及び第5項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程を除く博士課程への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者が、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程を除く博士課程の後期課程又は第24条の2に規定する生命機能研究科の博士課程第3年次に入学した場合の博士課程の修了の要件は、この課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審

査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会が特に認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

8 前項本文の規定にかかわらず、各研究科において必要と認めるときは、前項の修了要件として、所要の授業科目について、所定の単位を修得することを加えることができる。

9 法科大学院の課程の修了の要件は、この課程に3年以上在学し、研究科の定めるところにより、所要の授業科目について、98単位以上を修得することとする。ただし、在学期間に関しては、法科大学院の課程において必要とされる法学の基礎的な学識を有すると認められる者については、当該研究科教授会が特に認めた場合に限り、この課程に2年以上在学すれば足りるものとする。

(学位の授与)

第16条 前条第1項から第7項までの規定により課程を修了した者には、当該課程に応じて修士又は博士の学位を授与する。

2 前条第9項の規定により法科大学院の課程を修了した者には、法務博士の学位を授与する。

3 第1項に規定するもののほか、生命機能研究科の博士課程において、前条第1項及び第2項に規定する修士課程の修了に相当する要件を満たした者にも、修士の学位を授与することができる。

第17条 前条第1項及び第3項の学位には、研究科の区分に従い、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

研究科名	修士	博士
理学研究科	理学	理学
		(他研究科略)

2 前条第2項の法務博士の学位には、専門職と付記するものとする。

3 第1項の規定にかかわらず、学際領域等の分野を専攻した者で、当該研究科教授会が適当と認めるときは、学術と付記することができる。

第18条 前条に定めるもののほか、修士及び博士の学位については、本学学位規程の定めるところによる。

第19条 削除

第4章 入学、休学、退学、 転学、転科、留学、 再入学及び専攻の変更

(入学資格等)

第20条 修士課程、前期課程、生命機能研究科の博士課程又は法科大学院の課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする研究科において、当該研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの

(9) 大学に3年以上在学した者であって、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの

(10) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を

有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの

- (11) 当該研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

第21条 修士課程、前期課程、生命機能研究科の博士課程又は法科大学院の課程の入学志願者は、入学願書に所定の書類を添えて提出しなければならない。

第22条 修士課程、前期課程又は生命機能研究科の博士課程の入学志願者に対しては、学力検査を行い、志望理由を記載した書類、成績証明書等を総合して、入学を許可すべき者を決定する。

- 2 法科大学院の課程の入学志願者に対しては、高等司法研究科において定めるところにより選考の上、入学を許可すべき者を決定する。

第23条 後期課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位(学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下この条において同じ。)を有する者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者

と同等以上の学力があると認められた者

- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 当該研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

第24条 後期課程の入学志願者に対しては、本学大学院において修士の学位を取得した者については、当該前期課程における学業成績及び修士論文等により、その他の志願者については、各研究科において定めるところにより、それぞれ選考の上、入学を許可すべき者を決定する。

第24条の2 生命機能研究科の博士課程第3年次への入学志願者については、当該研究科において定めるところにより、入学を許可することがある。

- 2 前項の規定により入学した者にかかる修了要件等については、当該研究科において別に定める。

第25条 医学・歯学・薬学の博士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程(以下「医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程」という。)を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする研究科において、当該研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
- (7) 大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修す

る課程に限る。)に4年以上在学した者であつて、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの

- (8) 外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者又は我が国において外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの
- (9) 当該研究科において、個別の入学資格審査により、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

第26条 医学・歯学・薬学の博士課程の入学志願者に対しては、各研究科において定めるところにより選考の上、入学を許可すべき者を決定する。

第27条 第21条の規定は、後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程第3年次の入学志願者に準用する。

(在学年限)

第28条 修士課程及び前期課程には4年、後期課程には5年、医学・歯学・薬学の博士課程及び法科大学院の課程には6年、生命機能研究科の博士課程には7年を超えて在学することはできない。ただし、後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程及び法科大学院の課程に限り、特別の事情があるときは、研究科教授会の議を経て、在学の年限を延長することができる。

- 2 学生が前項に規定する在学年限に達したときは、当該学生はその身分を失う。

(入学の時期等)

第29条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、研究科が特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認めるときは、第2学期の始めに入学させることができる。

2 入学の手續、許可及び許可の取り消し並びに退学及び転学については、本学学部学則の規定を準用する。

3 次の各号のいずれかに該当する者が、その者に係る納付すべき入学料を所定の期日までに納付しないときは、当該学生は、その身分を失う。

(1) 第38条第1項の規定により入学料の免除を願ひ出た者で、免除が不許可となったもの又は一部の免除が許可となったもの

(2) 第38条の2の規定による入学料の徴収猶予の可否を決定された者

(休学)

第30条 休学期間は、修士課程及び前期課程においては2年、後期課程及び法科大学院の課程においては3年、医学・歯学・薬学の博士課程においては4年、生命機能研究科の博士課程においては5年を超えることができない。ただし、特別の事情があるときは、研究科教授会の議を経て、休学期間を延長することができる。

2 前項のほか、休学については本学学部学則の規定を準用する。

(留学)

第31条 外国の大学院に留学を志望する学生は、研究科長に願ひ出て、その許可を受けなければならない。

2 前項により留学した期間は、第2条第2項、第3項及び第5項に規定する修業年限に算入するものとする。

(転科等)

第32条 転科、専攻の変更又は再入学を志願するとき並びに他の大学院及び国際連合大学から転学を志願するときは、選考の上許可することがある。

2 前項の場合において、既に修得した授業科目の単位及び在学期間の認定は、当該研究科教授会において行うものとする。

第5章 除籍、復籍及び懲戒

(除籍等)

第33条 除籍、復籍及び懲戒については、本学学部

学則の規定を準用する。

第6章 検定料、入学料及び授業料

(検定料の納付)

第34条 入学を志願する者は、願書提出と同時に、検定料を納付しなければならない。ただし、本学大学院の修士課程、前期課程又は法科大学院の課程を修了し、引き続き後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程又は生命機能研究科の博士課程第3年次に入学を志願する者については、検定料を徴収しない。

2 前項の規定は、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の大学院修士課程、前期課程又は法科大学院若しくは教職大学院の課程を修了し、引き続き大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科に入学を志願する者について準用する。

(入学料の納付)

第35条 入学に当たっては、所定の期日までに、入学料を納付しなければならない。ただし、本学大学院の修士課程、前期課程又は法科大学院の課程を修了し、引き続き後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程又は生命機能研究科の博士課程第3年次に入学する者については、入学料を徴収しない。

2 前項の規定は、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の大学院修士課程、前期課程又は法科大学院若しくは教職大学院の課程を修了し、引き続き大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科に入学する者について準用する。

(授業料の納付)

第36条 大学院学生は、授業料を毎年前期（4月から9月まで）及び後期（10月から翌年3月まで）の2期に分けて、所定の期日までに、年額の2分の1ずつ納付しなければならない。

2 授業料の納付及び月割分納等については、本学学部学則の規定を準用する。

(検定料、入学料及び授業料の額)

第37条 第34条の検定料、第35条の入学料及び第36条の授業料の額は、大阪大学学生納付金規程（以下「納付金規程」という。）の定めるところによる。

(検定料の免除)

第37条の2 検定料の免除については、本学学部学

則の規定を準用する。

(入学料の免除等)

第38条 本学大学院に入学する者（科目等履修生、聴講生又は研究生として入学する者を除く。以下この項において同じ。）であって、経済的理由によって入学料の納付が困難であると認められるもの及びこれに該当しない者であっても、次の各号のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められるものには、別に定めるところにより、入学料の全部又は一部を免除することができる。

(1) 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下この号において「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であって、総長が相当と認める事由がある場合

2 第29条第3項の規定により学生の身分を失った場合は、当該学生に係る入学料の全部又は一部を免除することができる。

第38条の2 前条に規定するもののほか、入学料の免除及び徴収猶予については、本学学部学則の規定を準用する。

(授業料の免除等)

第39条 授業料の免除及び徴収猶予については、本学学部学則の規定を準用する。

(納付済の検定料、入学料及び授業料)

第39条の2 納付済の検定料、入学料及び授業料は返付しない。

2 第22条第2項に規定する法科大学院の課程の入学志願者に対する選考において、出願書類等による選抜（以下「第1段階目の選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下「第2段階目の選抜」という。）を行う場合は、前項の規定にかかわらず、第1段階目の選抜に合格しなかった者に対し、当該者の申出により、前項の検定料のうち、納付金規程第2条第5項において定める第2段階目の選抜に係る検定料相当額を返付する。

3 第36条第2項の規定により、学部学則第46条第2項の規定を準用して前期分の授業料納付の際、後期分授業料を併せて納付した者が、前期末まで

に休学又は退学した場合は、納付した者の申出により後期分授業料相当額を返付する。

第7章 収容定員

(収容定員)

第40条 本学大学院の収容定員は、別表のとおりとする。

第8章 特別研究学生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人留学生

(特別研究学生等)

第41条 本学大学院に特別研究学生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人留学生の制度を置く。

2 他の大学院、外国の大学院又は国際連合大学の教育課程に在学する学生で、本学大学院又は本学の研究所（各附置研究所、各学内共同教育研究施設、各全国共同利用施設及び免疫学フロンティア研究センターをいう。）において研究指導を受けようとするものがあるときは、これを特別研究学生として入学を許可することができる。

3 特別研究学生の授業料及びその納付については、本学学部学則の研究生に関する規定を準用する。ただし、特別研究学生が国立大学の大学院の学生であるとき又は本学と相互に授業料の不徴収を定めた大学間特別研究学生交流協定（部局間交流協定を含む。）に基づき研究指導を受ける公立若しくは私立の大学の大学院の学生であるときは、授業料を徴収しない。

4 特別研究学生に係る検定料及び入学料は徴収しない。

5 特別研究学生の除籍については、本学学部学則の研究生に関する規定を準用する。

6 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生については、本学学部学則の特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生に関する規定を準用する。

7 外国人留学生については、本学学部学則第40条及び第42条の規定並びに大学院学生に関する規定を準用する。

8 第3項本文、第6項及び第7項の規定にかかわらず、国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年

3月31日文部大臣裁定）に基づき入学する者及び本学と外国の大学等との間において相互に検定料、入学料及び授業料の不徴収を定めた大学間交流協定（部局間交流協定を含む。）に基づき入学する者については、検定料、入学料及び授業料を徴収しない。

(大学院科目等履修生高度プログラム)

第41条の2 本学に、学校教育法第105条に規定する特別の課程として、大学院科目等履修生高度プログラムを開設する。

2 大学院科目等履修生高度プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

第9章 学年、学期及び休業日

(学年等)

第42条 学年、学期及び休業日については、本学学部学則の規定を準用する。

第10章 教員組織

(教員組織)

第43条 本学大学院を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師及び助教とする。

2 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所の教育研究は、本学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の協力により実施する。

第11章 研究科委員会等

(研究科委員会等)

第44条 研究科教授会の審議事項のうち、特定の事項について審議を行うため、当該研究科に研究科委員会等を置くことができる。

2 研究科委員会等の組織は、当該研究科の定めるところによる。

附 則

(略)

附 則

1 この改正は、平成13年4月1日から施工する。
(以下省略)

附 則

1 この改正は、平成14年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

- この改正は、平成14年5月15日から施行する。
附 則
この改正は、平成15年2月19日から施行し、平成15年度に入学する者（科目等履修生、聴講生又は、研究生として入学する者を除く。）から適用する。
(以下省略)
附 則 (抄)
- 1 この改正は、平成15年10月15日から施行する。
(以下省略)
附 則
この改正は、平成16年4月1日から施行する。
(以下省略)
附 則
- 1 この改正は、平成17年2月15日から施行する。
ただし、第3条第1項及び別表の改正規定は、平成17年4月1日から施行する。
(以下省略)
附 則
この改正は、平成18年4月1日から施行する。
ただし、第20条の改正規定は、平成18年2月15日から施行する。
(以下省略)
附 則
この改正は、平成19年4月1日から施行する。
(以下省略)
附 則
- 1 この改正は、平成19年10月1日から施行する。
ただし、別表の改正規定は、平成20年4月1日から施行する
(以下省略)
附 則
この改正は、平成19年12月26日から施行する。
附 則
この改正は、平成20年4月1日から施行する。
附 則
この改正は、平成21年4月1日から施行する。
附 則
- 1 この改正は、平成22年4月1日から施行する。
(以下省略)
附 則
この改正は、平成22年4月20日から施行する。
附 則
- 1 この改正は、平成23年4月1日から施行する。
(以下省略)
附 則
この改正は、平成23年6月15日から施行する。
附 則
- 1 この改正は、平成24年4月1日から施行する。
(以下省略)
附 則
この改正は、平成24年5月16日から施行する。
附 則
この改正は、平成24年5月28日から施行し、平成24年度入学者から適用する。
附 則
この改正は、平成24年7月6日から施行する。
附 則
この改正は、平成24年7月18日から施行する。
附 則
- 1 この改正は、平成25年4月1日から施行する。
2 平成25年3月31日現在医学系研究科の修士課程に在学中の者については、改正後の第17条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附 則
この改正は、平成25年12月18日から施行する。
附 則
- 1 この改正は、平成26年4月1日から施行する。
(以下省略)
別表 (大学院収容定員表) 省略

3) 大阪大学大学院理学研究科規程

(趣旨及び目的)

第1条 この規程は、大阪大学大学院学則及び大阪大学学位規程に基づき、大阪大学大学院理学研究科（以下「本研究科」という。）における必要な事項を定めるものとする。

2 本研究科は、柔軟な発想と論理的思考に基づいた問題設定及び課題探求の能力を養うことにより、自然科学への知的好奇心や真理探究に喜びを感じる感性を備えた創造性豊かな研究者及び社会のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる人材を養成することを目的とする。

(教育課程)

第2条 本研究科の教育課程は、研究指導及び授業科目の授業によって編成し、各専攻別の授業科目及びその単位数は、別表1及び別表2のとおりとする。

2 前項に規定する授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

- (1) 講義は、15時間をもって1単位とする。
- (2) 演習は、30時間をもって1単位とする。
- (3) 実習は、45時間をもって1単位とする。

(指導教員)

第3条 学生には、指導教員を定める。

2 指導教員は、専攻担当の教授とする。ただし、必要があるときは、研究科委員会が認めた准教授又は専任講師をもって代えることができる。

(履修計画)

第4条 学生は、指導教員の指示を受けて、履修する授業科目等について、履修計画を毎年指定する期日までに届け出なければならない。

(前期課程の履修方法)

第5条 前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、各専攻が定める履修方法に基づき、別表1に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、国際物理特別コース及び統合理学特別コースに入学を許可された学生は、必要な研究指導を受けるほか、指導教員の指示に従い、別表2に定める授業科目の中から講義

により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めたときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

3 学生は、大学院横断教育科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。

4 学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、リーディング科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。

5 学生は、他の専攻又は他の研究科の授業科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。

6 研究指導については、研究概要を毎年指定する期日までに研究科長に報告しなければならない。

(後期課程の履修方法)

第6条 後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、各専攻が定める履修方法に基づき、別表1に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、国際物理特別コース及び統合理学特別コースに入学を許可された学生は、必要な研究指導を受けるほか、指導教員の指示に従い、別表2に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めたときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

3 特別講義は、随時実施されるもの及び本研究科の前期課程又は他の研究科の授業科目のうち、指導教員が履修を指示したものとする。

4 学生は、大学院横断教育科目を履修することができる。

5 学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、リーディング科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。

6 研究指導については、研究概要を毎年指定する期日までに研究科長に報告しなければならない。

(長期にわたる課程の履修)

第6条の2 研究科長は、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修

了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 前項の規定により計画的な履修を許可された学生に関し必要な事項は、別に定める。

(履修認定)

第7条 履修認定は、試験により授業科目担当教員が行い、これに合格した学生に対しては、当該授業科目所定の単位を与える。

- 2 試験の期日は、授業が終了した際、授業科目担当教員が適宜定める。

(修士論文及び最終試験)

第8条 修士論文は、所定の用紙により2通作成し、指定する期日までに提出するとともに、所定の様式によりその審査と最終試験の受験とを併せて申請しなければならない。

- 2 提出された論文の審査及び最終試験は、3名以上の審査委員により行うものとする。

(博士論文及び最終試験)

第9条 後期課程の学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、指定する期日又はその時期以後は随時に博士論文を提出するとともに、所定の様式によりその審査と最終試験の受験とを併せて申請することができる。

- 2 後期課程に3年以上在学し、所定の教育課程の履修を終えて退学した者が、別に定める期間内に博士論文を提出する場合についても前項同様とする。

- 3 前2項の申請に当たっては、提出する論文に、その目録、内容の要旨（論文が邦文によるときは欧文の梗概を付する。）及び履歴書を添付しなければならない。

- 4 提出された論文の審査及び最終試験は、3名以上の審査委員により行うものとする。

(最終試験の方法)

第10条 最終試験は、提出された論文の審査後において、審査委員会が適宜日時を定めて行う。その方法は、提出論文を中心として、それに関連ある科目について口頭試問又は筆答試問により行うものとする。ただし、公開研究業績発表会における当該申請者の発表をもってこれに代えることができる。

(他の大学院又は外国の大学院の教育課程の履修)

第11条 教育上有益と認められる場合には、他の大

学院又は外国の大学院の授業科目を第2条に規定する各専攻の授業科目として履修することができる。

- 2 前項のほか、他の大学院等又は外国の大学院等で研究指導を受けることができる。ただし、研究指導を受ける期間は、前期課程の学生にあっては、1年を超えることはできない。

- 3 前2項の規定による履修を志願する学生は、あらかじめ所定の手続によって申請し、許可を得なければならない。

第12条 前条の規定により、他の大学院等又は外国の大学院等において修得した単位等については、審査の上、第5条及び第6条に規定する授業科目の単位又は研究指導として認定することができる。

- 2 前項の規定により認定できる単位数は、10単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第13条 教育上有益と認められる場合には、本研究科入学前に大学院において修得した授業科目の単位（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）は、審査の上、前条の規定により認定する単位とは別に、10単位を超えない範囲で、第5条及び第6条に規定する授業科目の単位として認定することがある。

(特別研究学生及び特別聴講学生)

第14条 本研究科において研究指導を受けようとする他の大学院に在学中の者又は本研究科において授業科目を履修しようとする他の大学院若しくは外国の大学院に在学中の者は、所定の手続に従い研究科長に願い出るものとする。

- 2 前項による志願者については、選考の上、研究指導を受ける者を特別研究学生として、また、授業科目を履修する者を特別聴講学生として、入学を許可することがある。

第15条 特別研究学生の在学期間は、1年とする。ただし、必要により更に在学を希望する者は、1年ごとに期間の延長を願い出て、許可を得なければならない。

- 2 特別聴講学生の在学期間は、履修する授業科目所定の授業期間とする。

第16条 特別聴講学生の履修認定、成績及び試験については、第7条の規定を準用する。

(科目等履修生)

第17条 科目等履修生は、正規学生の学修に差し支えない限り、次の各号のいずれかに該当する者について選考の上、入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者
 - (2) その他本研究科において相当と認める者
- 2 科目等履修生の入学手続、入学時期及び在学期間は、本学理学部規程第25条及び第26条の規定を準用する。
- 3 科目等履修生の履修認定、成績及び試験については、第7条の規定を準用する。
- 4 科目等履修生で単位を修得した者には、証明書を交付することができる。

(研究生)

第18条 研究生は、設備に差し支えない限り、次の各号のいずれかに該当する者について選考の上、入学を許可する。

- (1) 修士の学位を有する者
 - (2) 本研究科において前号と同等以上の学力があると認める者
- 2 研究生の入学手続、入学時期、指導教員、在学期間、攻究報告及び攻究証明については、本学理学部規程第15条から第20条までの規定を準用する。

(規格外事項の処理)

第19条 この規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、研究科委員会が定める。

附 則

(略)

附 則

- 1 この改正は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
素粒子物理学序説 (2単位)	素粒子物理学序論A (2単位)
素粒子・核反応学 (2単位)	原子核反応学 (2単位)

加速器・計測学 (2単位)	加速器物理学 (2単位)
同位体宇宙地球科学I (2単位)	同位体宇宙地球科学 (2単位)
同位体宇宙地球科学II (2単位)	地球内部構造論 (2単位)
物質構造学 (2単位)	極限物質構造学 (2単位)

附 則

- 1 この改正は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
磁性物理学序説 (2単位)	物性物理学3序説 (2単位)

附 則

- 1 この改正は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
物性物理学3序説 (2単位)	物性物理学序説 (2単位)
原子核理論I (2単位)	原子核理論 (2単位)
原子核理論特論I (2単位)	原子核理論特論 (2単位)
生体機能物質学 セミナーII (9単位)	生体機能物質学 セミナー (9単位)
蛋白質反応機構学 セミナーII (9単位)	蛋白質反応機構学 セミナー (9単位)
蛋白質生理機能学 セミナーII (9単位)	蛋白質生理機能学 セミナー (9単位)
蛋白質細胞生物学 セミナーII (9単位)	蛋白質細胞生物学 セミナー (9単位)
代謝調節機構学 セミナーII (9単位)	代謝調節機構学 セミナー (9単位)
遺伝子機能学 セミナーII (9単位)	遺伝子機能学 セミナー (9単位)
情報伝達機構学 セミナーII (9単位)	情報伝達機構学 セミナー (9単位)
遺伝子情報学 セミナーII (9単位)	遺伝子情報学 セミナー (9単位)
糖鎖生化学 セミナーII (9単位)	糖鎖生化学 セミナー (9単位)

極限生物学 セミナーII (9単位)	極限生物学 セミナー (9単位)
分子神経生物学 セミナーII (9単位)	分子神経生物学 セミナー (9単位)
蛋白質化学 セミナーII (9単位)	蛋白質化学 セミナー (9単位)
蛋白質物理化学 セミナーII (9単位)	蛋白質物理化学 セミナー (9単位)
構造分子生物学 セミナーII (9単位)	構造分子生物学 セミナー (9単位)
生体膜分子生化学 セミナーII (9単位)	生体膜分子生化学 セミナー (9単位)
細胞機能構造学 セミナーII (9単位)	細胞機能構造学 セミナー (9単位)
代謝機能生物学 セミナーII (9単位)	代謝機能生物学 セミナー (9単位)
生命誌学セミナーII (9単位)	生命誌学セミナー (9単位)

附 則

- この改正は、平成16年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- この改正は、平成17年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

この改正は、平成17年12月16日から施行する。

附 則

- この改正は、平成18年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- この改正は、平成19年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- この改正は、平成20年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得

単位数に算入するものとする。

附 則

- この改正は、平成21年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- この改正は、平成22年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

この改正は、平成22年10月1日から施行する。

附 則

- この改正は、平成23年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。
- 平成23年3月31日現在統合理学特別コースに在学する者については、改正後の別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- この改正は、平成23年10月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表2の規定にかかわらず、第5条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- この改正は、平成24年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- この改正は、平成25年4月1日から施行する。
- この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項及び第2項並びに第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

数学専攻

(前期課程)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
代数学概論I	2		大域数理学特論	2	
代数学概論II	2		複素多様体特論	2	
代数幾何学概論I	2		非線形数理学特論	2	
代数幾何学概論II	2		力学系特論	2	
整数論概論I	2		実験数学特論	2	
整数論概論II	2		数式処理特論	2	
表現論概論	2		組合せ論特論	2	
幾何学概論I	2		応用数理学特論I	2	
幾何学概論II	2		応用数理学特論II	2	
微分幾何学概論I	2		数理物理学特論	2	
微分幾何学概論II	2		現代数理学特論I	2	
位相幾何学概論I	2		現代数理学特論II	2	
位相幾何学概論II	2		複雑系特論	2	
複素幾何学概論I	2		数物アドバンスコア1	2	
複素幾何学概論II	2		数物アドバンスコア2	2	
解析学概論I	2		数理生物学特論	2	
解析学概論II	2		シミュレーション理学特論	2	
関数解析学概論	2		科学技術論A	2	
微分方程式概論I	2		科学技術論B	2	
微分方程式概論II	2		実践科学英語	2	
確率論概論I	2		科学英語基礎	1	
確率論概論II	2		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1	
代数解析学概論	2		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1	
大域数理学概論I	2		リスク管理とコンプライアンス	2	
大域数理学概論II	2		原子核物理基礎1	1	
非線形数理学概論	2		原子核物理基礎2	1	
力学系概論	2		放射線取扱基礎	1	
統計・情報数学概論	2		放射線計測学概論1	1	
実験数学概論I	2		放射線計測学概論2	1	
実験数学概論II	2		先端機器制御学	2	
数式処理概論	2		分光計測学	2	
組合せ論概論	2		放射線計測基礎1	1	講義・実習
応用数理学概論I	2		放射線計測基礎2	1	講義・実習
応用数理学概論II	2		放射線計測応用	2	講義・実習
数理物理学概論I	2		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
数理物理学概論II	2		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
現代数理学概論	2		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
複雑系概論	2		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
数理生物学概論	2		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
数理工学概論	2		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
代数学特論	2		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
代数幾何学特論	2		ナノフォトニクス学	1	実習
整数論特論	2		代数学特論IIIA	2	
表現論特論	2		代数学特論IIIB	2	
幾何学特論	2		代数学特論IVA	2	
微分幾何学特論	2		代数学特論IVB	2	
位相幾何学特論	2		幾何学特論IIIA	2	
複素幾何学特論	2		幾何学特論IIIB	2	
解析学特論	2		幾何学特論IVA	2	
関数解析学特論	2		幾何学特論IVB	2	
微分方程式特論	2		解析学特論IIIA	2	
確率論特論	2		解析学特論IIIB	2	
代数解析学特論	2		解析学特論IVA	2	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
解析学特論IVB	2		数学特別講義VIIA	1	
大域数理学特論IIIA	2		現代数理学セミナー	9	
大域数理学特論IIIB	2		数学特別講義VIIIB	1	
大域数理学特論IVIA	2		数学特別講義VIIIA	1	
大域数理学特論IVB	2		数学特別講義VIIIB	1	
実験数学特論IIIA	2		数学特別講義 IXA	1	
実験数学特論IIIB	2		数学特別講義 IXB	1	
実験数学特論IVIA	2		数学特別講義 XA	1	
実験数学特論IVB	2		数学特別講義 XB	1	
現代数理学特論IIIA	2		代数学基礎セミナーI	9	
現代数理学特論IVIA	2		代数学基礎セミナーII	9	
保険数理学特論IA	2		幾何学基礎セミナーI	9	
保険数理学特論IB	2		幾何学基礎セミナーII	9	
保険数理学特論IC	2		解析学基礎セミナーI	9	
保険数理学特論ID	2		解析学基礎セミナーII	9	
保険数理学特論IIA	2		大域数理学基礎セミナーI	9	
保険数理学特論IIB	2		大域数理学基礎セミナーII	9	
保険数理学特論IIC	2		実験数学基礎セミナーI	9	
保険数理学特論IID	2		実験数学基礎セミナーII	9	
保険数理学特論IIIA	2		応用数理学基礎セミナーI	9	
保険数理学特論IIIB	2		応用数理学基礎セミナーII	9	
保険数理学特論IVIA	2		現代数理学基礎セミナー	9	
保険数理学特論IVB	2		代数学セミナーI	9	
数学特別講義IA	1		代数学セミナーII	9	
数学特別講義IB	1		幾何学セミナーI	9	
数学特別講義IIA	1		幾何学セミナーII	9	
数学特別講義IIB	1		解析学セミナーI	9	
数学特別講義IIIA	1		解析学セミナーII	9	
数学特別講義IIIB	1		大域数理学セミナーI	9	
数学特別講義IVIA	1		大域数理学セミナーII	9	
数学特別講義IVB	1		実験数学セミナーI	9	
数学特別講義VA	1		実験数学セミナーII	9	
数学特別講義VB	1		応用数理学セミナーI	9	
数学特別講義VIA	1		応用数理学セミナーII	9	
数学特別講義VIB	1		現代数理学セミナー	9	

(後期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
特別講義IA	1		放射線計測基礎1	1	講義・実習
特別講義IB	1		放射線計測基礎2	1	講義・実習
特別講義IIA	1		放射線計測応用	2	講義・実習
特別講義IIB	1		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
特別講義IIIA	1		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
特別講義IIIB	1		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
特別講義IVA	1		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
特別講義IVB	1		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
特別講義VA	1		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
特別講義VB	1		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
特別講義VIA	1		ナノフォトニクス学	1	実習
特別講義VIB	1		産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
特別講義VIIA	1		高度学際萌芽研究訓練	5	
特別講義VIIB	1		代数学特別セミナー1	9	
特別講義VIIIA	1		代数学特別セミナー2	9	
特別講義VIIBB	1		代数学特別セミナー3	9	
特別講義IXA	1		幾何学特別セミナー1	9	
特別講義IXB	1		幾何学特別セミナー2	9	
特別講義XA	1		幾何学特別セミナー3	9	
特別講義XB	1		解析学特別セミナー1	9	
科学技術論A	2		解析学特別セミナー2	9	
科学技術論B	2		解析学特別セミナー3	9	
実践科学英語	2		応用数学特別セミナー1	9	
科学英語基礎	1		応用数学特別セミナー2	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		応用数学特別セミナー3	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		大域数学特別セミナー1	9	
リスク管理とコンプライアンス	2		大域数学特別セミナー2	9	
原子核物理基礎1	1		大域数学特別セミナー3	9	
原子核物理基礎2	1		実験数学特別セミナー1	9	
放射線取扱基礎	1		実験数学特別セミナー2	9	
放射線計測学概論1	1		実験数学特別セミナー3	9	
放射線計測学概論2	1		現代数学特別セミナー1	9	
先端機器制御学	2		現代数学特別セミナー2	9	
分光計測学	2		現代数学特別セミナー3	9	

物理学専攻

(前期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
場の理論序説	2		量子多体制御物理学	2	
原子核理論序説	2		強磁場物理学	2	
散乱理論	2		レーザー物理学	2	
一般相対性理論	2		ナノ構造物性物理学	2	
素粒子物理学序論A	2		強相関係物理学	2	
素粒子物理学序論B	2		重い電子系の物理	2	
原子核物理学序論	2		極限物質創成学	2	
固体物理学概論1	2		数物アドバンスコア1	2	
固体物理学概論2	2		数物アドバンスコア2	2	
固体物理学概論3	2		Field Theory	2	
光物性物理学	2		Nuclear and Particle Physics	2	
放射光物理学	2		General Relativity	2	
極限光物理学	2		Mathematics for Physics	2	
加速器科学	2		Electrodynamics	2	
自由電子レーザー学	2		Fluid and Plasma Physics	2	
複雑系物理学	2		Quantum Mechanics	2	
相転移論	2		科学技術論A	2	
ニュートリノ物理学	2		科学技術論B	2	
非線形物理学	2		実践科学英語	2	
原子核反応論	2		科学英語基礎	1	
素粒子物理学I	2		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1	
素粒子物理学II	2		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1	
場の理論I	2		リスク管理とコンプライアンス	2	
場の理論II	2		原子核物理基礎1	1	
原子核理論	2		原子核物理基礎2	1	
物性理論I	2		放射線取扱基礎	1	
物性理論II	2		放射線計測学概論1	1	
固体電子論I	2		放射線計測学概論2	1	
固体電子論II	2		先端機器制御学	2	
量子多体系の物理	2		分光計測学	2	
素粒子物理学特論I	2		放射線計測基礎1	1	講義・実習
素粒子物理学特論II	2		放射線計測基礎2	1	講義・実習
原子核理論特論I	2		放射線計測応用	2	講義・実習
原子核理論特論II	2		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
物性理論特論I	2		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
物性理論特論II	2		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
高エネルギー物理学I	2		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
高エネルギー物理学II	2		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
原子核構造学	2		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
加速器物理学	2		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
放射線計測学	2		ナノフォトニクス学	1	実習
高エネルギー物理学特論I	2		素粒子論半期セミナーI	4.5	
高エネルギー物理学特論II	2		素粒子論半期セミナーII	4.5	
素粒子・核分光特論	2		場の理論半期セミナーI	4.5	
原子核物理学特論I	2		場の理論半期セミナーII	4.5	
原子核物理学特論II	2		原子核理論半期セミナーI	4.5	
ハドロン多体系物理学特論	2		原子核理論半期セミナーII	4.5	
半導体物理学	2		多体問題半期セミナーI	4.5	
超伝導物理学	2		多体問題半期セミナーII	4.5	
量子分光学	2		物性理論半期セミナーI	4.5	
シンクロトロン分光学	2		物性理論半期セミナーII	4.5	
荷電粒子光学概論	2		数理物理学半期セミナー	4.5	
孤立系イオン物理学	2		高エネルギー物理学半期セミナーI	4.5	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
高エネルギー物理学半期セミナーII	4.5		放射光半期セミナー	4.5	
クォーク核物理学半期セミナー	4.5		メゾスコピック物理半期セミナー	4.5	
原子核構造半期セミナーI	4.5		質量分析物理半期セミナー	4.5	
原子核構造半期セミナーII	4.5		超伝導半期セミナー	4.5	
原子核反応半期セミナー	4.5		ナノ構造物性半期セミナー	4.5	
加速器科学半期セミナー	4.5		半導体半期セミナー	4.5	
核反応計測学半期セミナー	4.5		量子物性半期セミナー	4.5	
レプトン核科学半期セミナー	4.5		光物性半期セミナー	4.5	
高エネルギー密度物理半期セミナー	4.5		強磁場物理半期セミナー	4.5	

(後期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
特別講義AI	1		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
特別講義AII	1		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
特別講義AIII	1		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
特別講義AIV	1		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
特別講義AV	1		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
特別講義BI	1		ナノフォニクス学	1	実習
特別講義BII	1		産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
特別講義BIII	1		高度学際萌芽研究訓練	5	
特別講義BIV	1		場の理論特別セミナー	9	
特別講義BV	1		場の数理論特別セミナー	9	
特別講義CI	1		素粒子論特別セミナー	9	
特別講義CII	1		素粒子論的宇宙論特別セミナー	9	
特別講義CIII	1		原子核理論特別セミナー	9	
特別講義CIV	1		多体問題特別セミナー	9	
特別講義CV	1		物性理論特別セミナーI	9	
Topical Seminar I	1		物性理論特別セミナーII	9	
Topical Seminar II	1		統計物理学特別セミナー	9	
Topical Seminar III	1		数理論物理学特別セミナー	9	
Topical Seminar IV	1		高エネルギー物理学特別セミナーI	9	
科学技術論A	2		高エネルギー物理学特別セミナーII	9	
科学技術論B	2		原子核構造特別セミナーI	9	
実践科学英語	2		原子核構造特別セミナーII	9	
科学英語基礎	1		バリオン核分光学特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		核反応計測学特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		クォーク核物理学特別セミナー	9	
リスク管理とコンプライアンス	2		原子核反応特別セミナー	9	
原子核物理基礎1	1		加速器科学特別セミナー	9	
原子核物理基礎2	1		高エネルギー密度物理特別セミナー	9	
放射線取扱基礎	1		メゾスコピック物理特別セミナー	9	
放射線計測学概論1	1		強磁場物理特別セミナー	9	
放射線計測学概論2	1		ナノ構造物性特別セミナー	9	
先端機器制御学	2		半導体特別セミナー	9	
分光計測学	2		超伝導特別セミナー	9	
放射線計測基礎1	1	講義・実習	質量分析物理特別セミナー	9	
放射線計測基礎2	1	講義・実習	量子物性特別セミナー	9	
放射線計測応用	2	講義・実習	光物性特別セミナー	9	
先端的研究法:質量分析	2	講義・実習	放射光特別セミナー	9	
先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習			

化学専攻

(前期課程)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
大学院無機化学	2		生物科学特論F10	0.5	
大学院物理化学	2		生物科学特論F11	0.5	
大学院有機化学	2		生物科学特論F12	0.5	
生物科学特論A1	0.5		生物科学特論G1	0.5	
生物科学特論A2	0.5		生物科学特論G2	0.5	
生物科学特論A3	0.5		生物科学特論G3	0.5	
生物科学特論A4	0.5		生物科学特論G4	0.5	
生物科学特論B1	0.5		生物科学特論G5	0.5	
生物科学特論B2	0.5		生物科学特論G6	0.5	
生物科学特論B3	0.5		生物科学特論G7	0.5	
生物科学特論B4	0.5		生物科学特論G8	0.5	
生物科学特論B5	0.5		生物科学特論G9	0.5	
生物科学特論B6	0.5		生物科学特論H1	0.5	
生物科学特論B7	0.5		生物科学特論H2	0.5	
生物科学特論B8	0.5		生物科学特論H3	0.5	
生物科学特論B9	0.5		生物科学特論H4	0.5	
生物科学特論C1	0.5		生物科学特論J1	0.5	
生物科学特論C2	0.5		生物科学特論J2	0.5	
生物科学特論C3	0.5		生物科学特論J3	0.5	
生物科学特論C4	0.5		高分子有機化学	2	
生物科学特論C5	0.5		高分子物理化学	2	
生物科学特論C6	0.5		高分子凝集科学	2	
生物科学特論C7	0.5		Current Topics I	1	
生物科学特論C8	0.5		Current Topics II	1	
生物科学特論D1	0.5		Current Topics III	1	
生物科学特論D2	0.5		Current Topics IV	1	
生物科学特論D3	0.5		Current Topics V	1	
生物科学特論D4	0.5		Current Topics VI	1	
生物科学特論D5	0.5		Current Topics VII	1	
生物科学特論D6	0.5		Current Topics VIII	1	
生物科学特論D7	0.5		Current Topics IX	1	
生物科学特論D8	0.5		Current Topics X	1	
生物科学特論D9	0.5		生物無機化学(I)	1	
生物科学特論D10	0.5		分離化学(I)	1	
生物科学特論D11	0.5		物性錯体化学1(I)	1	
生物科学特論D12	0.5		物性錯体化学2(I)	1	
生物科学特論D13	0.5		固体電子物性	2	
生物科学特論E1	0.5		無機分光化学概論	2	
生物科学特論E2	0.5		構造錯体化学(I)	1	
生物科学特論E3	0.5		核化学1(I)	1	
生物科学特論E4	0.5		核化学2(I)	1	
生物科学特論E5	0.5		量子化学(I)	1	
生物科学特論E6	0.5		核磁気共鳴分光学(I)	1	
生物科学特論E7	0.5		化学反応論(I)	1	
生物科学特論F1	0.5		生物物理化学(I)	1	
生物科学特論F2	0.5		凝縮系物理化学(I)	1	
生物科学特論F3	0.5		表面化学(I)	1	
生物科学特論F4	0.5		構造熱科学(I)	1	
生物科学特論F5	0.5		構造物性化学(I)	1	
生物科学特論F6	0.5		半導体化学(I)	1	
生物科学特論F7	0.5		生体分子動的解析学(I)	1	
生物科学特論F8	0.5		天然物有機化学(I)	1	
生物科学特論F9	0.5		有機生物化学(I)	1	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
ゲノム化学(I)	1		天然物有機化学特論	1	
蛋白質分子化学(I)	1		超分子化学特論	1	
生体分子化学(I)	1		複素環有機化学特論	1	
有機分光化学(I)	1		構造有機化学特論	1	
触媒化学(I)	1		反応有機化学特論	1	
物性有機化学(I)	1		物性有機化学特論	1	
構造有機化学(I)	1		有機合成化学特論	1	
合成有機化学(I)	1		有機生物化学特論	1	
有機金属化学概論	2		機能生物化学特論	1	
科学技術論A	2		天然物化学特論	1	
科学技術論B	2		有機立体化学特論	1	
実践科学英語	2		有機金属化学特論	1	
科学英語基礎	1		生体分子化学特論	1	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		機能性分子化学特論	1	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		蛋白質分子化学特論	1	
リスク管理とコンプライアンス	2		蛋白質機能学特論	1	
原子核物理基礎1	1		生体システム化学特論	1	
原子核物理基礎2	1		プロテオミクス分析化学特論	1	
放射線取扱基礎	1		合成有機化学特論	1	
放射線計測学概論1	1		サイエンスコア1	1	演習
放射線計測学概論2	1		サイエンスコア2	1	演習
先端機器制御学	2		インタラクティブセミナーI	1	
分光計測学	2		インタラクティブセミナーII	1	
放射線計測基礎1	1	講義・実習	生物無機化学半期セミナーI	4.5	
放射線計測基礎2	1	講義・実習	生物無機化学半期セミナーII	4.5	
放射線計測応用	2	講義・実習	分析化学半期セミナーI	4.5	
先端の研究法:質量分析	2	講義・実習	分析化学半期セミナーII	4.5	
先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習	物性錯体化学半期セミナーAI	4.5	
先端の研究法:NMR	2	講義・実習	物性錯体化学半期セミナーAII	4.5	
ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習	物性錯体化学半期セミナーBI	4.5	
ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習	物性錯体化学半期セミナーBII	4.5	
超分子ナノバイオプロセス学	1	実習	構造錯体化学半期セミナーI	4.5	
ナノ構造・機能計測解析学	1	実習	構造錯体化学半期セミナーII	4.5	
ナノフォトニクス学	1	実習	核化学半期セミナーAI	4.5	
化学アドバンスト実験	1	実習	核化学半期セミナーAII	4.5	
分析化学特論	1		核化学半期セミナーBI	4.5	
錯体化学特論	1		核化学半期セミナーBII	4.5	
生物無機化学特論	1		量子化学半期セミナーI	4.5	
構造錯体化学特論	1		量子化学半期セミナーII	4.5	
電気化学特論	1		核磁気共鳴分光半期セミナーI	4.5	
触媒化学特論	1		核磁気共鳴分光半期セミナーII	4.5	
放射化学特論	1		反応化学半期セミナーI	4.5	
化学反応特論	1		反応化学半期セミナーII	4.5	
生物物理化学特論	1		粒子ビーム化学半期セミナー I	4.5	
量子化学特論	1		粒子ビーム化学半期セミナー II	4.5	
物性物理化学特論	1		生物物理化学半期セミナーI	4.5	
分子構造特論	1		生物物理化学半期セミナーII	4.5	
分光学特論	1		凝縮系物理化学半期セミナーI	4.5	
分子熱力学特論	1		凝縮系物理化学半期セミナーII	4.5	
表面化学特論	1		表面化学半期セミナーI	4.5	
化学情報特論	1		表面化学半期セミナーII	4.5	
分子動力学概論	1		構造熱科学半期セミナーI	4.5	
生体分子動的解析学特論	1		構造熱科学半期セミナーII	4.5	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
構造物性化学半期セミナーI	4.5		有機生物化学半期セミナーI	4.5	
構造物性化学半期セミナーII	4.5		有機生物化学半期セミナーII	4.5	
半導体化学半期セミナーI	4.5		生体分子化学半期セミナーI	4.5	
半導体化学半期セミナーII	4.5		生体分子化学半期セミナーII	4.5	
生体分子動的解析学半期セミナーI	4.5		ゲノム化学半期セミナーI	4.5	
生体分子動的解析学半期セミナーII	4.5		ゲノム化学半期セミナーII	4.5	
生体分子機能構造計測学半期セミナー I	4.5		合成有機化学半期セミナーI	4.5	
生体分子機能構造計測学半期セミナー II	4.5		合成有機化学半期セミナーII	4.5	
天然物有機化学半期セミナーI	4.5		機能性分子化学半期セミナーI	4.5	
天然物有機化学半期セミナーII	4.5		機能性分子化学半期セミナーII	4.5	
構造有機化学半期セミナーI	4.5		蛋白質分子化学半期セミナーI	4.5	
構造有機化学半期セミナーII	4.5		蛋白質分子化学半期セミナーII	4.5	
物性有機化学半期セミナーI	4.5		プロテオミクス分析化学半期セミナーI	4.5	
物性有機化学半期セミナーII	4.5		プロテオミクス分析化学半期セミナーII	4.5	

(後期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
Current Topics I	1		先端の研究法:NMR	2	講義・実習
Current Topics II	1		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
Current Topics III	1		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
Current Topics IV	1		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
Current Topics V	1		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
Current Topics VI	1		ナノフォニクス学	1	実習
Current Topics VII	1		産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
Current Topics VIII	1		高度学際萌芽研究訓練	5	
Current Topics IX	1		インタラクティブ特別セミナー1	1	
Current Topics X	1		インタラクティブ特別セミナー2	1	
特別講義AI	1		生物無機化学特別セミナー I	9	
特別講義AII	1		生物無機化学特別セミナーII	9	
特別講義AIII	1		生物無機化学特別セミナーIII	9	
特別講義AIV	1		分析化学特別セミナー I	9	
特別講義AV	1		分析化学特別セミナーII	9	
特別講義AVI	1		分析化学特別セミナーIII	9	
特別講義BI	1		物性錯体化学特別セミナーAI	9	
特別講義BII	1		物性錯体化学特別セミナーAII	9	
特別講義BIII	1		物性錯体化学特別セミナーAIII	9	
特別講義BIV	1		物性錯体化学特別セミナーBI	9	
特別講義BV	1		物性錯体化学特別セミナーBII	9	
特別講義BVI	1		物性錯体化学特別セミナーBIII	9	
科学技術論A	2		構造錯体化学特別セミナーI	9	
科学技術論B	2		構造錯体化学特別セミナーII	9	
実践科学英語	2		構造錯体化学特別セミナーIII	9	
科学英語基礎	1		核化学特別セミナーAI	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		核化学特別セミナーAII	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		核化学特別セミナーAIII	9	
リスク管理とコンプライアンス	2		核化学特別セミナーBI	9	
原子核物理基礎1	1		核化学特別セミナーBII	9	
原子核物理基礎2	1		核化学特別セミナーBIII	9	
放射線取扱基礎	1		量子化学特別セミナーI	9	
放射線計測学概論1	1		量子化学特別セミナーII	9	
放射線計測学概論2	1		量子化学特別セミナーIII	9	
先端機器制御学	2		核磁気共鳴分光学特別セミナーI	9	
分光計測学	2		核磁気共鳴分光学特別セミナーII	9	
放射線計測基礎1	1	講義・実習	核磁気共鳴分光学特別セミナーIII	9	
放射線計測基礎2	1	講義・実習	反応化学特別セミナーI	9	
放射線計測応用	2	講義・実習	反応化学特別セミナーII	9	
先端の研究法:質量分析	2	講義・実習	反応化学特別セミナーIII	9	
先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習	粒子ビーム化学特別セミナーI	9	

粒子ビーム化学特別セミナーII	9		天然物有機化学特別セミナーIII	9	
粒子ビーム化学特別セミナーIII	9		構造有機化学特別セミナーI	9	
生物物理化学特別セミナーI	9		構造有機化学特別セミナーII	9	
生物物理化学特別セミナーII	9		構造有機化学特別セミナーIII	9	
生物物理化学特別セミナーIII	9		物性有機化学特別セミナーI	9	
凝縮系物理化学特別セミナーI	9		物性有機化学特別セミナーII	9	
凝縮系物理化学特別セミナーII	9		物性有機化学特別セミナーIII	9	
凝縮系物理化学特別セミナーIII	9		有機生物化学特別セミナーI	9	
表面化学特別セミナーI	9		有機生物化学特別セミナーII	9	
表面化学特別セミナーII	9		有機生物化学特別セミナーIII	9	
表面化学特別セミナーIII	9		生体分子化学特別セミナーI	9	
構造熱科学特別セミナーI	9		生体分子化学特別セミナーII	9	
構造熱科学特別セミナーII	9		生体分子化学特別セミナーIII	9	
構造熱科学特別セミナーIII	9		ゲノム化学特別セミナーI	9	
構造物性化学特別セミナーI	9		ゲノム化学特別セミナーII	9	
構造物性化学特別セミナーII	9		ゲノム化学特別セミナーIII	9	
構造物性化学特別セミナーIII	9		合成有機化学特別セミナーI	9	
半導体化学特別セミナーI	9		合成有機化学特別セミナーII	9	
半導体化学特別セミナーII	9		合成有機化学特別セミナーIII	9	
半導体化学特別セミナーIII	9		機能性分子化学特別セミナーI	9	
生体分子動的解析学特別セミナーI	9		機能性分子化学特別セミナーII	9	
生体分子動的解析学特別セミナーII	9		機能性分子化学特別セミナーIII	9	
生体分子動的解析学特別セミナーIII	9		蛋白質分子化学特別セミナーI	9	
生体分子機能構造計測学特別セミナーI	9		蛋白質分子化学特別セミナーII	9	
生体分子機能構造計測学特別セミナーII	9		蛋白質分子化学特別セミナーIII	9	
生体分子機能構造計測学特別セミナーIII	9		プロテオミクス分析化学特別セミナーI	9	
天然物有機化学特別セミナーI	9		プロテオミクス分析化学特別セミナーII	9	
天然物有機化学特別セミナーII	9		プロテオミクス分析化学特別セミナーIII	9	

生物科学専攻

(前期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
大学院無機化学	2		生物科学特論F10	0.5	
大学院物理化学	2		生物科学特論F11	0.5	
大学院有機化学	2		生物科学特論F12	0.5	
生物科学特論A1	0.5		生物科学特論G1	0.5	
生物科学特論A2	0.5		生物科学特論G2	0.5	
生物科学特論A3	0.5		生物科学特論G3	0.5	
生物科学特論A4	0.5		生物科学特論G4	0.5	
生物科学特論B1	0.5		生物科学特論G5	0.5	
生物科学特論B2	0.5		生物科学特論G6	0.5	
生物科学特論B3	0.5		生物科学特論G7	0.5	
生物科学特論B4	0.5		生物科学特論G8	0.5	
生物科学特論B5	0.5		生物科学特論G9	0.5	
生物科学特論B6	0.5		生物科学特論H1	0.5	
生物科学特論B7	0.5		生物科学特論H2	0.5	
生物科学特論B8	0.5		生物科学特論H3	0.5	
生物科学特論B9	0.5		生物科学特論H4	0.5	
生物科学特論C1	0.5		生物科学特論J1	0.5	
生物科学特論C2	0.5		生物科学特論J2	0.5	
生物科学特論C3	0.5		生物科学特論J3	0.5	
生物科学特論C4	0.5		高分子有機化学	2	
生物科学特論C5	0.5		高分子物理化学	2	
生物科学特論C6	0.5		高分子凝集科学	2	
生物科学特論C7	0.5		Current Topics I	1	
生物科学特論C8	0.5		Current Topics II	1	
生物科学特論D1	0.5		Current Topics III	1	
生物科学特論D2	0.5		Current Topics IV	1	
生物科学特論D3	0.5		Current Topics V	1	
生物科学特論D4	0.5		Current Topics VI	1	
生物科学特論D5	0.5		Current Topics VII	1	
生物科学特論D6	0.5		Current Topics VIII	1	
生物科学特論D7	0.5		Current Topics IX	1	
生物科学特論D8	0.5		Current Topics X	1	
生物科学特論D9	0.5		基礎生物情報科学	2	
生物科学特論D10	0.5		科学技術論A	2	
生物科学特論D11	0.5		科学技術論B	2	
生物科学特論D12	0.5		実践科学英語	2	
生物科学特論D13	0.5		科学英語基礎	1	
生物科学特論E1	0.5		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1	
生物科学特論E2	0.5		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1	
生物科学特論E3	0.5		リスク管理とコンプライアンス	2	
生物科学特論E4	0.5		原子核物理基礎1	1	
生物科学特論E5	0.5		原子核物理基礎2	1	
生物科学特論E6	0.5		放射線取扱基礎	1	
生物科学特論E7	0.5		放射線計測学概論1	1	
生物科学特論F1	0.5		放射線計測学概論2	1	
生物科学特論F2	0.5		先端機器制御学	2	
生物科学特論F3	0.5		分光計測学	2	
生物科学特論F4	0.5		放射線計測基礎1	1	講義・実習
生物科学特論F5	0.5		放射線計測基礎2	1	講義・実習
生物科学特論F6	0.5		放射線計測応用	2	講義・実習
生物科学特論F7	0.5		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
生物科学特論F8	0.5		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
生物科学特論F9	0.5		先端的研究法:NMR	2	講義・実習

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習	蛋白質反応機構学半期セミナー	4.5	
ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習	エピジェネティクス学半期セミナー	4.5	
超分子ナノバイオプロセス学	1	実習	蛋白質細胞生物学半期セミナー	4.5	
ナノ構造・機能計測解析学	1	実習	分子発生学半期セミナー	4.5	
ナノフォトニクス学	1	実習	代謝調節機構学半期セミナー	4.5	
サイエンスコアI	1		情報伝達機構学半期セミナー	4.5	
サイエンスコアII	1		遺伝子情報学半期セミナー	4.5	
サイエンスコアIII	1		糖鎖生化学半期セミナー	4.5	
サイエンスコアIV	1		極限生物学半期セミナー	4.5	
生体分子機能学半期セミナー	4.5		分子神経生物学半期セミナー	4.5	
構造生物学半期セミナー	4.5		細胞外マトリックス生物学半期セミナー	4.5	
分子遺伝学半期セミナー	4.5		蛋白質物理化学半期セミナー	4.5	
植物生長生理学半期セミナー	4.5		細胞核ネットワーク学半期セミナー	4.5	
物性生物学半期セミナー	4.5		構造分子生物学半期セミナー	4.5	
核機能学半期セミナー	4.5		膜蛋白質化学半期セミナー	4.5	
1分子生物学半期セミナー	4.5		蛋白質結晶学半期セミナー	4.5	
細胞生物学半期セミナー	4.5		細胞機能構造学半期セミナー	4.5	
系統進化学半期セミナー	4.5		生命誌学半期セミナー	4.5	
植物細胞生物学半期セミナー	4.5		生物分子情報学半期セミナー	4.5	
発生生物学半期セミナー	4.5		生体超分子科学半期セミナー	4.5	
生物分子エネルギー変換学半期セミナー	4.5		生体高分子溶液学半期セミナー	4.5	
蛋白質生物物理学半期セミナー	4.5		生体分子機械学半期セミナー	4.5	
神経可塑性生理学半期セミナー	4.5		超分子科学半期セミナー	4.5	
感覚生理学半期セミナー	4.5		バイオインフォマティクス学半期セミナー	4.5	
神経回路機能学半期セミナー	4.5		有機生物化学(I)	1	
理論生物学半期セミナー	4.5		生体機能高分子特論	2	
蛋白質有機化学半期セミナー	4.5		高分子溶液学特論	2	
機能・発現プロテオミクス学半期セミナー	4.5		高分子構造特論	2	
蛋白質情報科学半期セミナー	4.5		生物科学インタラクティブセミナーI	1	
超分子構造解析学半期セミナー	4.5		生物科学インタラクティブセミナーII	1	
分子創製学半期セミナー	4.5				

(後期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
Current Topics I	1		生体分子機能学特別セミナー	9	
Current Topics II	1		構造生物学特別セミナー	9	
Current Topics III	1		分子遺伝学特別セミナー	9	
Current Topics IV	1		植物生長生理学特別セミナー	9	
Current Topics V	1		物性生物学特別セミナー	9	
Current Topics VI	1		核機能学特別セミナー	9	
Current Topics VII	1		1分子生物学特別セミナー	9	
Current Topics VIII	1		細胞生物学特別セミナー	9	
Current Topics IX	1		系統進化学特別セミナー	9	
Current Topics X	1		植物細胞生物学特別セミナー	9	
科学技術論A	2		発生生物学特別セミナー	9	
科学技術論B	2		生物分子エネルギー変換学特別セミナー	9	
実践科学英語	2		蛋白質生物物理学特別セミナー	9	
科学英語基礎	1		神経可塑性生理学特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		感覚生理学特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		神経回路機能学特別セミナー	9	
リスク管理とコンプライアンス	2		理論生物学特別セミナー	9	
原子核物理基礎1	1		蛋白質有機化学特別セミナー	9	
原子核物理基礎2	1		機能・発現プロテオミクス学特別セミナー	9	
放射線取扱基礎	1		蛋白質情報科学特別セミナー	9	
放射線計測学概論1	1		超分子構造解析学特別セミナー	9	
放射線計測学概論2	1		分子創製学特別セミナー	9	
先端機器制御学	2		蛋白質反応機構学特別セミナー	9	
分光計測学	2		エピジェネティクス学特別セミナー	9	
放射線計測基礎1	1	講義・実習	蛋白質細胞生物学特別セミナー	9	
放射線計測基礎2	1	講義・実習	分子発生学特別セミナー	9	
放射線計測応用	2	講義・実習	代謝調節機構学特別セミナー	9	
先端の研究法:質量分析	2	講義・実習	情報伝達機構学特別セミナー	9	
先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習	遺伝子情報学特別セミナー	9	
先端の研究法:NMR	2	講義・実習	糖鎖生化学特別セミナー	9	
ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習	極限生物学特別セミナー	9	
ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習	分子神経生物学特別セミナー	9	
超分子ナノバイオプロセス学	1	実習	細胞外マトリックス生物学特別セミナー	9	
ナノ構造・機能計測解析学	1	実習	蛋白質物理化学特別セミナー	9	
ナノフォトニクス学	1	実習	構造分子生物学特別セミナー	9	
産学リエゾンPAL教育研究訓練	5		細胞核ネットワーク学特別セミナー	9	
高度学際萌芽研究訓練	5		細胞機能構造学特別セミナー	9	
生物科学特別講義I	1		生命誌学特別セミナー	9	
生物科学特別講義II	1		生物分子情報学特別セミナー	9	
生物科学特別講義III	1		膜蛋白質化学特別セミナー	9	
生物科学特別講義IV	1		蛋白質結晶学特別セミナー	9	
生物科学特別講義V	1		生体超分子科学特別セミナー	9	
生物科学特別講義VI	1		生体高分子溶液学特別セミナー	9	
生物科学特別講義VII	1		生体分子機械学特別セミナー	9	
生物科学特別講義VIII	1		超分子科学特別セミナー	9	
サイエンスコアV	1		バイオインフォマティクス学特別セミナー	9	
サイエンスコアVI	1		生物科学インタラクティブ特別セミナー	1	
サイエンスコアVII	1				

高分子科学専攻

(前期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
大学院無機化学	2		生物科学特論F10	0.5	
大学院物理化学	2		生物科学特論F11	0.5	
大学院有機化学	2		生物科学特論F12	0.5	
生物科学特論A1	0.5		生物科学特論G1	0.5	
生物科学特論A2	0.5		生物科学特論G2	0.5	
生物科学特論A3	0.5		生物科学特論G3	0.5	
生物科学特論A4	0.5		生物科学特論G4	0.5	
生物科学特論B1	0.5		生物科学特論G5	0.5	
生物科学特論B2	0.5		生物科学特論G6	0.5	
生物科学特論B3	0.5		生物科学特論G7	0.5	
生物科学特論B4	0.5		生物科学特論G8	0.5	
生物科学特論B5	0.5		生物科学特論G9	0.5	
生物科学特論B6	0.5		生物科学特論H1	0.5	
生物科学特論B7	0.5		生物科学特論H2	0.5	
生物科学特論B8	0.5		生物科学特論H3	0.5	
生物科学特論B9	0.5		生物科学特論H4	0.5	
生物科学特論C1	0.5		生物科学特論J1	0.5	
生物科学特論C2	0.5		生物科学特論J2	0.5	
生物科学特論C3	0.5		生物科学特論J3	0.5	
生物科学特論C4	0.5		高分子物理化学	2	
生物科学特論C5	0.5		高分子有機化学	2	
生物科学特論C6	0.5		高分子凝集科学	2	
生物科学特論C7	0.5		情報高分子科学	2	
生物科学特論C8	0.5		Current Topics I	1	
生物科学特論D1	0.5		Current Topics II	1	
生物科学特論D2	0.5		Current Topics III	1	
生物科学特論D3	0.5		Current Topics IV	1	
生物科学特論D4	0.5		Current Topics V	1	
生物科学特論D5	0.5		Current Topics VI	1	
生物科学特論D6	0.5		Current Topics VII	1	
生物科学特論D7	0.5		Current Topics VIII	1	
生物科学特論D8	0.5		Current Topics IX	1	
生物科学特論D9	0.5		Current Topics X	1	
生物科学特論D10	0.5		高分子科学インタラクティブ演習	1	
生物科学特論D11	0.5		高分子合成化学特論	2	
生物科学特論D12	0.5		高分子反応化学特論	2	
生物科学特論D13	0.5		高分子精密合成特論	2	
生物科学特論E1	0.5		高分子錯体化学特論	2	
生物科学特論E2	0.5		生体無機高分子特論	2	
生物科学特論E3	0.5		生体機能高分子特論	2	
生物科学特論E4	0.5		高分子キャラクタリゼーション特論	2	
生物科学特論E5	0.5		高分子物性特論	2	
生物科学特論E6	0.5		高分子統計力学特論	2	
生物科学特論E7	0.5		高分子溶液学特論	2	
生物科学特論F1	0.5		高分子構造特論	2	
生物科学特論F2	0.5		蛋白質構造基礎論	2	
生物科学特論F3	0.5		高分子機能特論	2	
生物科学特論F4	0.5		高分子結晶学特論	2	
生物科学特論F5	0.5		情報高分子物性特論	2	
生物科学特論F6	0.5		情報高分子機能特論	2	
生物科学特論F7	0.5		情報高分子構造特論	2	
生物科学特論F8	0.5		蛋白質工学特論	2	
生物科学特論F9	0.5		生体高分子X線解析学特論	2	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
サイエンスコアA	1	演習	ナノフォトニクス学	1	実習
科学技術論A	2		高分子合成化学半期セミナー	4.5	
科学技術論B	2		高分子精密合成半期セミナー	4.5	
実践科学英語	2		高分子錯体化学半期セミナー	4.5	
科学英語基礎	1		高分子反応化学半期セミナー	4.5	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		無機高分子化学半期セミナー	4.5	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		超分子科学半期セミナー	4.5	
リスク管理とコンプライアンス	2		生体超分子科学半期セミナー	4.5	
原子核物理基礎1	1		高分子固体科学半期セミナー	4.5	
原子核物理基礎2	1		高分子溶液論半期セミナー	4.5	
放射線取扱基礎	1		高分子機能論半期セミナー	4.5	
放射線計測学概論1	1		高分子構造論半期セミナー	4.5	
放射線計測学概論2	1		高分子物性論半期セミナー	4.5	
先端機器制御学	2		高分子材料科学半期セミナー	4.5	
分光計測学	2		高分子凝集論半期セミナー	4.5	
放射線計測基礎1	1	講義・実習	高分子統計力学半期セミナー	4.5	
放射線計測基礎2	1	講義・実習	高分子結晶構造学半期セミナー	4.5	
放射線計測応用	2	講義・実習	高分子集合論半期セミナー	4.5	
先端の研究法:質量分析	2	講義・実習	情報高分子構造論半期セミナー	4.5	
先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習	情報高分子機能論半期セミナー	4.5	
先端の研究法:NMR	2	講義・実習	生体高分子X線解析学半期セミナー	4.5	
ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習	情報高分子物性論半期セミナー	4.5	
ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習	蛋白質工学半期セミナー	4.5	
超分子ナノバイオプロセス学	1	実習	インタラクティブセミナー	1	
ナノ構造・機能計測解析学	1	実習	高分子科学インタラクティブセミナー	2	

(後期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
Current Topics I	1		放射線計測学概論2	1	
Current Topics II	1		先端機器制御学	2	
Current Topics III	1		分光計測学	2	
Current Topics IV	1		放射線計測基礎1	1	講義・実習
Current Topics V	1		放射線計測基礎2	1	講義・実習
Current Topics VI	1		放射線計測応用	2	講義・実習
Current Topics VII	1		先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
Current Topics VIII	1		先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
Current Topics IX	1		先端の研究法:NMR	2	講義・実習
Current Topics X	1		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
特別講義(1)	1		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
特別講義(2)	1		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
特別講義(3)	1		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
特別講義(4)	1		ナノフォトニクス学	1	実習
特別講義(5)	1		産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
特別講義(6)	1		高度学際萌芽研究訓練	5	
サイエンスコアB	1	演習	高分子反応化学特別セミナー	9	
高分子科学インタラクティブ特別演習	1		高分子合成化学特別セミナー	9	
高分子科学インタラクティブインターンシップ	2		高分子錯体化学特別セミナー	9	
科学技術論A	2		高分子凝集論特別セミナー	9	
科学技術論B	2		高分子構造論特別セミナー	9	
実践科学英語	2		高分子溶液論特別セミナー	9	
科学英語基礎	1		高分子物性論特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		超分子科学特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		生体超分子科学特別セミナー	9	
リスク管理とコンプライアンス	2		情報高分子物性論特別セミナー	9	
原子核物理基礎1	1		情報高分子機能論特別セミナー	9	
原子核物理基礎2	1		情報高分子構造論特別セミナー	9	
放射線取扱基礎	1		インタラクティブ特別セミナー	1	
放射線計測学概論1	1		高分子科学インタラクティブ特別セミナー	2	

宇宙地球科学専攻

(前期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
一般相対性理論	2		理論物性学セミナー	4.5	
宇宙物理学	2		惑星内部物質学セミナー	4.5	
宇宙論	2		地球惑星物理化学セミナー	4.5	
天体輻射論	2		科学技術論A	2	
X線天文学	2		科学技術論B	2	
星間物理学	2		実践科学英語	2	
光赤外線天文学	2		科学英語基礎	1	
星間固体物理学	2		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1	
同位体宇宙地球科学	2		Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1	
惑星物質科学	2		リスク管理とコンプライアンス	2	
惑星地質学	2		原子核物理基礎1	1	
宇宙生命論	2		原子核物理基礎2	1	
宇宙進化学セミナー	4.5		放射線取扱基礎	1	
レーザー宇宙物理学セミナー	4.5		放射線計測学概論1	1	
X線天文学セミナー	4.5		放射線計測学概論2	1	
赤外線天文学セミナー	4.5		先端機器制御学	2	
惑星科学セミナー	4.5		分光計測学	2	
地球惑星物質科学セミナー	4.5		放射線計測基礎1	1	講義・実習
地球物質形成論	2		放射線計測基礎2	1	講義・実習
物質論	2		放射線計測応用	2	講義・実習
非平衡現象論	2		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
極限物性学	2		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
高圧物性科学	2		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
惑星内部物質学	2		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
地球内部物性学	2		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
地球物理化学	2		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
地球テクニクス	2		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
環境物性・分光学	2		ナノフォトニクス学	1	実習
生物進化学	2				

(後期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
特別講義I	1		先端機器制御学	2	
特別講義II	1		分光計測学	2	
特別講義III	1		放射線計測基礎1	1	講義・実習
特別講義IV	1		放射線計測基礎2	1	講義・実習
特別講義V	1		放射線計測応用	2	講義・実習
特別講義VI	1		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
特別講義VII	1		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
特別講義VIII	1		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
特別講義IX	1		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
特別講義X	1		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
特別講義XI	1		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
特別講義XII	1		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
特別講義XIII	1		ナノフォトニクス学	1	実習
科学技術論A	2		産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
科学技術論B	2		高度学際萌芽研究訓練	5	
実践科学英語	2		宇宙進化学特別セミナー	9	
科学英語基礎	1		レーザー宇宙物理学特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society I	1		X線天文学特別セミナー	9	
Selected Current Topics in Science, Technology, and Society II	1		赤外線天文学特別セミナー	9	
リスク管理とコンプライアンス	2		惑星科学特別セミナー	9	
原子核物理基礎1	1		地球惑星物質科学特別セミナー	9	
原子核物理基礎2	1		理論物性学特別セミナー	9	
放射線取扱基礎	1		惑星内部物質学特別セミナー	9	
放射線計測学概論1	1		地球惑星物理化学特別セミナー	9	
放射線計測学概論2	1				

別表2 (略)

4) 大阪大学学位規程

(総則)

第1条 大阪大学(以下「本学」という。)において授与する学位は、学士、修士、博士及び法務博士とする。

2 本学において授与する修士、博士及び法務博士の学位については、大阪大学大学院学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規定の定めるところによる。

3 学士の学位については、大阪大学学部学則の定めるところによる。

(学位に付記する専攻分野等の名称)

第2条 本学において授与する修士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

理学(他専攻分野略)

2 本学において授与する博士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

理学(他専攻分野略)

3 前2項の規定にかかわらず、専攻分野が学際領域等に係るもので、当該研究科教授会が適当と認めるときは、学術と付記することができる。

4 本学において授与する法務博士の学位には、専門職と付記するものとする。

(学位の授与要件)

第3条 学位は、学則の定めるところにより、所定の課程を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、修士の学位は、学則の定めるところにより、生命機能研究科の博士課程において、修士課程の修了に相当する要件を満たした者にも授与することができる。

3 第1項に定めるもののほか、博士の学位は、博士論文の審査に合格し、かつ、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認(以下「学力の確認」という。)した者にも授与することができる。

(課程を経る者の論文の提出)

第4条 本学大学院の課程(法科大学院の課程を除く。)を経る者(前条第2項に規定する者を含む。以下同じ。)の学位論文は、学則の定めるところにより、当該研究科長に提出するものとする。

2 前項の場合において、博士論文にあつては、論文目録、論文内容の要旨及び履歴書を添付しなければならない。

(課程を経ない者の学位授与の申請)

第5条 第3条第3項の規定により、博士の学位の授与を受けようとする者は、学位申請書に博士論文、論文目録、論文内容の要旨、履歴書を添え、学位に付記する専攻分野を指定して総長に提出するものとする。

2 前項の申請は、別に定める論文審査手数料を納付後に行うものとし、申請期間は、当該納付した日から4日以内とする。

3 総長は、前項の納付を確認後、第1項の申請書類を受理したときは、専攻分野に応じて、当該研究科長に回付するものとする。

(論文)

第6条 審査を受けるため提出する学位論文(学則第15条第1項本文の規定による特定の課題についての研究の成果を含む。)は、1篇とし、所定の部数を提出するものとする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 審査のため必要があるときは、研究科教授会は、論文の訳文、模型又は標本等を提出させることができる。

第7条 受理した学位論文及び論文審査手数料は、返付しない。

(学位論文の審査の付託)

第8条 研究科長は、学位論文を受理(第5条第3項の規定により総長から回付された場合を含む。)したときは、その審査及び最終試験又は学力の確認を当該研究科教授会に付託するものとする。

(審査委員会)

第9条 研究科教授会は、審査を付託された学位論文の審査等を行うため、審査委員会を設けるものとする。

2 審査委員会は、当該研究科教授2名以上の委員で組織する。ただし、修士論文の審査にあつては、当該研究科の教授1名及び准教授1名以上とすることができる。

3 前項の場合において、必要があるときは、研究科教授会の議を経て、他の大学院等の教員等の協力を得ることができる。

4 審査委員会の委員は、公表するものとする。

5 審査委員会の委員は、学位論文の審査等に関し、供応接待又は財産上の利益の供与を受けてはならない。

(論文の発表会)

第9条の2 学位論文の審査においては、当該論文の内容に関する発表会を公開で実施するものとする。ただし、当該論文の内容に関し、知的財産を保護する必要があるとき又は秘密保持の義務を課した本学の契約を遵守する必要があるときは、非公開とすることができる。

(課程を経る者の最終試験)

第10条 学則第12条本文に規定する最終試験は、学位論文を中心とし、これに関連のある科目について、口答試問又は筆答試問により行う。

(課程を経ない者の学力の確認)

第11条 第3条第3項に規定する学力の確認は、学位論文に関連のある科目及び外国語について、口答試問又は筆答試問により行うものとする。

2 前項の外国語については、2種類を課すものとする。ただし、研究科教授会が特別の事由があると認めるときは、1種類のみとすることができる。

第12条 本学大学院博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上退学した者が、博士論文を提出したときは、各研究科で定める年限内に限り、学力の確認を行わないことがある。

(審査期間)

第13条 審査委員会は、博士論文が提出された日から1年以内に、論文の審査及び最終試験又は学力の確認を終了しなければならない。ただし、特別の事由があるときは、当該研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

(審査結果の報告)

第14条 審査委員会は、論文の審査及び最終試験又は学力の確認が終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、審査の結果の要旨及び最終試験の結果の要旨又は学力の確認の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添え、当該研究科教授会に文書で報告しなければならない。ただし、修士の学位については、学位を授与できるか否かの意見のみを報告すれば足りるものとする。

(博士論文研究基礎力審査)

第14条の2 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に代えて、学則第15条第2項に規定する試験及び審査（以下「博士論文研究基礎力審査」という。）を行う場合については、第9条及び前条の規定を準用する。この場合において、第9条第1項中「審査を付託された学位論文の審査等」とあり、同条第2項中「修士論文の審査」とあり、及び同条第5項中「学位論

文の審査等」とあるのは「博士論文研究基礎力審査」と読み替えるものとする。

2 前項に定めるもののほか、博士論文研究基礎力審査の内容、方法等については、当該博士課程の目的に応じ、研究科において定めるものとする。

(学位授与の議決等)

第15条 研究科教授会は、第14条（前条第1項において準用する場合を含む。）の報告に基づいて、学位を授与すべきか否かを審議し、議決する。ただし、研究科の定めるところにより、教授会通則第9条に規定する代議員会等に委任し、その議決をもって研究科教授会の議決に代えることができる。

2 前項の議決には、構成員の3分の2以上の出席を必要とし、かつ、出席者の3分の2以上の同意がなければならない。

第16条 研究科教授会が前条の議決をしたときは、当該研究科長は、文書で総長に報告しなければならない。

2 前項の場合において、博士の学位にあつては、博士論文とともに論文の内容の要旨、審査の結果の要旨及び最終試験の結果の要旨又は学力の確認の結果の要旨を添付するものとする。

(学位の授与)

第17条 総長は、前条の報告に基づいて学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位簿への登録)

第18条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位簿に登録の上、当該学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(博士論文の要旨等の公表)

第19条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に当該博士論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

2 前項の規定による公表は、本学の機関リポジトリの利用により行う。

(博士論文の公表)

第20条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に当該博士論文の全文を公表しなければならない。ただし、既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該研究科教授会の承認を得て、当該博士論文の全

文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該研究科教授会は、当該博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

- 3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとし、本学においては機関リポジトリの利用により行うものとする。

(学位名称の使用)

第21条 本学において学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、大阪大学と付記するものとする。

(学位の取消)

第22条 学位を授与された者に、不正の方法により学位の授与を受けた事実があると認められたときは、総長は、当該研究科教授会の意見を聴いた上、教育研究評議会の議を経て、学位を取り消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表する。

- 2 学位を授与された者に、その名誉を汚す行為があったときは、前項の例により、当該学位を取り消すことがある。

(学位記の様式)

第23条 学位記の様式は、別表のとおりとする。

(雑 則)

第24条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

(以下省略)

附 則

この改正は、平成16年4月1日から施行する。

(以下省略)

附 則

この改正は、平成19年4月1日から施行する。

(以下省略)

附 則

この改正は、平成21年4月1日から施行する。

(以下省略)

附 則

この改正は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成23年6月15日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成24年4月1日から施行する。

(以下省略)

附 則

この改正は、平成24年7月18日から施行する。

附 則

この改正は、平成24年9月19日から施行する。

附 則

この改正は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成25年4月10日から施行する。

- 2 改正後の第19条の規定は、平成25年4月1日以後に博士の学位を授与した場合について適用し、同日前に博士の学位を授与した場合については、なお従前の例による。

- 3 改正後の第20条の規定は、平成25年4月1日以後に博士の学位を授与された者について適用し、同日前に博士の学位を授与された者については、なお従前の例による。

附 則

この改正は、平成26年4月1日から施行する。

別表 (略)

5) 学位論文の審査及び最終試験の基準について

修士学位論文の審査及び修士最終試験の基準 (平成21年10月22日制定)

大阪大学大学院理学研究科は、修士学位論文の審査及び修士最終試験について、次の基準を設ける。なお、この基準に定めるもののほか、当該専攻分野において必要なものは専攻が定める。

1. 修士の学位を受ける者は、当該専攻分野に関する学識を備え、かつ専門的研究能力を有すること。
2. 修士学位論文は、当該専攻分野に関する学術的価値を有し、論理的かつ明瞭に記述されていること。論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位を受ける者の貢献が有意に認められること。
3. 修士学位論文に記述された内容については、各専攻の論文発表会において学術研究に相応しい発表及び討論がなされること。なお、原則として論文発表会は公開とする。

博士学位論文の審査及び博士最終試験の基準 (平成21年10月22日制定)

大阪大学大学院理学研究科は、博士学位論文の審査及び博士最終試験について、次の基準を設ける。なお、この基準に定めるもののほか、当該専攻分野において必要なものは専攻が定める。

1. 博士の学位を受ける者は、当該専攻分野に関する高い学識を備え、かつ高度な専門的研究能力を有すること。
2. 博士学位論文は、当該専攻分野において高度な学術的価値を有する研究結果を含み、論理的かつ明瞭に記述されていること。論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位を受ける者の貢献が顕著であると認められること。
3. 博士学位論文に記述された内容については、各専攻の論文発表会において学術研究に相応しい発表及び討論がなされること。なお、原則として論文発表会は公開とする。
4. 博士学位論文の主要部分は、既に学術論文として公表されているか、若しくは学位を授与された日から1年以内に公表される予定であること。

6) 履修方法等

(A) 履修方法

1. 履修方法については「(B) 各専攻履修上の注意」を熟読してください
2. 各専攻共通科目、他専攻、他研究科の授業科目・セミナーを履修し、修了要件単位として認定を受けるためには、指導教員の許可を必要とします。その場合、Web履修登録後に指導教員と相談すると共に、「履修登録確認表」にある要件外科目に指導教員の押印が必要です。また、数学・生物科学・高分子科学専攻の博士前期課程の学生が、自専攻の博士後期課程配当科目を履修し、修了要件単位として認定を受ける場合も、指導教員の許可を必要とします。ただし、物理学、化学、宇宙地球科学専攻については不要です。
3. 各専攻共通科目のうち、基礎工学研究科との合同開講科目の科学技術論A・Bは、各専攻とも2単位に限り修了要件単位として認定されます。修了要件単位の認定にあたり、科学技術論A・Bは指導教員の許可は不要です。
4. 本学の研究科を横断して開設されるプログラム（放射線科学、基礎理学計測学、ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育訓練プログラム、コミュニケーション・デザインセンター、金融・保険教育研究センター等）の科目を履修する場合においても、上記2. に準拠した手続きを行ってください。

なお、理学研究科が実施部局となる大学院等高度副プログラムに関する科目には、開講科目表の備考欄に印を付しています（◆：基礎理学計測学、◇：放射線科学）。また、理学研究科で開設するナノ教育訓練プログラムに関する科目には、開講科目表の備考欄にナノ教育プログラムと記入してあります。

(B) 各専攻履修上の注意

1. 数学専攻

A. 前期課程

- a. 講義は2年間で計12単位の修得を要します。数学専攻向けの「数物アドバンスコア2」の履修を強く勧めます。
- b. 慶應義塾大学工学部の教員による集中講義形式の授業があります。（詳細についてはシラバスを参照してください）
- c. セミナーは、1年次の基礎セミナー（9単位）、および2年次のセミナー（9単位）を必修とします。
- d. 毎学期の始めにその年度に履修する科目について、所定の期日までにWebにて履修登録をしなければなりません。なお、他専攻の授業科目を履修する場合は、指導教員の押印が必要です。
- e. 各年度の終わりに、「研究概要報告書」を所定の期日までに、指導教員の押印をもらって提出しなければなりません。
- f. 指導教員は4月に、学生の希望もできるだけ取り入れて決定されます。指導教員は修了まで変更されません。ただし、特別な事情がある場合はこの限りではありません。
- g. 修了に当たっては、修士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。

修士論文は次のいずれかの要件を満たすものとします。

1. 論文筆者により得られた新しい数学的結果を含むもの
2. 数学的に意義のある計算結果（計算機実験も含む）や定理の新しい証明などで、論文筆者自身による部分を含むもの
3. ある分野において既に知られている重要な数学的事実について、論文筆者自身の観点からまとめたもの

* 修士論文には、標題、序文、本文、文献表が必要です。

標題としては、論文内容を最も適切に表すものを選んでください。

序文は、本文の内容を簡潔にまとめ、諸結果が、論文筆者によって得られたものであるか否かという点についても明確に書いてください。

本文は、適当に章や節に分け、できるだけ省略せず丁寧に書いてください。特に、独自に得られた結果については、細部まで省略せずに書くことが望まれます。

文献表には、論文のもとになった研究において、あるいは論文執筆に当たって、参考にした文献の中から、特に関係の深いものや重要なものを選んで書いてください。

数学専攻において、これまでに提出された修士論文はすべて製本され、数学教室図書室に保管されていますので、必要に応じて閲覧することができます。

h. 講義について

大学院では、講義を聞いて単位をとることが最終目標ではありません。学生諸君の自発的な学習を促し、研究を開始するきっかけを提供するのが、大学院における講義の主な目的です。このことをしっかりと理解しておかなければなりません。（多くの講義を漠然と聴講することは意味がありません。）

1. 講義には概論と特論があり、概論は主に1年次、特論は主に2年次の学生の履修を念頭においていますが、各人の興味、知識、能力に応じて、2年次で概論を、1年次で特論を履修することは差し支えありません。
2. 講義内容については科目名だけで判断せずに、シラバスを熟読して各自の興味にあったものを選んでください。
3. 集中講義は、多くの場合、現在活発に研究されている分野への入門的講義を短期間で行います。単位にこだわらず、積極的に聴講することを薦めます。個々の集中講義の実施については、理学研究科ホームページおよび学内掲示等で通知します。集中講義は数学特別講義として開講され、それぞれ1単位です。年次は無関係に履修が可能です。

i. セミナーについて

（以下、1年次基礎セミナーと2年次セミナーを総称して単にセミナーと記すことにします。）

セミナーの指導形態は、指導教員により様々ですが、次のような形態をとることが多いと思われます。

指導教員と相談のうえ選んだ文献について、学生が自力で学習してきた内容を週1回、指導教員の前で発表します。そこで指導教員から質問やコメントがなされ学生はこれに適切に応答することが要求されます。

このためには漠然とした内容の理解だけでは不十分で、内容をよく消化し、これを指導教員、あるいは他の教員に対して十分わかりやすく説明できる程度まで周到な準備をする事が期待されます。学生は原則として、ノートに発表の内容を準備し、できればこれを見ないで発表すること

が望ましいです。（教科書を見てその場で考えながら発表したりするのは論外です。）したがって、セミナーは自分の考えていることを、他人にわかりやすく説明することの訓練の場です。更に、セミナーの進展状況によっては文献を読むだけでなく、自ら考えたことを発表する場にもなり得ることが期待されます。

2年次の最後に提出する修士論文は、このセミナーにおける学習を土台とし、執筆することになります。したがって、少なくとも2年次のセミナーはこの修士論文の準備と密接に関連しています。

B. 後期課程

- a. 修了までに、特別講義2科目以上、特別セミナー1科目以上を修得しなければなりません。原則として必ず各学年のセミナーを修得してください。
- b. 慶應義塾大学理工学部の教員による集中講義形式の授業があります。（詳細についてはシラバスを参照）
- c. 修了に当たっては、博士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。
- d. 後期課程3年間の主な目的は、博士論文の完成です。この博士論文作成への過程として、(特別)セミナーがあります。その指導形態は前期課程よりもさらに自由度が増え、指導教員によっても一様ではありません。いずれにせよ、定期的に指導教員のもとで文献を読み、与えられた又は自ら設定した研究課題について、各自学習したこと、考えたことを指導教員に発表し、これに対するコメントや指示を受けて、これを再び自身の研究に生かすという繰り返しとなります。

以上の後期課程の目的から、講義の履修義務は3年間で2科目の特別講義の修得という最低限の条件にとどめられています。しかし、興味ある講義については、単位にとらわれず、集中講義はもちろんのこと、前期課程の講義、他専攻の講義などにも積極的に出席することが望まれます。

2. 物理学専攻

A. 前期課程

- a. 前期課程においては、講義12単位以上と、セミナー4科目18単位を必修し、合計30単位以上を修得しなければなりません。
- b. セミナー（必修、4.5単位）は指導教員が行うものを通算2年間修得してください。同じセミナーを繰り返して修得しても構いません。
- c. 平成23年度以降入学者については、学部・大学院共通科目（基礎科目）は、修了要件単位に含めることはできません（開講授業科目及び担当教員表の備考欄に「*修了要件外」と明記）。
- d. 後期課程の特別講義各科目を、前期課程学生が修得することを認めます。
- e. ナノ高度学際教育研究訓練プログラムの演習・実習科目の単位は、指導教員が許可すれば、修了要件単位として認めます。
- f. 物理学専攻向けの「数物アドバンスコア1」の履修を強く勧めます。
- g. 多彩な講師が英語で講義するTopical Seminarの履修を強く勧めます。

B. 後期課程

- a. 後期課程において、特別講義2科目以上および特別セミナー1科目以上を履修し、その単位

を修得しなければなりません。

- b. 多彩な講師が英語で講義するTopical Seminarの履修を強く勧めます。Topical Seminarは特別講義に該当します。

3. 化学専攻

A. 前期課程

- a. 講義 12 単位以上と、半期セミナーI（1 年次配当、第 1 学期、第 2 学期をそれぞれ 4.5 単位）と半期セミナーII（2 年次配当、第 1 学期、第 2 学期をそれぞれ 4.5 単位）から 18 単位、BMC セミナーもしくは化学アドバンスト実験から 1 単位以上、合計 31 単位以上を修得する必要があります。生物科学特論シリーズは平成 23 年度以前のものとは科目名が異なっています。平成 23 年度以前に生物科学特論 I～XII のいずれかを履修済みの場合、それに対応する新シリーズの生物科学特論は履修することができません。授業科目の対応は p. 69 の授業科目移行一覧表を参照してください。
- b. 講義には BMC コア科目、BMC インテグレートッド科目が含まれます。
- c. BMC コア科目から 4 単位以上、BMC セミナーもしくは化学アドバンスト実験から 1 単位以上を修得する必要があります。
- d. 半期セミナー（4.5 単位）は指導教員が行うものを履修し、18 単位を修得する必要があります。同じセミナーを繰り返して履修することを認めます。平成 18 年度以前入学者についても、4.5 単位科目のセミナーの単位を修了要件として認めます。
- e. 特論（各 1 単位）は、集中講義として随時開講されます。
- f. 後期課程の特別講義科目は、前期課程学生の修了要件として認めます。
- g. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が 1.5 年で足りるものとします。その場合の修了要件は、半期セミナーが 13.5 単位、講義が 16.5 単位以上、BMC セミナーもしくは化学アドバンスト実験から 1 単位以上、合計 31 単位以上となります。

B. 後期課程

- a. 特別講義 2 科目（2 単位）以上、特別セミナー 1 科目（9 単位）、インタラクティブ特別セミナー 1 科目（1 単位）、合計 12 単位以上を修得する必要があります。原則として毎年特別セミナーを履修してください。
- b. 特別講義（各 1 単位）には、BMC インテグレートッド科目を含みます。
- c. 特別講義は、集中講義として随時開講されます。
- d. 特別講義は、各年度において副題を付して開講し、副題を異にする場合は、それぞれについて所定の単位を付与します（BMC インテグレートッド科目は除きます）。
- e. 課程の途中で、研究進展度調査（中間審査）を行います。

4. 生物科学専攻

A. 前期課程

- a. 所属する研究室において開設される〇〇学半期セミナー（半年4.5単位）を2年間修得してください（必修）。これで、実験、研究、セミナーに関して修了に必要な18単位をとることができます。生物科学特論シリーズは平成23年度以前のものとは科目名が異なっています。

平成23年度以前に生物科学特論I～XIIのいずれかを履修済みの場合、それに対応する新シリーズの生物科学特論は履修することができません。授業科目の対応はp. 69の授業科目移行一覧表を参照してください。

- b. 講義科目について、14単位以上修得してください。なお、遠隔地で研究に従事するなどの特別な理由が無い限り、学年に応じたサイエンスコア科目を修得するよう心がけてください。また、講義科目ではありませんが、生物科学インタラクティブセミナーは本人の視野を広げるために役立つ科目です。
- c. 後期課程の特別講義は集中講義形式で、原則として後期課程の学生を対象に開講されますが、前期課程の学生も履修できます。ただし、特別講義を修了要件単位（bに記載した単位の一部）として認めるには、他専攻・他研究科の授業科目単位と同様に指導教員の押印が必要です。（A）履修方法の2を参照してください。また、特別講義V、VIの履修方法についてはシラバスを参照してください。

B. 後期課程

- a. 後期課程においては、特別講義2科目以上と所属研究室において開設される〇〇学特別セミナーを修得して下さい。また、遠隔地で研究に従事するなどの特別な理由が無い限り、学年に応じたサイエンスコア科目を修得するよう心がけてください。
 - b. 「特別講義」は、各年度において授業内容を表す講義タイトルを付して開講します。講義タイトルが異なっていれば、別の講義として単位を認定します。
特別講義V、VIの履修方法についてはシラバスを参照してください。
 - c. 生物科学インタラクティブ特別セミナーは本人の視野を広げるために役立つ科目です。
- * 不明な点は生物科学カリキュラム担当の米崎教授(yonesaki[at]bio. sci.)まで問い合わせてください。
- ※ 電子メールアドレスは「@」を「[at]」に読替、末尾が「osaka-u. ac. jp」の場合は省略しております。

5. 高分子科学専攻

A. 前期課程

- a. BMC科目（化学・生物科学・高分子科学専攻共通科目）のうち高分子有機化学、高分子物理化学及び高分子凝集科学の3科目と情報高分子科学は必修とします。2年間にこれら4科目8単位を含む講義12単位以上を修得し、さらに各学年で半期セミナー（9単位）およびインタラクティブセミナー（1単位）を修得しなければなりません。なお、生物科学特論シリーズは平成23年度以前のものとは科目名が異なっています。平成23年度以前に生物科学特論I～XIIのいずれかを履修済みの場合、それに対応する新シリーズの生物科学特論は履修することができません。授業科目の対応はp. 69の授業科目移行一覧表を参照してください。
- b. 後期課程に配当される講義（高分子科学専攻特別講義、各1単位）を、前期課程学生が修得することを認めます。
- c. 他専攻・他研究科、コミュニケーションデザイン・センターで行われる授業科目、ナノサイエンス・ナノテクノロジー教育訓練プログラムおよび高分子科学専攻特別講義の単位が、必修科目以外の講義の修了要件単位として認定されるには、指導教員の許可が必要です。
- d. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が1.5年で足りるものとします。その場合の修了要件は、半期セミナーが13.5単位、インタ

ラクティブセミナーが1単位、講義（必須4科目8単位を含む）が15.5単位以上、合計30単位以上となります。

この修了要件は平成25年度以前入学者にも適用できるものとします。

B. 後期課程

- a. 特別講義2科目以上を修得し、かつ各学年の特別セミナー（9単位）およびインタラクティブ特別セミナー（1単位）を原則として修得しなければなりません。なお、他大学院研究科・他専攻から本専攻後期課程に入学した者については、博士前期課程の高分子有機化学、高分子物理化学、高分子凝集科学、情報高分子科学を履修し、それらの合計8単位を上記4科目に加えて修得しなければなりません。ただし、既卒大学院で高分子有機化学、高分子物理化学、高分子凝集科学、情報高分子科学に相当する科目を修得している場合、審査のうえで単位として認定することがあります。
- b. 「特別講義」は、各年度において副題を付して開講し、副題を異にする場合は、それぞれについて所定の単位を付与します。

6. 宇宙地球科学専攻

A. 前期課程

- a. 前期課程においては、講義12単位以上と、セミナー4科目18単位を必修し、合計30単位以上を修得しなければなりません。講義の単位は本研究科他専攻あるいは他研究科専攻において開講される講義にかえて修得することもできます。
- b. セミナー（必修、4.5単位）は指導教員が行うものを通算2年間履修してください。同じセミナーを繰り返して修得しても構いません。
- c. 平成23年度以降入学者については、学部・大学院共通科目（基礎科目）は、修了要件単位に含めることはできません。「一般相対性理論」と「地球物質形成論」がこれに該当します。
- d. 後期課程の特別講義各科目を、前期課程学生が履修することを認めます。

B. 後期課程

後期課程において、特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければなりません。

生物科学特論 授業科目移行一覧表

平成23年度以前 開講科目	平成24年度以降 開講科目	平成23年度以前 開講科目	平成24年度以降 開講科目	平成23年度以前 開講科目	平成24年度以降 開講科目	
生物科学特論I (生物科学基礎A)	生物科学特論B2	生物科学特論V (時間生物学I)	生物科学特論B3	生物科学特論IX (分子構造機能学II)	生物科学特論E2	
	生物科学特論B7		生物科学特論B5		生物科学特論E3	
	生物科学特論D6		生物科学特論B6		生物科学特論F2	
	生物科学特論D11		生物科学特論B8		生物科学特論F4	
	生物科学特論G4		生物科学特論C1		生物科学特論F9	
生物科学特論II (生物科学基礎B)	生物科学特論A2	生物科学特論VI (Molecular and Cellular Biology I)	生物科学特論C2		生物科学特論F10	
	生物科学特論F1		生物科学特論D1		生物科学特論G7	
	生物科学特論F8		生物科学特論E1		生物科学特論G8	
	生物科学特論F11		生物科学特論E4		生物科学特論G9	
生物科学特論III (分子構造機能学I)	生物科学特論F6	生物科学特論VII (生物科学基礎C)	生物科学特論G3		生物科学特論X (生理機能学II)	生物科学特論A4
	生物科学特論G2		生物科学特論D4			生物科学特論C4
	生物科学特論G5		生物科学特論D5			生物科学特論D10
	生物科学特論G6		生物科学特論D7	生物科学特論D12		
	生物科学特論H1		生物科学特論D8	生物科学特論J1		
	生物科学特論H3		生物科学特論E5	生物科学特論XI (時間生物学II)	生物科学特論B1	
	生物科学特論H4		生物科学特論D2		生物科学特論B4	
生物科学特論IV (生理機能学I)	生物科学特論A1	生物科学特論VIII (生物科学基礎D)	生物科学特論F5	生物科学特論C3		
	生物科学特論A3		生物科学特論F3	生物科学特論C5		
	生物科学特論D9		生物科学特論G1	生物科学特論H2		
	生物科学特論F12		生物科学特論XII (Molecular and Cellular Biology II)	生物科学特論D3		
	生物科学特論J2			生物科学特論C6		

7) 履修手続きの流れ

履修登録は、学務情報システム「KOAN」にて行ってください。

URL <https://koan.osaka-u.ac.jp/>

web 履修登録期間終了後の登録、修正等は一切認められませんので、注意してください。

第1学期	履修登録期間	4月3日～4月25日
	要件外科目の修了要件認定手続き	4月26日～5月下旬

第2学期	履修登録期間	9月下旬～10月下旬
	要件外科目の修了要件認定手続き	10月下旬～11月下旬

詳細は掲示等でお知らせします。

※他専攻・他研究科の授業科目を受講し、修了要件単位とする場合は、「履修登録確認表」に指導教員の押印を受けたうえで、大学院係へ提出してください。

「履修登録確認表」は履修登録終了後に KOAN から印刷してください。

8) シラバスについて

理学研究科のシラバス（授業概要）は Web に掲載しています。詳細は下記 URL から参照してください。

KOAN

https://koan.osaka-u.ac.jp/syllabus_ex/campus

理学研究科ホームページ

<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/students/index-jp.html>

※どちらからでも同じ情報が参照できます。

9) 平成26年度 開講授業科目及び担当教員表

各専攻共通科目 (前・後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前・後期課程	科学技術論A			2		世話教員:北山辰樹(基) *
	科学技術論B	○		2	高杉 英一・長島 順清(阪大名誉教授)・村田 道雄・青山 道夫(福島大・環境放射能研究所)・高橋 里美(カネカ)他	世話教員:北山辰樹(基) *
	実践科学英語	○	○	2	未定	修了要件外
	科学英語基礎		○	1	E. M. ヘイル	修了要件外*
	リスク管理とコンプライアンス -社会に出たときのために-	○		2	山本 仁・石田 英之(研究推進部)・橘 善輝(研究推進部)・梅田 幸治(安全衛生)	*
	先端機器制御学	○		2	豊田 岐聡・兼松 泰男(産学)・市田 秀樹(産学)・中村 亮介(産学)・濱田 格雄(産学)	集中 ◆ (産学)は産学連携本部ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー所属(以下同じ)
	分光計測学	○		2	豊田 岐聡・兼松 泰男(産学)・濱田 格雄(産学)・中村 亮介(産学)・市田 秀樹(産学)	集中 ◆
	先端的研究法:質量分析	○		2	豊田 岐聡・倉光 成紀・青木 順・寺田 健太郎・高尾 敏文	集中、ナノ教育プログラム ◆
	先端的研究法:X線結晶解析	○		2	今田 勝巳・栗栖 源嗣・中川 敦史 他	集中 ◆
	先端的研究法:NMR	○		2	上垣 浩一(産業技術総合研究所)・林 文晶(理化学研究所)・村田 道雄・梅川 雄一	集中 ◆
	放射線計測基礎1	○		1	能町 正治	集中 ◆◇
放射線計測基礎2	○		1	能町 正治	集中 ◆◇	

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前・後期課程	放射線計測応用	○		2	青井 考(核)・能町 正治・王 惠仁(ONG HOOI JIN)(核)・高久 圭二(核)・鈴木 智和(核)・嶋 達志(核)	集中 ◇
	原子核物理基礎1			1	能町 正治	集中 ◇
	原子核物理基礎2			1	能町 正治	集中、英語科目 ◇
	放射線取扱基礎	○		1	能町 正治	集中 ◆◇
	放射線計測学概論1	○		1	能町 正治・高久 圭二(核)・鈴木 智和(核)	集中 ◇
	放射線計測学概論2	○		1	能町 正治	集中、英語科目 ◇
	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	○ 注3)		1	吉田 博(基)・小倉 昌子・黒木和彦・小川 哲生・草部 浩一(基)・佐藤 和則(工)・小口 多美夫(産)・白井 光雲(産)・笠井 秀明(工)・Wilson Agerico Tan Diño(工)・中西 寛(工)・森川 良忠(工)・後藤 英和(工)・稲垣 耕司(工)・小野 倫也(工)・下司 雅章(ナノ) 他	ナノ教育プログラム実習(集中)、世話教員:吉田 博(基) ※
	ナノプロセス・物性・デバイス学	○ 注3)		1	藤原 康文(工)・小泉 淳(工)・児島 貴徳(工)・夢田 博一(基)・山田 亮(基)・杉本 宜昭(工)・松本 和彦(産)・井上 恒一(産)・前橋 兼三(産)・大野 恭秀(産)・金井 康(産)・長谷川 繁彦(産)他	ナノ教育プログラム実習(集中)、世話教員:藤原 康文(工) ※
	超分子ナノバイオプロセス学	○ 注3)		1	荒木 勉(基)・橋本 守(基)・三宅 淳(基)・新岡 宏彦(基)・戸部 義人(基)・廣瀬 敬治(基)・原田 明・佐藤 尚弘・上田 昌宏・真嶋 哲朗(産)・藤塚 守(産)・川井 清彦(産)・立川 貴士(産)・近江 雅人(医) 他	ナノ教育プログラム実習(集中)、世話教員:荒木 勉(基) ※
ナノ構造・機能計測解析学	○ 注3)		1	竹田 精治(産)・冬広 明・保田 英洋(工)・西 竜治(電顕)・永瀬 丈嗣(電顕)・高井 義造(工)・菅原 康弘(工)・吉田 秀人(産)・難波 啓一(生)・加藤 貴之(生)・酒井 朗(基)・市川 聡(ナノ) 他	ナノ教育プログラム実習(集中)、世話教員:竹田精治(産) ※	

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前・後期課程	ナノフォトニクス学	○ 注3)		1	宮坂 博(基)・伊都 将司(基)・芦田 昌明(基)・河田 聡(工)・庄司 暁(工)・萩行 正憲(レ)・長島 健(レ)・井上 康志(生) 他	ナノ教育プログラム実習(集中)、世話教員:宮坂 博(基) ※

注1) 開講時期が無印は今年度開講しない。

注2) 博士後期課程の学生においては、上記全科目とも修了要件外とする。

注3) この授業科目は年2回、夏期に在学生用、春期に社会人用として開講され、どちらかを受講することで記載の単位修得とする。ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学以外は平成25年度のみ開講される。

* は学部と共通科目である。

◆は大学院高度副プログラム(基礎理学計測学)、◇は大学院高度副プログラム(放射線科学)の科目である。

※ ナノ教育プログラム実習(上記表中の5科目)は収容人数に制限があるため、履修希望者は4月に大学院係及びナノ高度学際教育研究訓練プログラムに履修申請し、許可を得るものとする。詳細はナノ教育研究訓練プログラムの冊子を参照すること。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	産学リエゾンPAL教育研究訓練	○		5	伊藤 正(ナノ)・小川 久仁(ナノ)・鈴木 正明(ナノ)・森田 清之(ナノ)・菰田 卓哉(ナノ)・原田 明	集中、ナノ教育プログラム 修了要件外
	高度学際萌芽研究訓練	○		5	伊藤 正(ナノ)・小川 久仁(ナノ)・吉田 博(基)・Wilson Agerico Tan Diño(工)・下司 雅章(ナノ)・小倉 昌子・多田 博一(基)・荒木 勉(基)・新岡 宏彦(基)・竹田 精治(産)・市川 聡(ナノ)・原田 明	集中、ナノ教育プログラム 修了要件外

化学・生物科学・高分子科学専攻共通科目

(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	大学院無機化学	○		2	石川直人・今野 巧・篠原 厚・塚原 聡・船橋靖博	BMCコア科目
	大学院物理化学	○		2	中澤 康浩・宗像 利明・水谷 泰久・奥村 光隆	BMCコア科目
	大学院有機化学	○		2	久保 孝史・笹井 宏明・村田 道雄	BMCコア科目
	生物科学特論A1			0.5	柿本 辰男・高田 忍・田中 博和	BMCコア科目
	生物科学特論A2			0.5	長谷 俊治・有賀(木股) 洋子	BMCコア科目
	生物科学特論A3			0.5	高木 慎吾・浅田 哲弘	BMCコア科目
	生物科学特論A4	○		0.5	中井 正人	BMCコア科目
	生物科学特論B1	○		0.5	西田 宏記・小沼 健	BMCコア科目
	生物科学特論B2			0.5	米崎 哲朗	BMCコア科目
	生物科学特論B3			0.5	蘇 智慧	BMCコア科目
	生物科学特論B4	○		0.5	橋本 主税	BMCコア科目
	生物科学特論B5			0.5	古屋 秀隆	BMCコア科目
	生物科学特論B6			0.5	小田 広樹	BMCコア科目
	生物科学特論B7			0.5	藤本 仰一	BMCコア科目
	生物科学特論B8			0.5	伊藤 一男	BMCコア科目
	生物科学特論B9		○	0.5	松野 健治・山川 智子	BMCコア科目、英語科目
	生物科学特論C1			0.5	小倉 明彦	BMCコア科目
	生物科学特論C2			0.5	河村 悟	BMCコア科目
	生物科学特論C3	○		0.5	吉川 和明	BMCコア科目
	生物科学特論C4	○		0.5	橋本 修志	BMCコア科目
	生物科学特論C5	○		0.5	富永(吉野)恵子	BMCコア科目
	生物科学特論C6		○	0.5	木村 幸太郎	BMCコア科目、英語科目
	生物科学特論C7			0.5	古川 貴久	BMCコア科目
	生物科学特論C8			0.5	大森 義裕	BMCコア科目
	生物科学特論D1			0.5	篠原 彰	BMCコア科目
	生物科学特論D2	○		0.5	関口 清俊・山田 雅司	BMCコア科目
	生物科学特論D3		○	0.5	滝澤 温彦	BMCコア科目、英語科目
	生物科学特論D4	○		0.5	田嶋 正二	BMCコア科目
	生物科学特論D5	○		0.5	平岡 泰	BMCコア科目
	生物科学特論D6			0.5	升方 久夫・高橋 達郎	BMCコア科目
	生物科学特論D7	○		0.5	原口 徳子	BMCコア科目
	生物科学特論D8	○		0.5	久保田 弓子	BMCコア科目
	生物科学特論D9			0.5	篠原 美紀	BMCコア科目
	生物科学特論D10			0.5	末武 勲	BMCコア科目
	生物科学特論D11			0.5	中川 拓郎	BMCコア科目
	生物科学特論D12	○		0.5	近重 裕次	BMCコア科目
	生物科学特論D13		○	0.5	北島 智也	BMCコア科目、英語科目
	生物科学特論E1			0.5	岡田 雅人	BMCコア科目
	生物科学特論E2	○		0.5	高木 淳一	BMCコア科目
	生物科学特論E3	○		0.5	岩崎 憲治・北郷 悠	BMCコア科目
	生物科学特論E4	○		0.5	名田 茂之	BMCコア科目
生物科学特論E5	○		0.5	加納 純子	BMCコア科目	
生物科学特論E6			0.5	上田 昌宏	BMCコア科目	
生物科学特論E7	○		0.5	小根山 千歳	BMCコア科目	
生物科学特論F1			0.5	倉光 成紀・中川 紀子	BMCコア科目	

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
	生物科学特論F2		○	0.5	栗栖 源嗣・田中 秀明	BMCコア科目、英語科目
	生物科学特論F3		○	0.5	後藤 祐児	BMCコア科目、英語科目
	生物科学特論F4			0.5		BMCコア科目
	生物科学特論F5			0.5		BMCコア科目
	生物科学特論F6			0.5	荒田 敏昭	BMCコア科目
	生物科学特論F8			0.5	大岡 宏造	BMCコア科目
	生物科学特論F9			0.5		BMCコア科目
	生物科学特論F10			0.5		BMCコア科目
	生物科学特論F11			0.5	増井 良治	BMCコア科目
	生物科学特論F12			0.5	三間 穰治	BMCコア科目
	生物科学特論G1	○		0.5	中川 敦史・山下 栄樹	BMCコア科目
	生物科学特論G2			0.5	中村 春木・鷹野 優	BMCコア科目
	生物科学特論G3			0.5	藤原 敏道	BMCコア科目
	生物科学特論G4			0.5	安永 照雄・後藤 直久・中村 昇太	BMCコア科目
	生物科学特論G5			0.5		BMCコア科目
	生物科学特論G6			0.5	金城 玲	BMCコア科目
	生物科学特論G7	○		0.5	児嶋 長次郎	BMCコア科目
	生物科学特論G8	○		0.5	鈴木 守	BMCコア科目
	生物科学特論G9			0.5		BMCコア科目
	生物科学特論H1			0.5	高尾 敏文	BMCコア科目
	生物科学特論H2			0.5		BMCコア科目
	生物科学特論H3			0.5	北條 裕信	BMCコア科目
	生物科学特論H4			0.5	川上 徹・佐藤 毅	BMCコア科目
前期課程	生物科学特論J1	○		0.5	奥村 宣明	BMCコア科目
	生物科学特論J2			0.5	久富 修	BMCコア科目
	生物科学特論J3	○		0.5	Thorsten Henrich	BMCコア科目、英語科目
	高分子有機化学	○		2	青島 真人・山口 浩靖	BMCコア科目
	高分子物理化学	○		2	佐藤 尚弘・井上 正志	BMCコア科目
	高分子凝集科学		○	2	原田 明・今田 勝巳	BMCコア科目 ナノ教育プログラム
	Current Topics I 「i-chemical biology: drug discovery」	○		1	大菊 鋼(田辺三菱製薬(株))	集中、BMCインテグレート ィッド科目、英語科目
	Current Topics II 「i-biomacromolecular science」	○		1	Olaf Karthaus(千歳科学技術大・光科学)	集中、BMCインテグレート ィッド科目、英語科目
	Current Topics III 「Epigenetics and chromosomes」	○		1	Susan Gasser(フリードリッヒ ミーシャー研究所)	集中、英語科目
	Current Topics IV			1		英語科目
	Current Topics V			1		英語科目
	Current Topics VI			1		英語科目
	Current Topics VII			1		英語科目
	Current Topics VIII			1		英語科目
	Current Topics IX			1		英語科目
	Current Topics X			1		英語科目

注) 開講学期が無印は今年度開講しない。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	Current Topics I 「i-chemical biology: drug discovery」	○		1	大菊 鋼(田辺三菱製薬(株))	集中、BMCインテグレートイッド科目、英語科目
	Current Topics II 「i-biomacromolecular science」	○		1	Olaf Karthaus (千歳科学技術大・光科学)	集中、BMCインテグレートイッド科目、英語科目
	Current Topics III 「Epigenetics and chromosomes」	○		1	Susan Gasser (フリードリッヒ ミーシャー研究所)	集中、英語科目
	Current Topics IV			1		英語科目
	Current Topics V			1		英語科目
	Current Topics VI			1		英語科目
	Current Topics VII			1		英語科目
	Current Topics VIII			1		英語科目
	Current Topics IX			1		英語科目
	Current Topics X			1		英語科目

注) 開講学期が無印は今年度開講しない。

数学専攻
(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	代数学概論I	○		2	日比 孝之	*
	代数学概論II			2		
	代数幾何学概論I		○	2	今野 一宏	*
	代数幾何学概論II			2		
	整数論概論I			2		
	整数論概論II			2		
	表現論概論	○		2	有木 進	*
	幾何学概論I		○	2	植田 一石	*
	幾何学概論II			2		
	微分幾何学概論I	○		2	小磯 憲史	*
	微分幾何学概論II			2		
	位相幾何学概論I			2		
	位相幾何学概論II	○		2	宮地 秀樹	*
	複素幾何学概論I			2		
	複素幾何学概論II		○	2	榎 一郎	*
	解析学概論I			2		
	解析学概論II		○	2	角 大輝	*
	関数解析学概論	○		2	土居 伸一	*
	微分方程式概論I			2		
	微分方程式概論II		○	2	松村 昭孝	
	確率論概論I	○		2	杉田 洋	*
	確率論概論II	○		2	杉田 洋	
	代数解析学概論		○	2	内田 素夫	
	大域数理学概論I			2		
	大域数理学概論II			2		
	非線形数理学概論			2		
	力学系概論			2		
	統計・情報数学概論	○		2	内田 雅之	*
	実験数学概論I			2		
	実験数学概論II			2		
	数式処理概論			2		
	組合せ論概論			2		
	応用数理学概論I	○		2	浅野 淳、堀井 俊宏、森 教輔 (日本アクチュアリー会)	*
	応用数理学概論II		○	2	関根 順	
数理物理学概論I		○	2	三町 勝久	*	
数理物理学概論II			2			
現代数理学概論	○		2	大山 陽介		
複雑系概論			2			
数理生物学概論			2			
数理工学概論		○	2	降旗 大介		

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	代数学特論			2		
	代数幾何学特論		○	2	臼井 三平	
	整数論特論	○		2	安田 正大	
	表現論特論			2		
	幾何学特論		○	2	大鹿 健一	
	微分幾何学特論			2		
	位相幾何学特論			2		
	複素幾何学特論			2		
	解析学特論			2		
	関数解析学特論		○	2	土居 伸一	*
	微分方程式特論			2		
	確率論特論		○	2	日野 正訓	
	代数解析学特論			2		
	大域数理学特論			2		
	複素多様体特論			2		
	非線形数理学特論			2		
	力学系特論			2		
	実験数学特論			2		
	数式処理特論			2		
	組合せ論特論			2		
	応用数理学特論I	○		2	降旗 大介	*
	応用数理学特論II		○	2	茶碗谷 毅	*
	現代数理学特論I			2		
	現代数理学特論II			2		
	数理物理学特論			2		
	数理生物学特論			2		
	複雑系特論			2		
	数物アドバンスコア1	○		2	後藤 竜司	
	数物アドバンスコア2		○	2	下田 正	
	シミュレーション理学特論			2		
	代数学特論III A			2		
	代数学特論III B			2		
	代数学特論IV A			2		
	代数学特論IV B			2		
	幾何学特論III A			2		
	幾何学特論III B			2		
	幾何学特論IV A			2		
	幾何学特論IV B			2		
	解析学特論III A			2		
	解析学特論III B			2		
解析学特論IV A			2			
解析学特論IV B			2			

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	大域数理学特論IIIA			2		
	大域数理学特論IIIB			2		
	大域数理学特論IVA			2		
	大域数理学特論IVB			2		
	実験数学特論IIIA			2		
	実験数学特論IIIB			2		
	実験数学特論IVA			2		
	実験数学特論IVB			2		
	現代数理学特論IIIA			2		
	現代数理学特論IVA			2		
	保険数理学特論IA	○		2	湯浅 味代士	
	保険数理学特論IB		○	2	湯浅 味代士	
	保険数理学特論IC	○		2	盛田 健彦	*
	保険数理学特論ID	○		2	湯浅 味代士	
	保険数理学特論IIA		○	2	湯浅 味代士	
	保険数理学特論IIB		○	2	湯浅 味代士	
	保険数理学特論IIC	○		2	湯浅 味代士	
	保険数理学特論IID	○		2	湯浅 味代士	
	保険数理学特論IIIA	○		2	大塚 忠義(金融保険教育研究センター非常勤講師)	
	保険数理学特論IIIB		○	2	大塚 忠義(金融保険教育研究センター非常勤講師)	
	保険数理学特論IVA			2		
	保険数理学特論IVB		○	2	湯浅 味代士	
	数学特別講義IA	○		1	斎藤 毅(東京大・院・数理科学)	集中
	数学特別講義IB			1		
	数学特別講義IIA		○	1	遠藤 久顕(東京工業大・院・理工)	集中
	数学特別講義IIB			1		
	数学特別講義IIIA		○	1	加藤 圭一(東京理科大・理)	集中
	数学特別講義IIIB			1		
	数学特別講義IVA	○		1	小木曾 啓示	集中
	数学特別講義IVB			1		
	数学特別講義VA		○	1	亀谷 幸生	集中
	数学特別講義VB			1		
	数学特別講義VIA		○	1	池田 京司(東京電機大・工)	集中
	数学特別講義VIB			1		
	数学特別講義VIIA		○	1	山ノ井 克俊(東京工業大・院・理工)	集中
	数学特別講義VIIB			1		
	数学特別講義IIIA		○	1	辻井 正人(九州大・院・数理)	集中
	数学特別講義IIIB			1		
	数学特別講義 IX A		○	1	庄司 俊明(同済大・数学系)	集中
	数学特別講義 IX B			1		
数学特別講義 X A			1			
数学特別講義 X B			1			

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	代数学基礎セミナーI	○		9	中村 博昭、有木 進、宇野 勝博、落合 理、村井 聡、大川 新之介	※
	代数学基礎セミナーII	○		9	臼井 三平、今野 一宏、小木曾 啓示、森山 知則、安田 健彦	※
	幾何学基礎セミナーI	○		9	小磯 憲史、榎 一郎	※
	幾何学基礎セミナーII	○		9	大鹿 健一、菊池 和徳、宮地 秀樹、金 英子	※
	解析学基礎セミナーI	○		9	林 仲夫、杉田 洋、盛田 健彦、角 大輝、深澤 正彰	※
	解析学基礎セミナーII	○		9	西谷 達雄、土居 伸一、内田 素夫、富田 直人	※
	大域数理学基礎セミナーI	○		9	後藤 竜司、小林 治、和田 昌昭、植田 一石	※
	大域数理学基礎セミナーII	○		9	満洲 俊樹、小松 玄、石田 政司	※
	実験数学基礎セミナーI	○		9	渡部 隆夫、茶碗谷 毅	※
	実験数学基礎セミナーII	○		9	日比 孝之、藤原 彰夫	※
	応用数理学基礎セミナーI	○		9	小田中 紳二、鈴木 讓、降旗 大介、高橋 篤史、安田 正大	※
	応用数理学基礎セミナーII	○		9	三町 勝久、三木 敬、大山 陽介、砂川 秀明	※
	現代数理学基礎セミナー	○		9	松村 昭孝、永友 清和	※
	代数学セミナーI	○		9	中村 博昭、有木 進、宇野 勝博、落合 理、村井 聡、大川 新之介	※
	代数学セミナーII	○		9	臼井 三平、今野 一宏、小木曾 啓示、森山 知則、安田 健彦	※
	幾何学セミナーI	○		9	小磯 憲史、榎 一郎	※
	幾何学セミナーII	○		9	大鹿 健一、菊池 和徳、宮地 秀樹、金 英子	※
	解析学セミナーI	○		9	林 仲夫、杉田 洋、盛田 健彦、角 大輝、深澤 正彰	※
	解析学セミナーII	○		9	西谷 達雄、土居 伸一、内田 素夫、富田 直人	※
	大域数理学セミナーI	○		9	後藤 竜司、小林 治、和田 昌昭、植田 一石	※
	大域数理学セミナーII	○		9	満洲 俊樹、小松 玄、石田 政司	※
	実験数学セミナーI	○		9	渡部 隆夫、茶碗谷 毅	※
	実験数学セミナーII	○		9	日比 孝之、藤原 彰夫	※
	応用数理学セミナーI	○		9	小田中 紳二、鈴木 讓、降旗 大介、高橋 篤史、安田 正大	※
	応用数理学セミナーII	○		9	三町 勝久、三木 敬、大山 陽介、砂川 秀明	※
	現代数理学セミナー	○		9	松村 昭孝、永友 清和	※

注)開講時期が無印は今年度開講しない。

*は学部と共通科目である。

※は、各教員がそれぞれのセミナーを開講する。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考	
		第1学期	第2学期				
後期課程	特別講義IA	○		1	斎藤 毅(東京大・院・数理科学)	集中	
	特別講義IB			1			
	特別講義IIA		○	1	遠藤 久顕(東京工業大・院・理工)	集中	
	特別講義IIB			1			
	特別講義IIIA		○	1	加藤 圭一(東京理科大・理)	集中	
	特別講義IIIB			1			
	特別講義IVA	○		1	小木曾 啓示	集中	
	特別講義IVB			1			
	特別講義VA		○	1	亀谷 幸生	集中	
	特別講義VB			1			
	特別講義VIA		○	1	池田 京司(東京電機大・工)	集中	
	特別講義VIB			1			
	特別講義VIIA		○	1	山ノ井 克俊(東京工業大・院・理工)	集中	
	特別講義VIIB			1			
	特別講義VIIIA		○	1	辻井 正人(九州大・院・数理)	集中	
	特別講義VIIIB			1			
	特別講義IXA		○	1	庄司 俊明(同済大・数学系)	集中	
	特別講義IXB			1			
	特別講義XA			1			
	特別講義XB			1			
	代数学特別セミナー 1		○		9	臼井 三平、今野 一宏、小木曾 啓示、 中村 博昭、有木 進、宇野 勝博、落合理、 森山 知則、安田 健彦、村井 聡、 大川 新之介	※
	代数学特別セミナー 2		○		9	臼井 三平、今野 一宏、小木曾 啓示、 中村 博昭、有木 進、宇野 勝博、落合理、 森山 知則、安田 健彦、村井 聡、 大川 新之介	※
	代数学特別セミナー 3		○		9	臼井 三平、今野 一宏、小木曾 啓示、 中村 博昭、有木 進、宇野 勝博、落合理、 森山 知則、安田 健彦、村井 聡、 大川 新之介	※
	幾何学特別セミナー 1		○		9	小磯 憲史、大鹿 健一、榎 一郎、 菊池 和徳、宮地 秀樹、金 英子	※
	幾何学特別セミナー 2		○		9	小磯 憲史、大鹿 健一、榎 一郎、 菊池 和徳、宮地 秀樹、金 英子	※
	幾何学特別セミナー 3		○		9	小磯 憲史、大鹿 健一、榎 一郎、 菊池 和徳、宮地 秀樹、金 英子	※

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	解析学特別セミナー 1	○		9	西谷 達雄、林 仲夫、杉田 洋、盛田 健彦、土居 伸一、内田 素夫、角 大輝、富田 直人、深澤 正彰	※
	解析学特別セミナー 2	○		9	西谷 達雄、林 仲夫、杉田 洋、盛田 健彦、土居 伸一、内田 素夫、角 大輝、富田 直人、深澤 正彰	※
	解析学特別セミナー 3	○		9	西谷 達雄、林 仲夫、杉田 洋、盛田 健彦、土居 伸一、内田 素夫、角 大輝、富田 直人、深澤 正彰	※
	応用数理学特別セミナー 1	○		9	小田中 紳二、鈴木 讓、三町 勝久、三木 敬、大山 陽介、降旗 大介、高橋 篤史、砂川 秀明、安田 正大	※
	応用数理学特別セミナー 2	○		9	小田中 紳二、鈴木 讓、三町 勝久、三木 敬、大山 陽介、降旗 大介、高橋 篤史、砂川 秀明、安田 正大	※
	応用数理学特別セミナー 3	○		9	小田中 紳二、鈴木 讓、三町 勝久、三木 敬、大山 陽介、降旗 大介、高橋 篤史、砂川 秀明、安田 正大	※
	大域数理学特別セミナー 1	○		9	後藤 竜司、満洲 俊樹、小林 治、和田 昌昭、小松 玄、植田 一石、石田 政司	※
	大域数理学特別セミナー 2	○		9	後藤 竜司、満洲 俊樹、小林 治、和田 昌昭、小松 玄、植田 一石、石田 政司	※
	大域数理学特別セミナー 3	○		9	後藤 竜司、満洲 俊樹、小林 治、和田 昌昭、小松 玄、植田 一石、石田 政司	※
	実験数学特別セミナー 1	○		9	日比 孝之、渡部 隆夫、藤原 彰夫、茶碗谷 毅	※
	実験数学特別セミナー 2	○		9	日比 孝之、渡部 隆夫、藤原 彰夫、茶碗谷 毅	※
	実験数学特別セミナー 3	○		9	日比 孝之、渡部 隆夫、藤原 彰夫、茶碗谷 毅	※
	現代数理学特別セミナー 1	○		9	松村 昭孝、永友 清和	※
	現代数理学特別セミナー 2	○		9	松村 昭孝、永友 清和	※
	現代数理学特別セミナー 3	○		9	松村 昭孝、永友 清和	※

注) 開講時期が無印は今年度開講しない。

* は学部と共通科目である。

※は、各教員がそれぞれのセミナーを開講する。

物理学専攻

共通授業科目(A、B、Cコース共通)

(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	加速器科学		○	2	磯山 悟朗	◆◇
	自由電子レーザー学			2	磯山 悟朗	
	レーザー物理学	○		2	重森 啓介	ナノ教育プログラム
	複雑系物理学		○	2	渡辺 純二	
	相転移論			2	阿久津 泰弘	
	ニュートリノ物理学			2	久野 良孝	
	非線形物理学			2	未定	
	原子核反応論	○		2	緒方 一介	
	素粒子物理学I		○	2	尾田 欣也	
	数物アドバンスコア1	○		2	後藤 竜司	
	数物アドバンスコア2		○	2	下田 正	
	Field Theory	○		2	保坂 淳	英語科目、修了要件外
	Nuclear Physics in the Universe	○		2	藤田 佳孝	英語科目、修了要件外
	General Relativity	○		2	Luca Baiotti	英語科目、修了要件外
Mathematics for Physics	○		2	Luca Baiotti	英語科目、修了要件外	

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

◆は大学院高度副プログラム(基礎理学計測学)、◇は大学院高度副プログラム(放射線科学)の科目である。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	Topical Seminar I		○	1	未定	集中(MC・DC共通)、英語科目
	Topical Seminar II	○		1	Adam Pawel Falkowski(パリ大学・オルセー校)	集中(MC・DC共通)、英語科目
	Topical Seminar III			1		集中(MC・DC共通)、英語科目
	Topical Seminar IV			1		集中(MC・DC共通)、英語科目

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

物理学専攻

Aコース(理論系:基礎物理学・量子物理学コース)

(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	【基礎科目】					
	場の理論序説	○		2	窪田 高弘	* 修了要件外
	原子核理論序説		○	2	保坂 淳	
	散乱理論			2	未定	
	一般相対性理論	○		2	大野木 哲也	* 修了要件外
	【専門科目】					
	素粒子物理学II			2	窪田 高弘	
	場の理論I	○		2	大野木 哲也	英語科目
	場の理論II		○	2	橋本 幸士	
	原子核理論	○		2	浅川 正之	
	物性理論I			2	浅野 建一	ナノ教育プログラム
	物性理論II			2	Keith M. Slevin	英語科目、 ナノ教育プログラム
	固体電子論I			2	黒木 和彦	ナノ教育プログラム
	固体電子論II	○		2	小口 多美夫	ナノ教育プログラム
	量子多体系の物理	○		2	小川 哲生	英語科目、 ナノ教育プログラム
	【トピック】					
	素粒子物理学特論I	○		2	細谷 裕	英語科目
	素粒子物理学特論II		○	2	山口 哲	
	原子核理論特論I	○		2	佐藤 透	
	原子核理論特論II		○	2	若松 正志	
	物性理論特論I			2	阿久津 泰弘	
	物性理論特論II			2	菊池 誠	
	【セミナー】					
	素粒子論半期セミナーI	○	○	4.5	大野木 哲也・田中 実・深谷 英則	
	素粒子論半期セミナーII	○	○	4.5	窪田 高弘	
	場の理論半期セミナーI	○	○	4.5	橋本 幸士・山口 哲・飯塚 則裕	
	場の理論半期セミナーII	○	○	4.5	細谷 裕・尾田 欣也・南部 陽一郎・ Wade Naylor	
	原子核理論半期セミナーI	○	○	4.5	浅川 正之・佐藤 透・若松 正志・ 北澤 正清	
	原子核理論半期セミナーII	○	○	4.5	保坂 淳・緒方 一介	
	多体問題半期セミナーI	○	○	4.5	阿久津 泰弘	
	多体問題半期セミナーII	○	○	4.5	菊池 誠・吉野 元	
	物性理論半期セミナーI	○	○	4.5	黒木 和彦・Keith M.Slevin・坂本 好史・ 小倉 昌子	
	物性理論半期セミナーII	○	○	4.5	小口 多美夫・白井 光雲・山内 邦彦・ 翔田 浩義	
数理物理学半期セミナー	○	○	4.5	小川 哲生・浅野 建一・大橋 琢磨		

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

*は学部と共通科目である。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	【トピック】					
	特別講義AI 「高密度物質と中性子星の物理」	○		1	大西 明(京都大・基礎物理学研究所)	集中(MC・DC共通)
	特別講義AII 「観測的宇宙論入門」		○	1	杉山 直(名古屋大・院・理)	集中(MC・DC共通)
	特別講義AIII 「いろいろな次元の超対称ゲージ理論、基礎から応用まで」		○	1	立川 裕二(東京大・院・理)	集中(MC・DC共通)
	特別講義AIV 「グラフェンとディラック電子系の物理」		○	1	越野 幹人(東北大・院・理)	集中(MC・DC共通) ナノ教育プログラム
	特別講義AV 「多体電子論」		○	1	楠瀬 博明(愛媛大・院・理工)	集中(MC・DC共通) ナノ教育プログラム
	【セミナー】					
	場の理論特別セミナー	○		9	細谷 裕・尾田 欣也・南部 陽一郎・Wade Naylor	
	場の数理論特別セミナー	○		9	橋本 幸士・山口 哲・飯塚 則裕	
	素粒子論特別セミナー	○		9	大野木 哲也・田中 実・深谷 英則	
	素粒子論的宇宙論特別セミナー	○		9	窪田 高弘	
	原子核理論特別セミナー	○		9	浅川 正之・佐藤 透・若松 正志・北澤 正清	
	多体問題特別セミナー	○		9	保坂 淳・緒方 一介	
	物性理論特別セミナーI	○		9	黒木 和彦・Keith M.Slevin・坂本 好史・小倉 昌子	
物性理論特別セミナーII	○		9	小口 多美夫・白井 光雲・山内 邦彦・靱田 浩義		
統計物理学特別セミナー	○		9	阿久津 泰弘・菊池 誠・吉野 元		
数理物理学特別セミナー	○		9	小川 哲生・浅野 建一・大橋 琢磨		

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

物理学専攻

Bコース(実験系・素粒子・核物理学コース)

(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	【基礎科目】					
	素粒子物理学序論A	○		2	久野 良孝	* 修了要件外
	素粒子物理学序論B		○	2	青木 正治	* 修了要件外
	原子核物理学序論	○		2	松多 健策	* 修了要件外
	【専門科目】					
	高エネルギー物理学I	○		2	花垣 和則	
	高エネルギー物理学II		○	2	青木 正治	
	原子核構造学	○		2	小田原 厚子・民井 淳	
	加速器物理学	○		2	畑中 吉治	◆
	放射線計測学	○		2	下田 正	◆◇
	【トピック】					
	高エネルギー物理学特論I	○		2	久野 良孝	
	高エネルギー物理学特論II			2	山中 卓	
	素粒子・核分光特論	○		2	吉田 斉	
	原子核物理学特論I	○		2	野海 博之	
	原子核物理学特論II		○	2	青井 考	
	ハドロン多体系物理学特論		○	2	與曾井 優	
	【セミナー】					
	高エネルギー物理学半期セミナーI	○	○	4.5	山中 卓・花垣 和則・外川 学	
	高エネルギー物理学半期セミナーII	○	○	4.5	久野 良孝・青木 正治・佐藤 朗	
	クォーク核物理学半期セミナー	○	○	4.5	中野 貴志・野海 博之・與曾井 優・堀田 智明・味村 周平	
	原子核構造半期セミナーI	○	○	4.5	下田 正・小田原 厚子・清水 俊	
	原子核構造半期セミナーII	○	○	4.5	松多 健策・福田 光順・三原 基嗣	
	原子核反応半期セミナー	○	○	4.5	青井 考・民井 淳・嶋 達志・鈴木 智和・高久 圭二・井手口 栄治	
	核反応計測学半期セミナー	○	○	4.5	能町 正治・藤田 佳孝・菅谷 頼仁	
	加速器科学半期セミナー	○	○	4.5	畑中 吉治・福田 光宏・依田 哲彦	
	レプトン核科学半期セミナー	○	○	4.5	岸本 忠史・阪口 篤志・吉田 斉	
	高エネルギー密度物理半期セミナー	○	○	4.5	疇地 宏・重森 啓介	
	放射光半期セミナー	○	○	4.5	磯山 悟朗・井上 恒一・加藤 龍好・入澤 明典・川瀬 啓悟	

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

*は学部と共通科目である。

◆は大学院高度副プログラム(基礎理学計測学)、◇は大学院高度副プログラム(放射線科学)の科目である。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
	【トピック】					
	特別講義BI 「113番元素発見物語－超重元素領域の核融合メカニズムと探索技術」	○		1	森田 浩介(九州大・院・理)	集中(MC・DC共通)
	特別講義BII 「電子線を用いたストレンジネス核物理」	○		1	中村 哲(東北大・院・理)	集中(MC・DC共通)
	特別講義BIII 「電子陽電子コライダーの物理」		○	1	川越 清以(九州大・院・理)	集中(MC・DC共通)
	特別講義BIV			1		集中(MC・DC共通)
	特別講義BV			1		集中(MC・DC共通)
	【セミナー】					
後期課程	高エネルギー物理学特別セミナーI	○		9	山中 卓・花垣 和則・外川 学	
	高エネルギー物理学特別セミナーII	○		9	久野 良孝・青木 正治・佐藤 朗	
	原子核構造特別セミナーI	○		9	下田 正・小田原 厚子・清水 俊	
	原子核構造特別セミナーII	○		9	松多 健策・福田 光順・三原 基嗣	
	バリオン核分光学特別セミナー	○		9	岸本 忠史・阪口 篤志・吉田 斉	
	核反応計測学特別セミナー	○		9	能町 正治・藤田 佳孝・菅谷 頼仁	
	クォーク核物理学特別セミナー	○		9	中野 貴志・野海 博之・與曾井 優・堀田 智明・味村 周平	
	原子核反応特別セミナー	○		9	青井 考・民井 淳・嶋 達志・鈴木 智和・高久 圭二・井手口 栄治	
	加速器科学特別セミナー	○		9	畑中 吉治・福田 光宏・依田 哲彦	
	高エネルギー密度物理特別セミナー	○		9	疇地 宏・重森 啓介	
	放射光特別セミナー	○		9	磯山 悟朗・井上 恒一・加藤 龍好・入澤 明典・川瀬 啓悟	

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

物理学専攻

Cコース(実験系・物性物理学コース)

(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	【基礎科目】					
	固体物理学概論1	○		2	小林 研介	* 修了要件外
	固体物理学概論2		○	2	黒木 和彦	* 修了要件外
	固体物理学概論3	○		2	田島 節子	* 修了要件外
	放射光物理学	○		2	磯山 悟朗	ナノ教育プログラム ◆
	極限光物理学	○		2	疇地 宏	* 修了要件外
	【専門科目】					
	光物性物理学	○		2	田島 節子・宮坂 茂樹	英語科目
	半導体物理学	○		2	鷹岡 貞夫・長谷川 繁彦	
	超伝導物理学			2	田島 節子・宮坂 茂樹	
	量子分光学			2	未定	ナノ教育プログラム
	シンクロトロン分光学	○		2	木村 真一	
	荷電粒子光学概論			2	石原 盛男	ナノ教育プログラム
	孤立系イオン物理学		○	2	豊田 岐聡	ナノ教育プログラム ◆
	量子多体制御物理学		○	2	小林 研介	
	【トピック】					
	強磁場物理学		○	2	萩原 政幸・杉山 清寛・木田 孝則	
	ナノ構造物性物理学		○	2	野末 泰夫・中野 岳仁	ナノ教育プログラム
	強相関係物理学		○	2	花咲 徳亮・村川 寛	
	重い電子系の物理	○		2	杉山 清寛	
	極限物質創成学			2	未定	ナノ教育プログラム
	【セミナー】					
	メゾスコピック物理半期セミナー	○	○	4.5	小林 研介・荒川 智紀	
	質量分析物理半期セミナー	○	○	4.5	豊田 岐聡・石原 盛男・青木 順	
	超伝導半期セミナー	○	○	4.5	田島 節子・宮坂 茂樹・中島 正道	
	ナノ構造物性半期セミナー	○	○	4.5	野末 泰夫・鷹岡 貞夫・中野 岳仁・高見 剛	
	半導体半期セミナー	○	○	4.5	長谷川 繁彦・江村 修一・周 逸凱	
量子物性半期セミナー	○	○	4.5	花咲 徳亮・村川 寛		
光物性半期セミナー	○	○	4.5	木村 真一・渡辺 純二・吉岡 伸也・大坪 喜之		
強磁場物理半期セミナー	○	○	4.5	萩原 政幸・杉山 清寛・木田 孝則		

注) 開講学期が無印は今年度開講しない。

* は学部と共通科目である。

◆ は大学院高度副プログラム(基礎理学計測学)の科目である。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	【トピック】					
	特別講義CI 「高分解能光電子分光によるフェルミオロジー」	○		1	島田 賢也(広島大・放射光科学研究センター)	集中(MC・DC共通)
	特別講義CII 「ナノ極限環境の新奇量子流体」		○	1	和田 信雄(名古屋大・院・理)	集中(MC・DC共通)
	特別講義CIII 「電子材料としての電荷移動錯体の化学」		○	1	松田 真生(熊本大・院・自然科学)	集中(MC・DC共通)
	特別講義CIV			1		
	特別講義CV			1		
	【セミナー】					
	メゾスコピック物理特別セミナー	○		9	小林 研介・荒川 智紀	
	強磁場物理特別セミナー	○		9	萩原 政幸・杉山 清寛・木田 孝則	
	ナノ構造物性特別セミナー	○		9	野末 泰夫・鷹岡 貞夫・中野 岳仁・高見 剛	
	半導体特別セミナー	○		9	長谷川 繁彦・江村 修一・周 逸凱	
	超伝導特別セミナー	○		9	田島 節子・宮坂 茂樹・中島 正道	
	質量分析物理特別セミナー	○		9	豊田 岐聡・石原 盛男・青木 順	
	量子物性特別セミナー	○		9	花咲 徳亮・村川 寛	
光物性特別セミナー	○		9	木村 真一・渡辺 純二・吉岡 伸也・大坪 喜之		

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

化学専攻
Aコース(無機及び物理化学)
(前期課程)

課程	授業科目	時期		単 位	担当教員	備考
		第 1 学 期	第 2 学 期			
前期課程	生物無機化学(I)	○		1	船橋 靖博	
	分離化学(I)			1	塚原 聡	英語科目
	物性錯体化学1(I)	○		1	石川 直人	ナ教育プログラム
	物性錯体化学2(I)		○	1	山口 和也	ナ教育プログラム
	構造錯体化学(I)		○	1	今野 巧・井頭 麻子	ナ教育プログラム
	核化学1(I)	○		1	篠原 厚	◆◇
	核化学2(I)		○	1	吉村 崇	
	量子化学(I)	○		1	奥村 光隆・川上 貴資・北河 康隆・山中 秀介	ナ教育プログラム、英語科目
	核磁気共鳴分光学(I)	○		1	上田 貴洋・豊田 二郎・宮久保 圭祐	◆
	化学反応論(I)	○		1	松本 卓也・大山 浩	ナ教育プログラム
	生物物理化学(I)		○	1	水谷 泰久	ナ教育プログラム
	凝縮系物理化学(I)		○	1	中澤 康浩	
	表面化学(I)	○		1	宗像 利明	ナ教育プログラム
	構造熱科学(I)	○		1	中野 元裕・宮崎 裕司・長野 八久	
	構造物性化学(I)	○		1	谷口 正輝・筒井 真楠	
	半導体化学(I)	○		1	小林 光・高橋 昌男	ナ教育プログラム
	生体分子動的解析学(I)		○	1	中村 春木・藤原 敏道・児嶋 長次郎・ 鷹野 優	
	固体電子物性	○		2	中澤 康浩	*
	無機分光化学概論	○		2	船橋 靖博・山口 和也・高橋 成人	*◆
	錯体化学特論 「金属錯体の電子移動と電子機能」	○		1	西原 寛(東京大・院・理)	集中
	量子化学特論 「複雑分子系の励起状態と分子間相互作用:理論と応用」	○		1	長谷川 淳也(北海道大・触媒化学センター)	集中
	化学アドバンスト実験		○	1	村田 道雄・石川 直人・松森 信明・冬広 明・ 和泉 雅之・花島 慎弥・高城 大輔・田中 大輔・ 平尾 泰一・水野 操・鈴木 健之その他BMCインテグレーションプログラム関連教員	集中 実習 Aコース・Bコース 共通
	サイエンスコア1			1		BMCセミナー
	サイエンスコア2			1		BMCセミナー
	インタラクティブセミナーI		○	1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー
	インタラクティブセミナーII		○	1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー
	生物無機化学半期セミナーI	○	○	4.5	船橋 靖博	
	生物無機化学半期セミナーII	○	○	4.5	船橋 靖博	
	分析化学半期セミナーI	○	○	4.5	塚原 聡	
	分析化学半期セミナーII	○	○	4.5	塚原 聡	
	物性錯体化学半期セミナーAI	○	○	4.5	石川 直人	
	物性錯体化学半期セミナーBI	○	○	4.5	山口 和也	
	物性錯体化学半期セミナーAII	○	○	4.5	石川 直人	
	物性錯体化学半期セミナーBII	○	○	4.5	山口 和也	
	構造錯体化学半期セミナーI	○	○	4.5	今野 巧	
	構造錯体化学半期セミナーII	○	○	4.5	今野 巧	
	核化学半期セミナーAI	○	○	4.5	篠原 厚	
	核化学半期セミナーBI	○	○	4.5	吉村 崇	
	核化学半期セミナーAII	○	○	4.5	篠原 厚	
	核化学半期セミナーBII	○	○	4.5	吉村 崇	
	量子化学半期セミナーI	○	○	4.5	奥村 光隆	
	量子化学半期セミナーII	○	○	4.5	奥村 光隆	
	核磁気共鳴分光学半期セミナーI	○	○	4.5	上田 貴洋・豊田 二郎・宮久保 圭祐	
	核磁気共鳴分光学半期セミナーII	○	○	4.5	上田 貴洋・豊田 二郎・宮久保 圭祐	
	反応化学半期セミナーI	○	○	4.5	松本 卓也	
	反応化学半期セミナーII	○	○	4.5	松本 卓也	
	粒子ビーム化学半期セミナーI	○	○	4.5	岡田 美智雄	
粒子ビーム化学半期セミナーII	○	○	4.5	岡田 美智雄		
生物物理化学半期セミナーI	○	○	4.5	水谷 泰久		
生物物理化学半期セミナーII	○	○	4.5	水谷 泰久		
凝縮系物理化学半期セミナーI	○	○	4.5	中澤 康浩		
凝縮系物理化学半期セミナーII	○	○	4.5	中澤 康浩		
表面化学半期セミナーI	○	○	4.5	宗像 利明		
表面化学半期セミナーII	○	○	4.5	宗像 利明		
構造熱科学半期セミナーI	○	○	4.5	中野 元裕・長野 八久・宮崎 裕司		
構造熱科学半期セミナーII	○	○	4.5	中野 元裕・長野 八久・宮崎 裕司		
構造物性化学半期セミナーI	○	○	4.5	谷口 正輝		
構造物性化学半期セミナーII	○	○	4.5	谷口 正輝		
半導体化学半期セミナーI	○	○	4.5	小林 光・高橋 昌男		
半導体化学半期セミナーII	○	○	4.5	小林 光・高橋 昌男		
生体分子動的解析学半期セミナーI	○	○	4.5	中村 春木		
生体分子動的解析学半期セミナーII	○	○	4.5	中村 春木		
生体分子機能構造計測学半期セミナーI	○	○	4.5	藤原 敏道・児嶋 長次郎		
生体分子機能構造計測学半期セミナーII	○	○	4.5	藤原 敏道・児嶋 長次郎		

注1) 開講学期が無印は今年度開講しない。

注2) セミナーについては、平成18年度以前入学者も4.5単位科目を修得すれば、修了要件として認める。

注3) BMCコア科目は選択必修とする(修了要件は4単位)。

注4) BMCセミナーは選択必修とする(修了要件は1単位)。

*は学部と共通科目である。

◆は大学院高度副プログラム(基礎理化学計測学)、◇は大学院高度副プログラム(放射線科学)の科目である。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後 期 課 程	特別講義AI 「金属錯体の電子移動と電子機能」	○		1	西原 寛(東京大・院・理)	集中
	特別講義AII 「複雑分子系の励起状態と分子間相互作用:理論と応用」	○		1	長谷川 淳也(北海道大・触媒化学センター)	集中
	インタラクティブ特別セミナー1	○		1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー
	インタラクティブ特別セミナー2		○	1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー
	生物無機化学特別セミナーI	○		9	船橋 靖博	
	生物無機化学特別セミナーII	○		9	船橋 靖博	
	生物無機化学特別セミナーIII	○		9	船橋 靖博	
	分析化学特別セミナーI	○		9	塚原 聡	
	分析化学特別セミナーII	○		9	塚原 聡	
	分析化学特別セミナーIII	○		9	塚原 聡	
	物性錯体化学特別セミナーAI	○		9	石川 直人	
	物性錯体化学特別セミナーAII	○		9	石川 直人	
	物性錯体化学特別セミナーAIII	○		9	石川 直人	
	物性錯体化学特別セミナーBI	○		9	山口 和也	
	物性錯体化学特別セミナーBII	○		9	山口 和也	
	物性錯体化学特別セミナーBIII	○		9	山口 和也	
	構造錯体化学特別セミナーI	○		9	今野 巧	
	構造錯体化学特別セミナーII	○		9	今野 巧	
	構造錯体化学特別セミナーIII	○		9	今野 巧	
	核化学特別セミナーAI	○		9	篠原 厚	
	核化学特別セミナーAII	○		9	篠原 厚	
	核化学特別セミナーAIII	○		9	篠原 厚	
	核化学特別セミナーBI	○		9	吉村 崇	
	核化学特別セミナーBII	○		9	吉村 崇	
	核化学特別セミナーBIII	○		9	吉村 崇	
	量子化学特別セミナーI	○		9	奥村 光隆	
	量子化学特別セミナーII	○		9	奥村 光隆	
	量子化学特別セミナーIII	○		9	奥村 光隆	
	核磁気共鳴分光学特別セミナーI	○		9	上田 貴洋	
	核磁気共鳴分光学特別セミナーII	○		9	上田 貴洋	
	核磁気共鳴分光学特別セミナーIII	○		9	上田 貴洋	
	反応化学特別セミナーI	○		9	松本 卓也	
	反応化学特別セミナーII	○		9	松本 卓也	
	反応化学特別セミナーIII	○		9	松本 卓也	
	粒子ビーム化学特別セミナーI	○		9	岡田美智雄	
	粒子ビーム化学特別セミナーII	○		9	岡田美智雄	
	粒子ビーム化学特別セミナーIII	○		9	岡田美智雄	
	生物物理化学特別セミナーI	○		9	水谷 泰久	
	生物物理化学特別セミナーII	○		9	水谷 泰久	
	生物物理化学特別セミナーIII	○		9	水谷 泰久	
	凝縮系物理化学特別セミナーI	○		9	中澤 康浩	
	凝縮系物理化学特別セミナーII	○		9	中澤 康浩	
	凝縮系物理化学特別セミナーIII	○		9	中澤 康浩	
	表面化学特別セミナーI	○		9	宗像 利明	
	表面化学特別セミナーII	○		9	宗像 利明	
表面化学特別セミナーIII	○		9	宗像 利明		
構造熱科学特別セミナーI	○		9	中野 元裕		
構造熱科学特別セミナーII	○		9	中野 元裕		
構造熱科学特別セミナーIII	○		9	中野 元裕		
構造物性化学特別セミナーI	○		9	谷口 正輝		
構造物性化学特別セミナーII	○		9	谷口 正輝		
構造物性化学特別セミナーIII	○		9	谷口 正輝		
半導体化学特別セミナーI	○		9	小林 光		
半導体化学特別セミナーII	○		9	小林 光		
半導体化学特別セミナーIII	○		9	小林 光		
生体分子動的解析学特別セミナーI	○		9	中村 春木		
生体分子動的解析学特別セミナーII	○		9	中村 春木		
生体分子動的解析学特別セミナーIII	○		9	中村 春木		
生体分子機能構造計測学特別セミナーI	○		9	藤原 敏道		
生体分子機能構造計測学特別セミナーII	○		9	藤原 敏道		
生体分子機能構造計測学特別セミナーIII	○		9	藤原 敏道		

注1) 開講学期が無印は今年度開講しない。

注2) BMCセミナーは必修とする。

化学専攻
Bコース(有機化学)
(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考	
		第1学期	第2学期				
前期課程	天然物有機化学(I)	○		1	深瀬 浩一・豊島 正・西内 祐二・茅野 直良	英語科目	
	有機生物化学(I)	○		1	梶原 康宏	英語科目	
	ゲノム化学(I)	○		1	中谷 和彦・堂野 主税		
	蛋白質分子化学(I)	○		1	高尾 敏文・北條 裕信・川上 徹		
	生体分子化学(I)		○	1	村田 道雄・梅川 雄一	ナノ教育プログラム ◆	
	有機分光化学(I)		○	1	村田 道雄・松森 信明・松岡 茂	ナノ教育プログラム ◆	
	触媒化学(I)		○	1	笹井 宏明・滝澤 忍・鈴木 健之	ナノ教育プログラム、英語科目	
	物性有機化学(I)		○	1	小川 琢治	ナノ教育プログラム、英語科目	
	構造有機化学(I)		○	1	久保 孝史	英語科目	
	合成有機化学(I)		○	1	加藤 修雄		
	有機金属化学概論		○	2	岡村 高明	*	
	合成有機化学特論	○		1	永島 英夫(九州大・先導物質化学研究所)	集中	
	生体分子化学特論		○	1	楠見 武徳(東京工業大・院・理工)	集中	
	化学アドバンスト実験		○	1	村田 道雄・石川 直人・松森 信明・冬広 明・和泉 雅之・花島 慎弥・高城 大輔・田中 大輔・平尾 泰一・水野 操・鈴木 健之その他BMCインテグレートッドプログラム関連教員	集中 実習 Aコース・Bコース共通	
	サイエンスコア1				1		BMCセミナー
	サイエンスコア2				1		BMCセミナー
	インタラクティブセミナーI		○	1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー	
	インタラクティブセミナーII		○	1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー	
	構造有機化学半期セミナーI	○	○	4.5	久保 孝史		
	構造有機化学半期セミナーII	○	○	4.5	久保 孝史		
	物性有機化学半期セミナーI	○	○	4.5	小川 琢治		
	物性有機化学半期セミナーII	○	○	4.5	小川 琢治		
	生体分子化学半期セミナーI	○	○	4.5	村田 道雄・松森 信明		
	生体分子化学半期セミナーII	○	○	4.5	村田 道雄・松森 信明		
	有機生物化学半期セミナーI	○	○	4.5	梶原 康宏		
	有機生物化学半期セミナーII	○	○	4.5	梶原 康宏		
	天然物有機化学半期セミナーI	○	○	4.5	深瀬 浩一		
	天然物有機化学半期セミナーII	○	○	4.5	深瀬 浩一		
	ゲノム化学半期セミナーI	○	○	4.5	中谷 和彦		
	ゲノム化学半期セミナーII	○	○	4.5	中谷 和彦		
	合成有機化学半期セミナーI	○	○	4.5	加藤 修雄		
	合成有機化学半期セミナーII	○	○	4.5	加藤 修雄		
	機能性分子化学半期セミナーI	○	○	4.5	笹井 宏明・鈴木 健之		
	機能性分子化学半期セミナーII	○	○	4.5	笹井 宏明・鈴木 健之		
	蛋白質分子化学半期セミナーI	○	○	4.5	北條 裕信・川上 徹		
	蛋白質分子化学半期セミナーII	○	○	4.5	北條 裕信・川上 徹		
	プロテオミクス分析化学半期セミナーI	○	○	4.5	高尾 敏文		
	プロテオミクス分析化学半期セミナーII	○	○	4.5	高尾 敏文		

注1) 開講学期が無印は今年度開講しない。

注2) セミナーについては、平成19年度以前入学者も4.5単位科目を修得すれば、修了要件として認める。

注3) BMCコア科目は選択必修とする(修了要件は4単位)。

注4) BMCセミナーは選択必修とする(修了要件は1単位)。

*は学部と共通科目である。

◆は大学院高度副プログラム(基礎理化学計測学)の科目である。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	特別講義BI 「有機金属化学を基盤とした分子触媒設計」	○		1	永島 英夫(九州大・先導物質化学研究所)	集中
	特別講義BII 「楽しく学ぶ低分子有機化合物のNMRによる構造解析法」		○	1	楠見 武徳(東京工業大・院・理工)	集中
	インタラクティブ特別セミナー1	○		1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー
	インタラクティブ特別セミナー2		○	1	化学専攻教育教務委員	BMCセミナー
	構造有機化学特別セミナーI	○		9	久保 孝史	
	構造有機化学特別セミナーII	○		9	久保 孝史	
	構造有機化学特別セミナーIII	○		9	久保 孝史	
	物性有機化学特別セミナーI	○		9	小川 琢治	
	物性有機化学特別セミナーII	○		9	小川 琢治	
	物性有機化学特別セミナーIII	○		9	小川 琢治	
	生体分子化学特別セミナーI	○		9	村田 道雄	
	生体分子化学特別セミナーII	○		9	村田 道雄	
	生体分子化学特別セミナーIII	○		9	村田 道雄	
	有機生物化学特別セミナーI	○		9	梶原 康宏	
	有機生物化学特別セミナーII	○		9	梶原 康宏	
	有機生物化学特別セミナーIII	○		9	梶原 康宏	
	天然物有機化学特別セミナーI	○		9	深瀬 浩一	
	天然物有機化学特別セミナーII	○		9	深瀬 浩一	
	天然物有機化学特別セミナーIII	○		9	深瀬 浩一	
	ゲノム化学特別セミナーI	○		9	中谷 和彦	
	ゲノム化学特別セミナーII	○		9	中谷 和彦	
	ゲノム化学特別セミナーIII	○		9	中谷 和彦	
	合成有機化学特別セミナーI	○		9	加藤 修雄	
	合成有機化学特別セミナーII	○		9	加藤 修雄	
	合成有機化学特別セミナーIII	○		9	加藤 修雄	
	機能性分子化学特別セミナーI	○		9	笹井 宏明	
	機能性分子化学特別セミナーII	○		9	笹井 宏明	
	機能性分子化学特別セミナーIII	○		9	笹井 宏明	
	蛋白質分子化学特別セミナーI	○		9	北條 裕信	
	蛋白質分子化学特別セミナーII	○		9	北條 裕信	
	蛋白質分子化学特別セミナーIII	○		9	北條 裕信	
	プロテオミクス分析化学特別セミナーI	○		9	高尾 敏文	
	プロテオミクス分析化学特別セミナーII	○		9	高尾 敏文	
プロテオミクス分析化学特別セミナーIII	○		9	高尾 敏文		

注1) 開講学期が無印は今年度開講しない。

注2) BMCセミナーは必修とする。

生物科学専攻
(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	基礎生物情報科学 ☆	○		2	中村 春木・安永 照雄	*
	サイエンスコアI	○		1	米崎 哲朗・他	BMC能動的科目
	サイエンスコアII		○	1	米崎 哲朗・他	BMC能動的科目
	サイエンスコアIII	○		1	米崎 哲朗・他	BMC能動的科目
	サイエンスコアIV		○	1	米崎 哲朗・他	BMC能動的科目
	生体分子機能学半期セミナー	○	○	4.5	倉光 成紀・増井 良治・中川 紀子	
	構造生物学半期セミナー	○	○	4.5	大岡 宏造	
	分子遺伝学半期セミナー	○	○	4.5	升方 久夫・中川 拓郎・高橋 達郎	
	植物生長生理学半期セミナー	○	○	4.5	柿本 辰男・高田 忍・田中 博和	
	物性生物学半期セミナー	○	○	4.5	米崎 哲朗	
	核機能学半期セミナー	○	○	4.5	滝澤 温彦・久保田 弓子・三村 寛	
	1分子生物学半期セミナー	○	○	4.5	上田 昌宏・宮永 之寛	
	細胞生物学半期セミナー	○	○	4.5	松野 健治・山川 智子	
	系統進化学半期セミナー	○	○	4.5	伊藤 一男・古屋 秀隆	
	植物細胞生物学半期セミナー	○	○	4.5	高木 慎吾・浅田 哲弘	
	発生生物学半期セミナー	○	○	4.5	西田 宏記・今井 薫・小沼 健	
	生物分子エネルギー変換学半期セミナー	○	○	4.5	荒田 敏昭	
	神経可塑性生理学半期セミナー	○	○	4.5	小倉 明彦・富永(吉野) 恵子	
	感覚生理学半期セミナー	○	○	4.5	河村 悟・橋本 修志・和田 恭高	
	神経回路機能学半期セミナー	○	○	4.5	木村 幸太郎	
	理論生物学半期セミナー	○	○	4.5	藤本 仰一	
	蛋白質有機化学半期セミナー	○	○	4.5	北條 裕信・川上 徹・佐藤 毅	
	機能・発現プロテオミクス学半期セミナー	○	○	4.5	高尾 敏文	
	蛋白質情報科学半期セミナー	○	○	4.5	中村 春木・金城 玲・鷹野 優	
	超分子構造解析学半期セミナー	○	○	4.5	中川 敦史・鈴木 守・山下 栄樹	
	分子創製学半期セミナー	○	○	4.5	高木 淳一・岩崎 憲治・北郷 悠	
	蛋白質反応機構学半期セミナー	○	○	4.5	長谷 俊治・中井 正人・有賀(木股) 洋子	
	エピジェネティクス学半期セミナー	○	○	4.5	田嶋 正二・末武 勲・木村 博信	
	蛋白質細胞生物学半期セミナー	○	○	4.5	篠原 彰・篠原 美紀	
	分子発生学半期セミナー	○	○	4.5	古川 貴久・大森 義裕・佐貫 理佳子	
	代謝調節機構学半期セミナー	○	○	4.5	奥村 宣明	
	情報伝達機構学半期セミナー	○	○	4.5	岡田 雅人・名田 茂之・小根山 千歳	
	遺伝子情報学半期セミナー	○	○	4.5	安永 照雄	
	糖鎖生化学半期セミナー	○	○	4.5	梶原 康宏・和泉 雅之・岡本 亮	
	極限生物学半期セミナー	○	○	4.5	久富 修	
	分子神経生物学半期セミナー	○	○	4.5	吉川 和明・長谷川 孝一・藤原 一志郎	
	細胞外マトリックス生物学半期セミナー	○	○	4.5	関口 清俊・山田 雅司	
	蛋白質物理化学半期セミナー	○	○	4.5	後藤 祐児・八木 寿梓	
	細胞核ネットワーク学半期セミナー	○	○	4.5	加納 純子	
	膜蛋白質化学半期セミナー	○	○	4.5	三間 穰治	
	蛋白質結晶学半期セミナー	○	○	4.5	栗栖 源嗣・田中 秀明	
	構造分子生物学半期セミナー	○	○	4.5	藤原 敏道・児嶋 長次郎・松木 陽	
	細胞機能構造学半期セミナー	○	○	4.5	平岡 泰・原口 徳子・近重 裕次	
	生命誌学半期セミナー	○	○	4.5	蘇 智慧・橋本 主税・小田 広樹	
	生物分子情報学半期セミナー	○	○	4.5	猪股 秀彦・北島 智也	
	超分子科学半期セミナー	○	○	4.5	原田 明・高島 義徳	
	生体高分子溶液学半期セミナー	○	○	4.5	佐藤 尚弘・橋爪 章仁	
	生体分子機械学半期セミナー	○	○	4.5	今田 勝巳	
	生体超分子科学半期セミナー	○	○	4.5	山口 浩靖	
	バイオインフォマティクス学半期セミナー	○	○	4.5	Thorsten Henrich	
有機生物化学(I)	○		1	梶原 康宏		
生体機能高分子特論			2	原田 明・山口 浩靖		
高分子溶液学特論			2	佐藤 尚弘		
高分子構造特論			2	今田 勝巳・金子 文俊		
生物科学インタラクティブセミナーI		○	1	柿本 辰男・他	BMCセミナー 修了要件外	
生物科学インタラクティブセミナーII		○	1	柿本 辰男・他	BMCセミナー 修了要件外	

注) 開講学期が無印は今年度開講しない。

* は学部と共通科目である。

☆ 大阪大学理学部において「生物情報科学」を過去に受講し単位を取得した者は、「基礎生物情報科学」の単位認定は行わないものとするので注意すること。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
生物科学特別講義I 「生物統計学」	○		1	野口 航(東京大・院・理)	集中 *	
生物科学特別講義II 「数理生物学」	○		1	中垣 俊之(北海道大・電子科学研究所)	集中 *	
生物科学特別講義III 「行動生態学」	○		1	依田 憲(名古屋大・院・環境)・飛龍 志津子(同志社大・生命医科)	集中 *	
生物科学特別講義IV 「理研CDB-連携大学院集中レクチャー」	○		1	猪股 秀彦・北島 智也	集中	
生物科学特別講義V	○		1	米崎 哲朗・他	集中	
生物科学特別講義VI	○		1	米崎 哲朗・他	集中	
生物科学特別講義VII	○		1	滝澤 温彦・他	集中	
サイエンスコアV	○		1	米崎 哲朗・他	BMC能動的科目	
サイエンスコアVI	○		1	米崎 哲朗・他	BMC能動的科目	
サイエンスコアVII	○		1	米崎 哲朗・他	BMC能動的科目	
生体分子機能学特別セミナー	○		9	倉光 成紀・増井 良治・中川 紀子		
構造生物学特別セミナー	○		9	大岡 宏造		
分子遺伝学特別セミナー	○		9	升方 久夫・中川 拓郎・高橋 達郎		
植物生長生理学特別セミナー	○		9	柿本 辰男・高田 忍・田中 博和		
物性生物学特別セミナー	○		9	米崎 哲朗		
核機能学特別セミナー	○		9	滝澤 温彦・久保田 弓子・三村 寛		
1分子生物学特別セミナー	○		9	上田 昌宏・宮永 之寛		
細胞生物学特別セミナー	○		9	松野 健治・山川 智子		
系統進化学特別セミナー	○		9	伊藤 一男・古屋 秀隆		
植物細胞生物学特別セミナー	○		9	高木 慎吾・浅田 哲弘		
発生生物学特別セミナー	○		9	西田 宏記・今井 薫・小沼 健		
生物分子エネルギー変換学特別セミナー	○		9	荒田 敏昭		
神経可塑性生理学特別セミナー	○		9	小倉 明彦・富永(吉野) 恵子		
感覚生理学特別セミナー	○		9	河村 悟・橋本 修志・和田 恭高		
神経回路機能学特別セミナー	○		9	木村 幸太郎		
理論生物学特別セミナー	○		9	藤本 仰一		
蛋白質有機化学特別セミナー	○		9	北條 裕信・川上 徹・佐藤 毅		
機能・発現プロテオミクス学特別セミナー	○		9	高尾 敏文		
蛋白質情報科学特別セミナー	○		9	中村 春木・金城 玲・鷹野 優		
超分子構造解析学特別セミナー	○		9	中川 敦史・鈴木 守・山下 栄樹		
分子創製学特別セミナー	○		9	高木 淳一・岩崎 憲治・北郷 悠		
蛋白質反応機構学特別セミナー	○		9	長谷 俊治・中井 正人・有賀(木股) 洋子		
エビジェネティクス学特別セミナー	○		9	田嶋 正二・末武 勲・木村 博信		
蛋白質細胞生物学特別セミナー	○		9	篠原 彰・篠原 美紀		
分子発生学特別セミナー	○		9	古川 貴久・大森 義裕・佐貫 理佳子		
代謝調節機構学特別セミナー	○		9	奥村 宣明		
情報伝達機構学特別セミナー	○		9	岡田 雅人・名田 茂之・小根山 千歳		
遺伝子情報学特別セミナー	○		9	安永 照雄		
糖鎖生化学特別セミナー	○		9	梶原 康宏・和泉 雅之・岡本 亮		
極限生物学特別セミナー	○		9	久富 修		
分子神経生物学特別セミナー	○		9	吉川 和明・長谷川 孝一・藤原 一志郎		
細胞外マトリックス生物学特別セミナー	○		9	関口 清俊・山田 雅司		
蛋白質物理化学特別セミナー	○		9	後藤 祐児・八木 寿梓		
蛋白質結晶学特別セミナー	○		9	栗栖 源嗣・田中 秀明		
構造分子生物学特別セミナー	○		9	藤原 敏道・児嶋 長次郎・松木 陽		
細胞核ネットワーク学特別セミナー	○		9	加納 純子		
膜蛋白質化学特別セミナー	○		9	三間 穰治		
細胞機能構造学特別セミナー	○		9	平岡 泰・原口 徳子・近重 裕次		
生命誌学特別セミナー	○		9	蘇 智慧・橋本 主税・小田 広樹		
生物分子情報学特別セミナー	○		9	猪股 秀彦・北島 智也		
超分子科学特別セミナー	○		9	原田 明・高島 義徳		
生体高分子溶液学特別セミナー	○		9	佐藤 尚弘		
生体分子機械学特別セミナー	○		9	今田 勝巳		
生体超分子科学特別セミナー	○		9	山口 浩靖		
バイオインフォマティクス学特別セミナー	○		9	Thorsten Henrich		
生物科学インタラクティブ特別セミナー	○		1	柿本 辰男・他	BMCセミナー	

注) 開講学期が無印は今年度開講しない。

* は学部と共通科目である。

高分子科学専攻 (前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	情報高分子科学		○	2	後藤 祐児・中川 敦史	
	高分子科学インタラクティブ演習		○	1	高分子科学専攻教育教務委員・他非常勤講師	集中
	高分子合成化学特論			2	青島 貞人・金岡 鍾局	
	高分子反応化学特論			2	鬼塚 清孝・岡村 高明	
	生体機能高分子特論	○		2	原田 明・山口 浩靖	
	高分子キャラクタリゼーション特論		○	2	山本 仁・栗栖 源嗣	
	高分子物性特論			2	井上 正志・浦川 理	
	高分子溶液学特論		○	2	佐藤 尚弘・橋爪 章仁	
	高分子構造特論	○		2	今田 勝巳・金子 文俊	
	蛋白質構造基礎論			2	鈴木 守	
	情報高分子構造特論			2	未定	
	サイエンスコアA		○	1	佐藤 尚弘	BMCセミナー科目
	高分子合成化学半期セミナー	○	○	4.5	青島 貞人	
	高分子精密合成半期セミナー	○	○	4.5	金岡 鍾局	
	高分子錯体化学半期セミナー	○	○	4.5	山本 仁	
	高分子反応化学半期セミナー			4.5		
	無機高分子化学半期セミナー	○	○	4.5	岡村 高明	
	超分子科学半期セミナー	○	○	4.5	原田 明	
	生体超分子科学半期セミナー	○	○	4.5	山口 浩靖	
	高分子固体科学半期セミナー	○	○	4.5	金子 文俊	
	高分子溶液論半期セミナー	○	○	4.5	寺尾 憲	
	高分子機能論半期セミナー	○	○	4.5	橋爪 章仁	
	高分子構造論半期セミナー	○	○	4.5	今田 勝巳	
	高分子物性論半期セミナー	○	○	4.5	井上 正志	
	高分子材料科学半期セミナー	○	○	4.5	浦川 理	
	高分子凝集論半期セミナー	○	○	4.5	佐藤 尚弘	
	高分子統計力学半期セミナー	○	○	4.5	未定	
	高分子結晶構造学半期セミナー	○	○	4.5	未定	
	高分子集合論半期セミナー	○	○	4.5	未定	
	情報高分子構造論半期セミナー	○	○	4.5	未定	
	情報高分子機能論半期セミナー	○	○	4.5	栗栖 源嗣	
	生体高分子X線解析学半期セミナー	○	○	4.5	中川 敦史・鈴木 守	
情報高分子物性論半期セミナー	○	○	4.5	後藤 祐児		
蛋白質工学半期セミナー	○	○	4.5	未定		
インタラクティブセミナー		○	1	高分子科学専攻教育教務委員および関係各教員	BMCセミナー科目	

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
後期課程	特別講義(1) 「刺激応答性高分子材料」	○		1	竹岡 敬和(名古屋大・院・工)	集中
	特別講義(2)			1		
	高分子科学インタラクティブ特別演習	○		1	高分子科学専攻教育教務委員・ 他非常勤講師	集中
	高分子科学インタラクティブインター ンシップ	○		2	青島 貞人・佐藤 尚弘・他	集中
	サイエンスコアB	○		1	佐藤 尚弘	BMCセミナー科目
	高分子反応化学特別セミナー	○		9	鬼塚 清孝・岡村 高明	
	高分子合成化学特別セミナー	○		9	青島 貞人	
	高分子錯体化学特別セミナー	○		9	山本 仁	
	高分子凝集論特別セミナー	○		9	佐藤 尚弘	
	高分子構造論特別セミナー	○		9	今田 勝巳	
	生体超分子科学特別セミナー	○		9	山口 浩靖	
	高分子物性論特別セミナー	○		9	井上 正志	
	超分子科学特別セミナー	○		9	原田 明	
	情報高分子物性論特別セミナー	○		9	後藤 祐児	
	情報高分子機能論特別セミナー	○		9	栗栖 源嗣	
	情報高分子構造論特別セミナー	○		9	中川 敦史	
	インタラクティブ特別セミナー	○		1	高分子科学専攻教育教務委員 および関係各教員	BMCセミナー科目
	高分子科学インタラクティブ特別セ ミナー			2	高分子科学専攻教育教務委員 および関係各教員	

注)開講学期が無印は今年度開講しない。

宇宙地球科学専攻

(前期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考
		第1学期	第2学期			
前期課程	<宇宙・惑星>					
	【専門科目】					
	一般相対性理論	○		2	大野木 哲也	* 毎年開講予定 修了要件外
	宇宙物理学			2	藤田 裕	平成27年度に開講予定
	宇宙論	○		2	長峯 健太郎	
	天体輻射論			2	林田 清	平成27年度に開講予定
	X線天文学	○		2	常深 博	
	星間物理学			2	芝井 広	平成27年度に開講予定
	光赤外線天文学		○	2	住 貴宏	
	星間固体物理学	○		2	植田 千秋	
	同位体宇宙地球科学		○	2	寺田 健太郎	
	惑星物質科学			2	佐々木 晶	平成27年度に開講予定
	惑星地質学		○	2	佐伯 和人	
	宇宙生命論		○	2	寺田 健太郎・芝井 広・中嶋 悟・近藤 忠・佐々木 晶・谷 篤史・深川 美里・藪田 ひかる	毎年開講予定
	【セミナー】					
	宇宙進化学セミナー	○	○	4.5	長峯 健太郎・藤田 裕・田越 秀行	
	レーザー宇宙物理学セミナー	○	○	4.5	高部 英明・坂和 洋一	
	X線天文学セミナー	○	○	4.5	常深 博・林田 清・中嶋 大	
	赤外線天文学セミナー	○	○	4.5	芝井 広・住 貴宏・深川 美里	
	惑星科学セミナー	○	○	4.5	寺田 健太郎・植田 千秋・山中 千博・橋爪 光・藪田 ひかる	
	地球惑星物質科学セミナー	○	○	4.5	佐々木 晶・大高 理・佐伯 和人・谷 篤史	
	<地球・生命・物性>					
	【専門科目】					
	地球物質形成論	○		2	佐々木 晶・佐伯 和人	* 毎年開講予定 修了要件外
	物質論	○		2	川村 光	
	非平衡現象論			2	湯川 諭	平成27年度に開講予定
	極限物性学			2	谷口 年史	平成27年度に開講予定
	高圧物性科学			2	大高 理	平成27年度に開講予定
	惑星内部物質学	○		2	近藤 忠	
	地球内部物質学			2	寺崎 英紀	平成27年度に開講予定
	地球物理化学	○		2	中嶋 悟	
	地球テクトニクス		○	2	廣野 哲朗	
環境物性・分光学			2	山中 千博	平成27年度に開講予定	
生物進化学			2	久富 修	平成27年度に開講予定	
【セミナー】						
理論物性学セミナー	○	○	4.5	川村 光・湯川 諭		
惑星内部物質学セミナー	○	○	4.5	近藤 忠・谷口 年史・寺崎 英紀・境家 達弘		
地球惑星物理化学セミナー	○	○	4.5	中嶋 悟・久富 修・廣野 哲朗・桂(平井) 誠・横山 正		

注1) 開講学期が無印は今年度開講しない。

注2) * 印は、学部と共通科目

(後期課程)

課程	授業科目	時期		単位	担当教員	備考(世話教員)
		第1学期	第2学期			
後期課程	特別講義I 「自然・社会現象と数理モデリング」		○	1	西森 拓(広島大・院・理)	集中(湯川准教授) ※MC・DC共通
	特別講義II 「太陽系内および系外惑星の起源と構造」	○		1	生駒 大洋(東京大・院・理)	集中(近藤教授) ※MC・DC共通
	特別講義III 「電子顕微鏡鉱物学 -粘土、生体鉱物の構造-」	○		1	小暮 敏博(東京大・院・理)	集中(中嶋教授) ※MC・DC共通
	特別講義IV 「電波で探る星間物質」		○	1	立松 健一(国立天文台)	集中(林田准教授) ※MC・DC共通
	特別講義V			1		
	特別講義VI			1		
	特別講義VII			1		
	特別講義VIII			1		
	特別講義IX			1		
	特別講義X			1		
	特別講義XI			1		
	特別講義XII			1		
	特別講義XIII			1		
	【セミナー】					
	宇宙進化学特別セミナー	○		9	長峯 健太郎・藤田 裕・田越 秀行	
	レーザー宇宙物理学特別セミナー	○		9	高部 英明・坂和 洋一	
	X線天文学特別セミナー	○		9	常深 博・林田 清・中嶋 大	
	赤外線天文学特別セミナー	○		9	芝井 広・住 貴宏・深川 美里	
	惑星科学特別セミナー	○		9	寺田 健太郎・植田 千秋・山中 千博・橋爪 光・藪田 ひかる	
	地球惑星物質科学特別セミナー	○		9	佐々木 晶・大高 理・佐伯 和人・谷 篤史	
	理論物性学特別セミナー	○		9	川村 光・湯川 諭	
	惑星内部物質学特別セミナー	○		9	近藤 忠・谷口 年史・寺崎 英紀・境家 達弘	
	地球惑星物理化学特別セミナー	○		9	中嶋 悟・久富 修・廣野 哲朗・桂(平井) 誠・横山 正	

注) 開講学期が無印は今年度開講しない。

10) 長期履修学生制度

この制度は、学生が、職業を有している等の事情により標準修業年限内での修学が困難な者に対して、標準修業年限を超えて一定の延長期間を加えた期間に、計画的な教育課程の履修を認めるものです。

長期履修が許可されれば、通常の修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）において支払う授業料の総額を、長期履修期間として認められた期間に学期毎に均分して支払うことになります。

ただし、授業料が改定された場合、または長期履修期間に変更があった場合には、改定または変更時に授業料は見直しされます。

長期履修学生制度の詳細な内容については、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

11) STEP10

STEP10とは、国立大学法人10大学理学部長会議が、よりグローバルでより多様な人材育成のために設置した、大学間連携学生交流プログラムです。10大学が協力して、他大学学生も聴講できる授業科目を相互に設けることにより、大学の枠を超えた教育・研究を促進することを目指しています。

学生諸君には、「武者修行」や「道場破り」のような意気込みで積極的に本プログラムに参加し、自己研鑽を積むとともに知的交流を体験し、既存の大学の枠から踏み出して自主的に学ぶことを強く望みます。チャレンジをいとわない想像力にあふれた学生諸君の存在こそが、我が国の力強い成長の源であると信じます。STEP10は、次代を担う科学人材育成を使命とする国立10大学理学部の新たなSTEPです。

なお、本プログラムは研究指導の一環であり、聴講のみで単位の修得はできません。また、旅費が支給される場合があります。

詳しくは、<https://www.s.u-tokyo.ac.jp/STEP10/>でご確認ください。

12) aSTEP

aSTEPとは、高度理系教員養成プログラムの略称です。

aSTEPは、次代を担う理系人材の育成を目的として、「大阪教育大学」「大阪府教育委員会」「研究重点大学院（京都大学・大阪大学）」の3者が連携し、学校教育の充実と人材育成に熱意のある理系の博士学位取得者（学位取得予定者を含む）を、正規の学校（主として高等学校）教員として理系教育に指導的役割を果たし得る人材として養成するプログラムです。

基本的に博士前期課程2年生から応募できます。

13) 学際融合的な教育について

○大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて

大阪大学では、学際融合教育（学部・研究科等の枠にとらわれない教育）を推進しています。その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」を提供しています。

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムです。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った、一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、所属する大学院の課程を修了（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）する際に当該プログラムの修了認定証が交付されます。

平成26年度は、以下に記載する「副専攻プログラム」5プログラム、「高度副プログラム」46プログラムが実施されます。

各プログラムの詳細については、大阪大学のホームページをご参照ください。なお、大学院の新入生には別途プログラムの案内冊子を配付いたします。

※プログラム関連ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/research/fukusenkou.html>

【大学院副専攻プログラム】 各プログラムで要件は異なるが、制度上、14単位以上をプログラム修了要件とする。

プログラム名称	実施部局
アントレプレナーシップ（アドバンスト・プログラム）	経済学研究科
公共圏における科学技術政策	コミュニケーションデザイン・センター
金融・保険	金融・保険教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム （博士前期課程高度学際教育副専攻プログラム）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
超域イノベーション副専攻プログラム	未来戦略機構

【大学院等高度副プログラム】 各プログラムで要件は異なるが、制度上、8単位以上をプログラム修了要件とする。

プログラム名称	実施部局
アート・メディアロジー入門講座－理論と実践	文学研究科
グローバル化とコンフリクト——人間科学的アプローチ	人間科学研究科
持続可能な日本の進路を考える－成熟期を経た省資源・少子高齢化の日本の安心安全な進路のデザイナー	法学研究科
イノベーションリーダー人材育成基礎プログラム	経済学研究科
アントレプレナーシップ（スタンダード・プログラム）	経済学研究科
基礎理学計測学	理学研究科
放射線科学	理学研究科
健康医療問題解決能力の涵養	医学系研究科（医科学専攻）
高度がん医療人材育成プログラム	医学系研究科（保健学専攻）
医療通訳	医学系研究科（保健学専攻）
看護教育・管理人材育成プログラム	医学系研究科（保健学専攻）
まちづくりデザイン学	工学研究科
高度溶接技術者プログラム	工学研究科

プログラム名称	実施部局
学際光科学	工学研究科
キャリアデザイン ～高度な学びを活かすキャリアパスをデザインする～	工学研究科
国際標準化	工学研究科
量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム	工学研究科
データ科学	基礎工学研究科
言語情報処理の手法と展開	言語文化研究科
文化と植民地主義	言語文化研究科
グローバルリーダーシップ・プログラム	国際公共政策研究科
科学技術文明における公共倫理とソーシャルイノベーション	国際公共政策研究科
国際協力活動における公共倫理とソーシャルイノベーション	国際公共政策研究科
東南アジアにおける平和と人間の安全保障	国際公共政策研究科
ソフトウェアイノベーション先導 [組込みシステム・コース]	情報科学研究科
大規模適応設計プログラム	情報科学研究科
感染症学免疫学融合プログラム	微生物病研究所
インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践	国際教育交流センター
臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：専門科	臨床医工学融合研究教育センター
臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：高度職業人育成科	臨床医工学融合研究教育センター
コミュニケーションデザイン	コミュニケーションデザイン・センター
公共圏における科学技術政策	コミュニケーションデザイン・センター
ソフトウェアイノベーション先導 [ファイナンス・ソフトウェア・コース]	金融・保険教育研究センター
グローバル共生	グローバルコラボレーションセンター
人間の安全保障と開発	グローバルコラボレーションセンター
司法通訳翻訳	グローバルコラボレーションセンター
現代中国研究	グローバルコラボレーションセンター
国連政策エキスパートの養成	グローバルコラボレーションセンター
グローバル健康環境	グローバルコラボレーションセンター
東アジアの地域環境	グローバルコラボレーションセンター
環境イノベーションデザイン学	環境イノベーションデザインセンター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士前期課程高度学際教育）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士後期課程社会人特別選抜）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士後期課程教育研究訓練プログラム）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
知的財産法を修得した人材育成	知的財産センター
実学主義 ～企業の視点から科学する～	産学連携本部

○知のジムナスティックス（高度教養プログラム）について

大阪大学では、平成23年度から、「一定の専門知識を身につけ、（職業人あるいは研究者として）社会にまもなく出て行く学生に対して、専門教育以外に必要な知識や能力を与える教育」として、全学の3年次以上の学部学生及び大学院学生を対象とした、「**知のジムナスティックス（高度教養プログラム）**」を提供しています。

このプログラムは、研究科・学部を超えた学びとして、自らの専門とは異なる知の領域に触れること、研究科・学部の異なる学生の協働による学びを経験することを重視し、大阪大学で開講されている科目から、高度教養教育にふさわしい科目を精選して提供しています。これらの総合大学ならではの多様な科目から、学生一人ひとりが“つよさ・しなやかさ・バランス感覚”を兼ね備えた知性の涵

養のためのプログラムを自主的に設計して履修できます。

平成26年度は、学部3年次以上及び大学院生向けに69科目、大学院生向けに321科目提供され（平成26年2月時点予定）、1科目から履修していただくことが可能です。

具体的な提供科目については、大阪大学のホームページをご参照ください。なお、大学院の新入生には別途プログラムの案内冊子を配付いたします。

※このプログラムには修了要件や修了認定等はありません。

※プログラム関連ホームページアドレス

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/education_refine/gymnastics

○学際融合教育科目について

平成25年度から、本学における学際融合教育（研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育）のより一層の充実を目指して、大学院横断教育科目（※）の新たな科目区分として「学際融合教育科目」を設置しました。

学際融合教育科目は、文系の学生でも理系の学生でも受講しやすい科目です。副専攻プログラムや高度副プログラムを受講していなくても、「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」として全学の大学院学生に提供していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

詳細はこちら→<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/news/pydxcp>

※大学院横断教育科目の既存の科目区分としては、コミュニケーションデザイン科目（コミュニケーション教育及び高度教養教育に関する授業科目）とグローバルコラボレーション科目（真の国際性を備えた人材養成のための教育に関する授業科目）があります。詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。

14) 奈良女子大学大学院人間文化研究科、兵庫県立大学大学院生命理学研究科及び大阪府立大学大学院理学系研究科との交流の取扱いについて

本研究科と奈良女子大学大学院人間文化研究科、兵庫県立大学大学院生命理学研究科及び大阪府立大学大学院理学系研究科との間において、授業交流（単位の相互認定）を実施しています。

履修希望者は、次の事項を熟読のうえ、大学院係で所定の手続きをしてください。

1) 奈良女子大学大学院人間文化研究科

①履修願

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修科目及び総単位数は、各課程においてそれぞれ5科目、10単位以内とします。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等を含みません。
- 「履修願」を申請しても奈良女子大学大学院人間文化研究科の収容人数その他事情により、受講できない場合があります。

②単位の認定

- 奈良女子大学大学院人間文化研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位数に認定します。

③履修申請期限

- 第1学期：4月10日（期限厳守）
- 第2学期：10月10日（期限厳守）

2) 兵庫県立大学大学院生命理学研究科

①履修願

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等を含みません。
- 「履修願」を申請しても兵庫県立大学大学院生命理学研究科の収容人数その他事情により、受講できない場合があります。

②単位の認定

- 兵庫県立大学大学院生命理学研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位数に認定します。

③履修申請期限

- 第1学期：4月10日（期限厳守）
- 第2学期：10月10日（期限厳守）

3) 大阪府立大学大学院理学系研究科

①履修願

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等を含みません。
- 「履修願」を申請しても大阪府立大学大学院理学系研究科の収容人数その他事情により、受講できない場合があります。

②単位の認定

○大阪府立大学大学院理学系研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位に認定します。

③履修申請期限

○第1学期：4月10日（期限厳守）

○第2学期：10月10日（期限厳守）

15) 海外留学

大阪大学では、海外の多くの大学等との間で、大学間交流や部局間交流の学術交流及び学生交流協定を結んでいます。協定校とは、共同研究や研究者、学生の交流を行っています。協定校の中には、学部学生と大学院生が大阪大学に在籍したまま海外留学し、留学先の協定校では授業料を納めずに、1年以内の履修や研究指導を受けることが可能となる場合があります。

留学先の大学で履修した単位を、本研究科の単位に充当できるかどうか、予め指導教員及び専攻長と相談しておいてください。

なお、留学に関する学生の事務等については「大阪大学交換留学（派遣）募集要項」等により実施しております。

また、年に数回「留学オリエンテーション」が行われていますので、留意しておいてください。

1) 大学間学生交流協定一覧表

国名	相手大学名等
アメリカ合衆国	コーネル大学 ワシントン大学 ウェズリアンカレッジ テキサスA&M大学 ナザレスカレッジローチェスター校 カリフォルニア大学 ジョージア大学 ライス大学 パデュー大学 インディアナ大学
インド	インド工科大学ハイデラバード校
インドネシア	バンドン工科大学 ガジャマダ大学
エジプト	アレキサンドリア大学
オーストラリア	オーストラリア国立大学 モナシュ大学 クィーンズランド大学 アデレード大学
オーストリア	ウィーン大学
オランダ王国	デルフト工科大学 グローニンゲン大学
カナダ	ケベック州大学学長校長協議会 マギル大学 マックマスター大学 ブリティッシュ・コロンビア大学 トロント大学
スイス連邦	スイス連邦工科大学ローザンヌ校

スウェーデン王国	スウェーデン王立工科大学 カロリンスカ大学 イエーテボリ大学
スペイン	マドリッド自治大学 バリアドリード大学
タイ王国	チュラロンコン大学 マヒドン大学 タイ王国保健省医科学局 カセサート大学 モンクット王トンプリ工科大学 タマサート大学 チェンマイ大学
大韓民国	釜山大学校 全南大学校 延世大学校 ソウル大学校 慶尚大学校 忠南大学校 漢陽大学校 中央大学校 昌原大学校
台湾	国立成功大学 国立台湾大学 国立清華大学 国立交通大学
中華人民共和国	上海交通大学 西安交通大学 武漢大学 北京大学 復旦大学 浙江大学 南京大学 清華大学 同済大学 北京師範大学 香港中文大学
デンマーク	コペンハーゲン大学
ドイツ連邦共和国	ミュンヘン工科大学 ミュンヘンルートウヴィヒ・マクシミリアン大学 アーヘン工科大学 エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学 アウグスブルグ大学

ドイツ連邦共和国	ビーレフェルト大学 ハイデルベルク大学 ルール・ボーフム大学 ヨハン・ヴァルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン ゲッティンゲン大学
ハンガリー共和国	エトヴェシュ・ロラード大学
フランス共和国	グルノーブル大学連合 ストラスブール大学 ピエール・マリー・キュリー大学 パリ国立高等化学学院 ボルドー第1大学
ブラジル	サンパウロ大学
フィリピン共和国	デ・ラ・サール大学 アテネオ・デ・マニラ大学 フィリピン国立大学
フィンランド共和国	オーボアカデミー大学
ベトナム社会主義共和国	ハノイ国家大学 ホーチミン市国家大学 ベトナム科学技術アカデミー
ペルー共和国	ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学
ベルギー王国	ルーヴァンカトリック大学 (UCL)
メキシコ合衆国	メキシコ国立自治大学
モンゴル国	モンゴル国立大学
ロシア連邦	サンクトペテルブルク大学
連合王国 (英国)	ノッティンガム大学 ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン シェフィールド大学 リーズ大学

2) 部局間学生交流協定一覧表

相手大学等	学生交流人数	世話専攻	備考
アインホフェン工科大学化学部・化学工学部並びに同生体医療工学部 (オランダ王国)	5名以内	高分子科学専攻	授業料等不徴収
ペルージャ大学 (イタリア)	3名以内	化学専攻	授業料等不徴収
ヒューストン大学自然科学数学部 (アメリカ合衆国)	5名以内	物理学専攻	
マレーシア工科大学理学部 (マレーシア)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
国立台湾大学理学院及び同大学生命科学院 (台湾)	5名以内	生物科学専攻	授業料等不徴収
イスタンブル大学理学部 (トルコ共和国)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収

ハノイ自然科学大学 (ベトナム社会主義共和国)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
マラヤ大学理学部 (マレーシア)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
ウェストファリアン・ヴィルヘルム大学 ミュンスター物理学科 (ドイツ連邦共和国)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
パリ第11大学理学部 (フランス)	3名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
タタ・インスティテュート自然科学部 (インド)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
アラガッパ大学 (インド)	5名以内	生物科学専攻	授業料等不徴収
ユヴァスキュラ大学数学科学部 (フィンランド)	3名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
ホーチミン市国家大学 (ベトナム社会主義共和国)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
ヘルシンキ大学理学部 (フィンランド)	3名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
フリードリッヒ・ヴィルヘルム大学ボンとケルン大学によるボン・ケルン統合物理・天文大学院 (ドイツ連邦共和国)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
インハ (仁荷) 大学理学部 (大韓民国)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
フリードリヒ・シラー大学イエナ (ドイツ連邦共和国)	5名以内	化学専攻	授業料等不徴収
インペリアル・カレッジ・ロンドン自然科学部 (連合王国 (英国))	3名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
インド工科大学ボンベイ理学部 (インド)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
スラナリー工科大学理学研究科 (タイ王国)	5名以内	高分子科学専攻	授業料等不徴収
デリ大学理学部 (インド)	5名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
ブレーメン大学・物理・電気工学科 (ドイツ連邦共和国)	2名以内	物理学専攻	授業料等不徴収
アルファラビ・カザフ国立大学・物理工学部 (カザフスタン共和国)		物理学専攻	
サスカチュワン大学・人文・科学研究科 (カナダ)	2名以内	物理学専攻	授業料等不徴収

16) 博士論文及び修士論文提出の手続き概要について

1. 博士学位申請手続き概要

※提出期限等の手続き概要は予定のため、詳しくは大学院係まで問い合わせてください。

1. 提出書類（電子データ）の請求方法

ri-daigakuin@office.osaka-u.ac.jpあてに請求してください。その際、メールのタイトルに「課程博士提出書類希望」と記入してください。

2. 書類提出期限

提出書類A	提出書類B～L	※参考 学位授与判定日
平成26年 4月 7日（月）	平成26年 5月 7日（水）	平成26年 6月12日（木）
平成26年 7月 7日（月）	平成26年 8月 4日（月）	平成26年 9月11日（木）
平成26年10月 6日（月）	平成26年11月 4日（火）	平成26年12月11日（木）
平成27年 1月 6日（火）	平成27年2月 2日（月）～ 平成27年 2月 3日（火）	平成27年 3月 5日（木）

3. 提出書類

書 類	提出部数	事 項
A 博士論文題目届 (論文審査付託会議用)	1	ri-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp あてに添付ファイル（Wordファイル）で送付すると共に、審査委員予定者については指導教員の確認を受けたうえで本紙を大学院係に提出してください。メールでの送付分には指導教員の押印は不要です。メールのタイトルは「博士論文題目届」と記入してください。 ※ファイルを送付していただきましたら、大学院係から受領した旨のメールをお送りします。送付後、土日祝日を除いて2日が過ぎても連絡が無い場合は電話にて問い合わせてください（Tel:06-6850-5289）。
B 申請書（様式1）	1	博士論文審査、最終試験受験申請書（様式1に記入してください。）
C 博士論文 (電子データ（PDFファイル）)	1	a) 電子データ（PDFファイル）を提出してください。記録媒体は原則としてUSBメモリを使用してください。 ファイル名は次のとおりとしてください。 西暦YY（年度）_理_000_氏名_論文 【例：14_理_000_あいうえ夫_論文】 b) PDFファイルは、フォントを埋め込んだ状態としてください。 (フォントが埋め込まれていないと、閲覧するPCの環境により文字が正確に表示されない場合があります。) c) 博士論文の引用等については、参考資料「引用の仕方」・「参考文献の書き方」を参照してください。

書 類	提出部数	事 項
D 論文目録（様式2）	2	
E 論文内容の要旨 （様式3）	3	a) 1, 200字程度で作成してください。 b) 論文が邦文によるときは和文要旨と欧文要旨の両方を提出してください。 ※論文が欧文によるときは和文要旨のみで結構です。留学生の方で欧文で記載した方が都合が良い場合は、欧文要旨のみで結構です。 c) 提出された要旨は、学位授与後3か月以内にインターネットで公表されます。
F 履歴書（様式4）	3	外国籍の方は（外国籍用）の様式に記入してください。
G 博士学位授与記録 （様式5）	1	
H 研究概要報告書	1	修了予定月までの研究概要を記入してください（単位修得退学者は不要）。
I 博士論文のインターネット公表（大学機 関リポジトリ掲載） 確認書（様式10）	1	記入にあたっては「大阪大学の博士の学位を授与された方が留意すべき事項」の（1）から（3）を参照してください。
J 博士論文のインターネット公表（大学機 関リポジトリ掲載） 保留事由に係る報告 書（様式11）	1	様式10において論文の「全文」のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載）を保留とした場合、保留事由の消滅等の結果が判明次第、提出してください。
K トランスクリプト用 記載氏名届	1	外国人留学生のみ提出してください。 トランスクリプト（学位記英訳版）に記載する氏名を英字で記入してください。
L 進路・就職（内定） 報告	1	KOANで入力できない方のみ提出してください（単位修得退学者は不要）。

4. 留意事項

- (1) 提出論文が欧文の場合、提出論文と提出書類の論文題名は、書体、大文字・小文字の別まで揃え相違のないようにしてください。また、論文題名の下に（ ）書きで和訳を付してください。
 - (2) すべての書類はワープロ（A4判）で作成し、1様式内で枚数が2枚以上にわたる場合は、両面印刷にしてください。提出前に各書類の必要部数を必ず確認してください。
 - (3) 作成書類の訂正に修正液を使用することはできません。
 - (4) 単位修得退学後の博士論文審査、最終試験受験申請者は「単位修得退学証明書」（大学院係で申請してください）を1部添付のうえ、申請してください。
 - (5) 学位を授与された後に留意すべき事項を「大阪大学の博士の学位を授与された方が留意すべき事項」の（4）、（5）に記載していますので、必ず目を通しておいてください。
- その他、不明な点については、理学研究科大学院係まで問い合わせてください（Tel:06-6850-5289）

博士論文題目届

種別	入学期	(氏名フリガナ) 申請者氏名 (専攻)	論文題目	審査委員長名
			申請論文題目が英文の場合は、()書きで和訳を付してください。	
			日本語(論文題目もしくは和訳)のフリガナ	
博士論文				主査: 副査: 副査: 副査:
				指導教員印

※ 授業料免除申請 (申請中・申請していない)
↓
在学生の方のみ、どちらかを選択してください
(不要な方を削除してください)。

様式 1

博士論文提出 専攻承認印	専攻長	指導教員
-----------------	-----	------

※専攻長および指導教員の印は、申請書提出時に必要です。

博士論文審査、最終試験受験申請書

平成 年 月 日

大阪大学大学院理学研究科長 殿

博士後期課程 専攻

学籍番号:

氏名: _____

連絡先: _____

e-mail: _____

在学期間: 平成 年 月 ~ 平成 年 月
平成 年 月 日付退学

指導教員氏名: _____

本学大学院学則第12条、13条による博士論文の審査及び最終試験の受験を申請いたします。

論文題名 (博士論文題目届の論文題目と同一にしてください (和訳も))

注) 在学生が最終試験を申請する場合は、授業料は納付済であることが条件です。また、学期途中の修了予定者の方の中で「授業料免除申請中」の場合は、学生部学生支援課で「授業料免除申請辞退届」の手続きをし、その学期 (もしくは期間) の授業料は全納しなりません。

※事務処理欄

大学院係	授業料担当者印
------	---------

様式 2

論文目録

氏名 ()

博士論文

1. 題名

博士論文は以下 編をもって出版、またはその予定

主論文①

1. 題名: _____

2. 数 量 冊 _____

3. 出版 (予定) 年月日 _____ 年 月 日

4. 出版内容 _____

5. 出版物の種類 _____

6. 出版物の名称 _____

7. 出版社等の名称 _____

主論文②

1. 題名: _____

2. 数 量 冊 _____

3. 出版 (予定) 年月日 _____ 年 月 日

4. 出版内容 _____

5. 出版物の種類 _____

6. 出版物の名称 _____

7. 出版社等の名称 _____

参考論文

1. 題名: _____

2. 数 量 冊 _____

3. 出版 (予定) 年月日 _____ 年 月 日

4. 出版内容 _____

5. 出版物の種類 _____

6. 出版物の名称 _____

7. 出版社等の名称 _____

様式 3

論文内容の要旨

氏名 ()

論文題名	
論文内容の要旨	

様式4

履 歴 書

氏 名		性 別	生 年 月 日
姓 ()	名 ()		昭 和 年 月 日
旧姓 ()	学 位 記 記 載 氏 名		
本 籍	現 住 所		
	〒 ー		
	連絡先 TEL () 会社名等		
学 歴			
大 学	大学 学部	昭和・平成 年 月 卒業・退学 (休学 年 月 ～ 年 月)	
大学院	大学院院博士前期課程 研究科 専攻	入学 昭和・平成 年 月 日 修了・退学 昭和・平成 年 月 日 (休学 年 月 ～ 年 月)	
	大学院院博士後期課程 研究科 専攻	入学 昭和・平成 年 月 日 修了・修了見込・退学・単位修得退学 昭和・平成 年 月 日 (休学 年 月 ～ 年 月)	
職 歴			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
研 究 歴			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
昭和・平成 年 月 日			
上記のとおり相違ありません。			
平成 年 月 日			
(氏 名)			

様式5

博 士 学 位 授 与 記 録

(課程博士)No.		(論文博士)No.	
本 籍	フリガナ	昭和 年 月 日生	
籍 都道府県のみ	氏 名		
論 文 題 名			
注) (博士論文題目等の論文題目と同一にしてください(和訳も)) 主論文: 編			
学位記番号	番 号	学位授与年月日	平成 年 月 日
学位申請年月日			
注) 様式1の日付と一致させてください。			
論文審査年月日			
審査終了年月日	(学位授与判定日)		
審査委員主査	略 歴		
教授	〇〇大学〇〇学部卒業 平成 年 月		
副査	〇〇大学院博士前期課程 入学 平成 年 月 日		
副査	〇〇研究科〇〇専攻 修了 平成 年 月 日		
教授	(休学 年 月 ～ 年 月)		
副査	大阪大学大学院博士後期課程 入学 平成 年 月 日		
教授	理学研究科〇〇専攻 修了 平成 年 月 日		
副査	(単位修得退学)		
教授	(休学 年 月 ～ 年 月)		
副査			
教授			
副査			
教授			
学階番号		専 攻	専攻

平成 年 月 日現在

理 学 研 究 科 長 殿

平成 年 月 入学	博士 前期・後期 課程
	専攻 年次
学 籍 番 号	
氏 名	
連絡先 TEL	
E-mail	
指導教員	印

研究概要報告書

(理学研究科規程第5条第6項及び第6条第6項の規定による報告)

標記のことに、下記のとおり報告します。

記

1. 研究題名

2. 研究概要

平成 年 月 日提出

外国人留学生のみ提出してください

トランスクリプト用記載氏名届

所属 理学研究科博士後期課程 専攻

学籍番号 _____

トランスクリプト用記載氏名 _____

注) トランスクリプト(学位記英訳版)に記載する氏名を
英字で丁寧に記入してください。

(様式 10)

	※大学で記入 学位記番号
--	-----------------

博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載）確認書

大阪大学大学院 理学研究科長 殿 平成 年 月 日

学位の区分： 課程・論文	学位の種類： 博士（ 理学 ）
ふりがな氏名	
学位授与予定日	平成 年 月 日（予定）
論文題名	
学位取得後の連絡先	住所：〒 Tel： Email：

※以下の□にチェックしてください。また必要箇所には記入してください。

【全文の公表】
私が執筆した博士論文（全文）について、インターネット公表に関する権利関係を確認した結果、公表することに問題はありません。
※ 全文の公表にあたり、出版社等から条件の指定がある場合は、その内容が分かる書類を併せて提出してください。

【全文の公表の保留希望】
私が執筆した博士論文（全文）について、下記事由のため、インターネット公表を保留してください。
なお、下記事由の消滅等に伴う所定の報告書（様式11）については、必ず提出いたします。

項目	保留事由	様式11報告書の提出時期
<input type="checkbox"/> 図書出版	<input type="checkbox"/> 出版済み（又は出版予定【平成 年 月 月予定】）で、出版社の著作権ポリシーを確認した結果、（ ）まで公表することができない。	公表可能日（直後）
	<input type="checkbox"/> 出版済みだが、出版社の著作権ポリシーを確認することができない。	この確認書と同時
<input type="checkbox"/> 学術誌等への掲載	<input type="checkbox"/> 出版予定【平成 年 月 月予定】であり、出版社の著作権ポリシーを確認することができない。	出版日（直後）
	<input type="checkbox"/> 掲載済み（又は掲載予定【平成 年 月 月予定】）で、出版社の著作権ポリシーを確認した結果、（ ）まで公表することができない。	公表可能日（直後）
	<input type="checkbox"/> 掲載済みだが、出版社の著作権ポリシーを確認することができない。	この確認書と同時
	<input type="checkbox"/> 掲載予定【平成 年 月 月予定】であり、出版社の著作権ポリシーを確認することができない。	掲載日（直後）
	<input type="checkbox"/> 投稿予定である。	掲載日（直後）

<input type="checkbox"/> 特許・実用新案出願	□特許出願予定又は審査中（出願公開前） 【出願（予定）：平成 年 月 月】 □実用新案出願予定又は審査中 【出願（予定）：平成 年 月 月】	出願公開日（直後） 登録日（直後）
<input type="checkbox"/> その他の事由	（具体的な事由を記載してください） 事由の消滅日	

【要約の公表希望】
私が執筆した博士論文（全文）について、下記事由のため、インターネット公表を希望しません。つきましては、要約での公表を希望します。

全文の公表が困難な事由	（具体的な事由を記載してください）
-------------	-------------------

（記入例1） 図書出版や学術誌への掲載において、出版社の著作権ポリシーを確認した結果、全文の公表ができない。
（記入例2） 博士論文が立体形状による表現等を含み、インターネット公表ができない。

(様式 11)

博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載）の保留事由に係る報告書

大阪大学大学院 理学研究科長 殿 平成 年 月 日

学位の区分： 課程・論文	学位の種類： 博士（ 理学 ）
学位授与日	平成 年 月 日 学位記番号
ふりがな氏名	
論文題名	
現在の連絡先	住所：〒 Tel： Email：

私が執筆した博士論文（全文）について、インターネット公表の保留事由については、以下のとおりとなりましたので報告します。
（以下の□にチェックしてください。また必要箇所には記入してください。）

【図書出版、学術誌等掲載】

項目	報告内容	出版社等の著作権ポリシーの確認結果
<input type="checkbox"/> 図書出版	<input type="checkbox"/> 出版しなかった。	（全文の公表となります） □公表が可であることを確認。 ※ 全文の公表にあたり、出版社等から条件の指定がある場合は、その内容が分かる書類を併せて提出してください。 □公表が不可であることを確認。 □確認することができなかったため、 大学における調査を希望 。
	<input type="checkbox"/> 出版済み（※出版状況は下記のとおり）	
<input type="checkbox"/> 学術誌等への掲載	<input type="checkbox"/> 投稿しなかった。	（全文の公表となります） □公表が可であることを確認。 ※ 全文の公表にあたり、出版社等から条件の指定がある場合は、その内容が分かる書類を併せて提出してください。 □公表が不可であることを確認。 □確認することができなかったため、 大学における調査を希望 。
	<input type="checkbox"/> 掲載されなかった。	
	<input type="checkbox"/> 掲載済み（※掲載状況は下記のとおり）	

※出版または掲載状況

論文①

題名	
出版又は掲載日	年 月 日
出版物等の種類	
出版物等の名称	
出版社等の名称	

論文②

題名	
出版又は掲載日	年 月 日
出版物等の種類	
出版物等の名称	
出版社等の名称	

【特許・実用新案出願】

項目	報告内容	インターネット公表方法について
特許・実用新案出願	<input type="checkbox"/> 特許を出願しなかった。 □出願公開済み【平成 年 月 月】 □実用新案を出願しなかった。 □審査結果確定済み【平成 年 月 月】	（全文の公表となります）

【その他の事由の消滅】

項目	報告内容	インターネット公表方法について
	（具体的な事由を記載してください）	
その他の事由の消滅理由		（全文の公表となります）

2. 修士学位申請手続概要

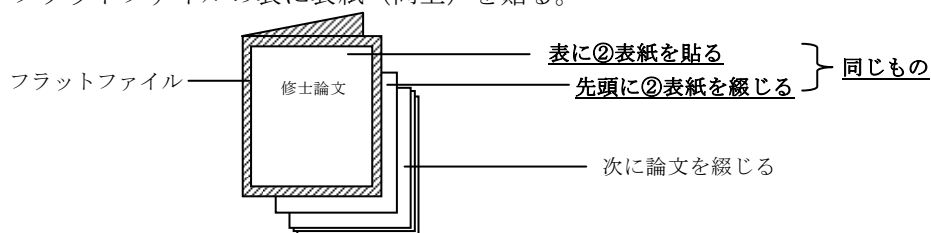
※提出期間等は予定です。詳しくは掲示により確認してください。

1. 提出期間 平成27年2月2日(月)～2月3日(火)
10:00～11:30 13:00～17:00
*上記日程は平成27年3月修了予定者対象
2. 提出場所 理学研究科B102会議室(B棟1階)
3. 提出書類 ① 修士論文審査、最終試験受験申請書
② 表紙様式2枚・修士論文(下記要領及び修士論文製本要領参照)
③ 研究概要報告書
④ 学位記記載氏名届
* それぞれ配付の様式を使用すること。
* 手書き・データ入力のいずれでも結構です。
ただし、データを利用する場合は様式を変更せず、全てA4用紙に印刷したものをご提出ください。
データでの提出は受け付けませんのでご注意ください。
4. 提出部数 各1部

5. 留意事項

- (1) ①および②に記載する論文題名は統一してください。
* 特に、提出論文が欧文の場合、書体、大文字・小文字の別まで揃え、相違のないようにしてください。また、論文題名の下に()書きで和訳を付してください。
- (2) ②は理学研究科図書室等で保存するので、下記の要領で製本したものを提出してください。

- ・A4のフラットファイルを用意し、表紙(配付の様式)および論文本文を綴じる。
- ・フラットファイルの表に表紙(同上)を貼る。



※なお、数学専攻に関しては、独自の様式となっているため、「数学専攻修士論文提出方法」を元に、専攻指定の方法で提出してください。

- (3) ③には、3月末までの研究概要を記入してください。
- (4) 各提出書類の訂正に修正液を使用することはできません。
- (5) 学位を申請される方は必ずKOAN上にて進路・就職(内定)報告を行ってください。KOAN上で入力できない方は専用の用紙を大学院系の窓口でお渡しいたしますので、大学院系までお越しください。

その他、不明な点については、理学研究科大学院系までお問い合わせください。

TEL: 06-6850-5289 または 内線2376

Email: ri-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp (理学研究科大学院系宛)

*メールのタイトルは「修士手続問合せ」としてください。

修士論文提出 専攻承認印	専攻長	指導教員
<small>※専攻長及び指導教員の印は申請書提出時に必要です。</small>		

修士論文審査、最終試験受験申請書

平成 年 月 日

大阪大学大学院理学研究科長 殿

博士前期課程 _____ 専攻 _____

学籍番号 _____

氏名 _____

連絡先TEL _____

E-mail _____

在学期間 平成 年 月～平成 年 月

指導教員氏名 _____

本学大学院学則第12条の規定による修士論文の審査及び最終試験の受験を申請いたします。

論文題名（欧文論文の場合は、（ ）書きで和訳を付してください）

※以下事務処理欄

大学院係授業料 担当者印	
-----------------	--

修 士 論 文

論文題名

平成 年 月 日

専攻名

氏名

大阪大学大学院理学研究科

平成 年 月 日現在

理学研究科長 殿

平成 年 月入学	博士 前期・後期 課程
	専攻 年次
学籍番号	
氏名	
連絡先	
E-mail	
指導教員	印

研究概要報告書

（理学研究科規程第5条第6項及び第6条第6項の規定による報告）

標記のことについて、下記のとおり報告します。

記

1. 研究題名

2. 研究概要

平成 年 月 日提出

修士学位記載氏名届

所属 _____ 理学研究科前期課程2年次 _____ 専攻 _____

学籍番号 _____

ふりがな _____

氏名 _____

注）氏名は学位記作成の際の見本となるので楷書で大きく丁寧に記入してください。

昭和

生年月日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

注）外国人留学生は西暦で記入してください。

E-mail _____ 研究室内線 _____

※以下は外国人留学生のみ記入してください

外国人留学生用トランスクリプト用記載氏名

注）トランスクリプト（学位記英訳版）用記載氏名は英字で記入してください。

大学院理学研究科授業担当等教員名簿

数 学 専 攻

各専攻とも職名ごとに50音順

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	有 木 進	表 現 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	白 井 三 平	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	内 田 雅 之	数 理 統 計 学	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	宇 野 勝 博	群 論	全学教育推進機構 学部共通教育部門
〃	大 鹿 健 一	位 相 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	小 木 曾 啓 示	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	小 田 中 紳 二	計 算 数 学	サイバーメディアセンター コンピュータ実験科学研究部門
〃	小 磯 憲 史	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	後 藤 竜 司	微 分 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	小 林 治	微 分 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	今 野 一 宏	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	杉 田 洋	確 率 論	理学研究科 数学専攻
〃	関 根 順	数理ファイナンス	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	土 居 伸 一	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	中 村 博 昭	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	西 谷 達 雄	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	林 伸 夫	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	日 野 正 訓	確 率 論	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	日 比 孝 之	組 合 せ 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	藤 原 彰 夫	数 理 工 学	理学研究科 数学専攻
〃	松 村 昭 孝	非 線 形 問 題	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	満 潤 俊 樹	微 分 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	三 町 勝 久	特 殊 函 数 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	☆盛 田 健 彦	確 率 論 ・ 力 学 系	理学研究科 数学専攻
〃	渡 部 隆 夫	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	和 田 昌 昭	数 理 情 報 学	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
招へい教授	太 田 克 弘	グ ラ フ 理 論	慶應義塾大学 理工学部
〃	仲 田 均	エルゴード理論	慶應義塾大学 理工学部
〃	湯 浅 味 代 士	金融工学・数理統計学	住友生命保険相互会社主計部
准 教 授	石 田 政 司	微 分 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	植 田 一 石	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	内 田 素 夫	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	榎 一 郎	複 素 多 様 体	理学研究科 数学専攻
〃	大 山 陽 介	積 分 可 能 系	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	落 合 理	整 数 論	理学研究科 数学専攻

職名	氏名	分野	所属
准教授	金子英子	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	小松玄	微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	鈴木讓	情報数学	理学研究科 数学専攻
〃	砂川秀明	微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	角大輝	複素力学系	理学研究科 数学専攻
〃	高橋篤史	代数学	理学研究科 数学専攻
〃	茶碗谷毅	力学系	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	富田直人	実函数論	理学研究科 数学専攻
〃	永友清和	積分可能系	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	深澤正彰	数理統計学・確率論・数理ファイナンス	理学研究科 数学専攻
〃	降旗大介	数値解析	サイバーメディアセンター コンピュータ実験科学研究部門
〃	三木敬	数理解物理学	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	宮地秀樹	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	村井聡	組合せ論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	森山知則	整数論	理学研究科 数学専攻
〃	安田正大	整数論	理学研究科 数学専攻
〃	安田健彦	代数幾何学	理学研究科 数学専攻
招へい准教授	亀谷幸生	幾何学	慶應義塾大学 理工学部
講師	菊池和徳	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	大川新之介	代数幾何学	理学研究科 数学専攻
助教	庵原隆雄	微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	大野浩司	代数幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	小川裕之	整数論	理学研究科 数学専攻
〃	原靖浩	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	松尾信一郎	大域解析	理学研究科 数学専攻
〃	水谷治哉	偏微分方程式	理学研究科 数学専攻

物 理 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	青 井 考	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	阿久津 泰 弘	統 計 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	浅 川 正 之	原 子 核 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	疇 地 宏	爆縮プラズマ加熱実験	レーザーエネルギー学研究センター レーザー核融合学研究部門
〃	磯 山 悟 朗	放 射 光 科 学	産業科学研究所 量子ビーム発生科学研究分野 (附属量子ビーム科学研究施設)
〃	大野木 哲 也	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	小 川 哲 生	物 性 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	小 口 多美夫	物 性 理 論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	菊 池 誠	統 計 理 論	サイバーメディアセンター 大規模計算科学研究部門
〃	岸 本 忠 史	核・素粒子実験	理学研究科 物理学専攻
〃	木 村 真 一	光 物 性 物 理 学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	久 野 良 孝	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	窪 田 高 弘	素 粒 子 論	全学教育推進機構
〃	黒 木 和 彦	物 性 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	小 林 研 介	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	下 田 正	原 子 核 実 験	理学研究科 物理学専攻
〃	高 部 英 明 (国際物理特別コース)	プ ラ ズ マ 物 理 学	レーザーエネルギー学研究センター 高エネルギー密度科学研究部門
〃	田 島 節 子	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	豊 田 岐 聡	質 量 分 析 学	理学研究科 附属基礎理学プロジェクト研究センター
〃	中 野 貴 志	素 粒 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	能 町 正 治	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	野 海 博 之	原 子 核 物 理 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	野 末 泰 夫	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	萩 原 政 幸	強 磁 場 物 性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	橋 本 幸 士	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	畑 中 吉 治	原 子 核 実 験	核物理研究センター 加速器研究部門
〃	花 咲 徳 亮	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	福 田 光 宏	加 速 器 物 理 学	核物理研究センター 加速器研究部門
〃	保 坂 淳	原 子 核 理 論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	細 谷 裕	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	☆山 中 卓	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	與曾井 優	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
招へい教授	石 田 勝 彦	ミューオン科学	独立行政法人 理化学研究所
〃	高 杉 英 一	素 粒 子 論	
〃	南 部 陽一郎	素 粒 子 論	シカゴ大学 エンリコフェルミ研究所
〃	渡 邊 功 雄	物 性 物 理 学	独立行政法人 理化学研究所
〃	Alfred Baron	物 性 物 理 学	独立行政法人 理化学研究所

職名	氏名	分野	所属
准教授	青木 正治	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	浅野 建一	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	味村 周平	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	石原 盛男	質量分析学	理学研究科 物理学専攻
〃	井手口 栄治	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	井上 恒一	光物性	産業科学研究所 半導体量子科学研究分野
〃	緒方 一介	原子核理論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	尾田 欣也	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	小田原 厚子	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	加藤 龍好	加速器物理学	産業科学研究所 量子ビーム発生科学研究分野 (附属量子ビーム科学研究施設)
〃	阪口 篤志	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	佐藤 透	原子核理論	理学研究科 物理学専攻
〃	重森 啓介	爆縮プラズマ加熱実験	レーザーエネルギー学研究センター レーザー核融合学研究部門
〃	白井 光雲	物性理論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	杉山 清寛	物性物理学	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	Keith M. Slevin	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	鷹岡 貞夫	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	民井 淳	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	長谷川 繁彦	半導体物性	産業科学研究所 光・電子材料研究分野
〃	花垣 和則	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	福田 光順	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	藤田 佳孝	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	松多 健策	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	宮坂 茂樹	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	山口 哲	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	吉田 斉	核・素粒子実験	理学研究科 物理学専攻
〃	吉野 元	統計理論	サイバーメディアセンター 大規模計算科学研究部門
〃	若松 正志	原子核理論	理学研究科 物理学専攻
〃	渡辺 純二	物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
特任准教授	Luca Baiotti	プラズマ物理学	理学研究科
〃	Wade Naylor	素粒子論	インターナショナルカレッジ
招へい准教授	大西 宏明	原子核実験	独立行政法人 理化学研究所
助教	青木 順	質量分析学	理学研究科 附属基礎理学プロジェクト研究センター
〃	荒川 智紀	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	飯塚 則裕	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	入澤 明典	放射光科学	産業科学研究所 量子ビーム発生科学研究分野 (附属量子ビーム科学研究施設)
〃	江村 修一	光物性	産業科学研究所 光・電子材料研究分野
〃	大橋 琢磨	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	大坪 喜之	光物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	小倉 昌子	物性理論	理学研究科 物理学専攻

職名	氏名	分野	所属
助教	川瀬 啓悟	放射光科学	産業科学研究所 量子ビーム発生科学研究分野 (附属量子ビーム科学研究施設)
〃	木田 孝則	強磁場物性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	北澤 正清	原子核理論	理学研究科 物理学専攻
〃	坂本 好史	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	佐藤 朗	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	清水 俊	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	嶋 達志	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	周 逸凱	光物性	産業科学研究所 光・電子材料研究分野
〃	菅谷 頼仁	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	鈴木 智和	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	白鳥 昴太郎	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	高久 圭二	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	高見 剛	物性実験	理学研究科 物理学専攻
〃	田中 実	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	外川 学	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	中島 正道	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	中野 岳仁	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	深谷 英則	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	堀田 智明	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	三原 基嗣	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	村川 寛	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	初田 浩義	物性理論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	山内 邦彦	物性理論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	吉岡 伸也	光物性	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	依田 哲彦	原子核実験	核物理研究センター 加速器研究部門
特任助教	坂本 英之	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	中村 聡	原子核理論	理学研究科 物理学専攻

化 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

○印はAコース長を示す。

※印はBコース長を示す。

Aコース（無機および物理化学）

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	石 川 直 人	無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	上 田 貴 洋	核磁気共鳴分光学	総合学術博物館
〃	岡 田 美智雄	粒子ビーム化学	理学研究科 化学専攻
〃	奥 村 光 隆	量 子 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	小 林 光	半 導 体 化 学	産業科学研究所 第二研究部門 (材料・ビーム科学系)
〃	今 野 巧	錯 体 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	篠 原 厚	放 射 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	谷 口 正 輝	1 分 子 科 学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	塚 原 聡	分 析 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	○中 澤 康 浩	物 性 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	中 野 元 裕	凝縮系物理化学	附属構造熱科学研究センター
〃	中 村 春 木	蛋白質物理化学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	藤 原 敏 道	機能構造計測学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	舩 橋 靖 博	生物無機化学	理学研究科 化学専攻
〃	松 本 卓 也	反 応 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	☆水 谷 泰 久	生物物理化学	理学研究科 化学専攻
〃	宗 像 利 明	表 面 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	山 口 和 也	生物無機化学	全学教育推進機構
〃	吉 村 崇	放 射 化 学	ラジオアイソトープ総合センター
招へい教授	鎌 田 賢 司	非線形光学材料化学	独立行政法人 産業技術総合研究所関西センター
〃	小 林 哲 彦	材 料 化 学	独立行政法人 産業技術総合研究所関西センター
〃	谷 本 一 美	ユビキタス化学	独立行政法人 産業技術総合研究所関西センター
准 教 授	大 山 浩	化 学 反 応 論	理学研究科 化学専攻
〃	加 藤 浩 之	表 面 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	金 城 玲	蛋白質物理化学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	児 嶋 長 次 郎	機能構造計測学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	高 橋 昌 男	半 導 体 化 学	産業科学研究所 第二研究部門 (材料・ビーム科学系)
〃	豊 田 二 郎	情報化学・有機化学	総合学術博物館
〃	宮久保 圭 祐	構 造 物 理 化 学	総合学術博物館
〃	宮 崎 裕 司	凝縮系物理化学	附属構造熱科学研究センター
講 師	井 頭 麻 子	錯 体 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	石 川 春 人	生 物 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	高 橋 成 人	放 射 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	蔡 德 七	反 応 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	長 野 八 久	化 学 熱 力 学	附属構造熱科学研究センター

職名	氏名	分野	所属
講師	野尻正樹	生物無機化学	理学研究科 化学専攻
助教	福田貴光	無機化学	理学研究科 化学専攻
	笠松良崇	放射化学	理学研究科 化学専攻
	川上貴資	量子化学	理学研究科 化学専攻
	北河康隆	量子化学	理学研究科 化学専攻
	栞村直人	錯体化学	理学研究科 化学専攻
	諏訪雅頼	分析化学	理学研究科 化学専攻
	高城大輔	凝縮系物理化学	附属構造熱科学研究センター
	鷹野優	蛋白質物理化学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
	田中裕行	1分子科学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
	筒井真楠	1分子科学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
	二宮和彦	放射化学	理学研究科 化学専攻
	橋之口道宏	粒子ビーム化学	科学教育機器リノベーションセンター
	畑中翼	生物無機化学	理学研究科 化学専攻
	福本敬夫	分析化学	理学研究科 化学専攻
	冬広明	無機化学	理学研究科 化学専攻
	松木陽	機能構造計測学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
	松本健俊	半導体化学	産業科学研究所 第二研究部門(材料・ビーム科学系)
	水野操	生物物理化学	理学研究科 化学専攻
	山下智史	物性物理化学	理学研究科 化学専攻
	山田剛司	表面化学	理学研究科 化学専攻
	山中秀介	量子化学	理学研究科 化学専攻
	山本茂樹	分析化学	理学研究科 化学専攻
	吉成信人	錯体化学	理学研究科 化学専攻

Bコース (有機化学)

職名	氏名	分野	所属
教授	小川 琢治	物性有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	※梶原 康宏	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	加藤 修雄	医薬品化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	久保 孝史	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	笹井 宏明	機能物質化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	高尾 敏文	プロテオミクス分析化学	蛋白質研究所 機能・発現プロテオミクス研究系
〃	中谷 和彦	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	深瀬 浩一	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	北條 裕信	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	村田 道雄	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
招へい教授	豊島 正	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
〃	西内 祐二	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
〃	林 文晶	NMR分光化学	独立行政法人 理化学研究所 横浜研究所
〃	田中 啓文	物性有機化学	九州工業大学
准教授	川上 徹	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	鈴木 健之	有機金属化学	産業科学研究所 附属総合解析センター
〃	滝澤 忍	機能物質化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	堂野 主税	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	松森 信明	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
招へい准教授	茅野 直良	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
特任准教授	杉山 成	脂質構造生物学	理学研究科 化学専攻 (ERATO)
〃	松岡 茂	脂質構造生物学	理学研究科 化学専攻 (ERATO)
講師	和泉 雅之	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	花島 慎弥	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
特任講師	原 利明	脂質構造生物学	理学研究科 化学専攻 (ERATO)
助教	市原 潤子	機能物質化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	岡本 亮	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	開発 邦宏	医薬品化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	佐藤 毅	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	武井 史恵	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	竹中 和浩	機能物質化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	田中 大輔	物性有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	土川 博史	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
〃	西内 智彦	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	新田 孟	医薬品化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
〃	平尾 泰一	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	真鍋 良幸	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	山口 俊郎	医薬品化学	産業科学研究所 第三研究部門(生体・分子科学系)
特任助教	梅川 雄一	生体分子化学	理学研究科 化学専攻 (ERATO)

職名	氏名	分野	所属
特任助教	Ramachandan Ramajayam	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻(インターナショナルカレッジ)
〃	川竹悟史	脂質構造生物学	理学研究科 化学専攻(ERATO)
〃	木下祥尚	脂質構造生物学	理学研究科 化学専攻(ERATO)

生 物 科 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	上 田 昌 宏	1 分 子 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
〃	岡 田 雅 人	発 癌 制 御 学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	小 倉 明 彦	比 較 生 理 学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	☆柿 本 辰 男	植 物 分 子 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
〃	河 村 悟	感 覚 生 理 学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	倉 光 成 紀	生 体 分 子 機 能 学	理学研究科 生物学専攻
〃	栗 栖 源 嗣	蛋 白 質 結 晶 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	後 藤 祐 児	蛋 白 質 構 造 形 成 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	篠 原 彰	ゲノム・染色体機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	関 口 清 俊	細胞外マトリックス学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	高 尾 敏 文	機能発現プロテオミクス	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	高 木 淳 一	分 子 創 製 学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	滝 澤 温 彦	核 機 能 学	理学研究科 生物学専攻
〃	田 嶋 正 二	エピジェネティクス	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	中 川 敦 史	超分子構造解析学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	中 村 春 木	蛋 白 質 情 報 科 学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	西 田 宏 記	発 生 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
〃	長 谷 俊 治	生 体 反 応 統 御 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	平 岡 泰	細胞機能構造学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	藤 原 敏 道	蛋 白 質 機 能 構 造 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	古 川 貴 久	分 子 発 生 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	北 條 裕 信	蛋 白 質 有 機 化 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	升 方 久 夫	分 子 遺 伝 学	理学研究科 生物学専攻
〃	松 野 健 治	細 胞 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
〃	安 永 照 雄	ゲノム情報解析学	微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター
〃	吉 川 和 明	神 経 発 生 制 御 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	米 崎 哲 朗	分 子 遺 伝 学	理学研究科 生物学専攻
招へい教授	蘇 智 慧	分 子 系 統 学	株式会社 JT生命誌研究館
〃	橋 本 主 税	発 生 生 物 学	株式会社 JT生命誌研究館
〃	原 口 徳 子	細胞機能構造学	独立行政法人 情報通信研究機構
准 教 授	荒 田 敏 昭	生物分子エネルギー変換学	理学研究科 生物学専攻
〃	今 井 薫	発 生 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
〃	岩 崎 憲 治	分 子 創 製 学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	大 岡 宏 造	物 質 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
〃	大 森 義 裕	分 子 発 生 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	奥 村 宣 明	体内機能統合蛋白質学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	小 根 山 千 歳	発 癌 制 御 学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	川 上 徹	蛋 白 質 有 機 化 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門

職名	氏名	分野	所属
准教授	加納 純子	細胞核ネットワーク学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	木村 幸太郎	神経回路機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	金城 玲	蛋白質情報科学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	久保田 弓子	核機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	児嶋 長次郎	蛋白質機能構造学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	篠原 美紀	ゲノム・染色体機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	清水 喜久雄	分子放射線生物学	ラジオアイソトープ総合センター
〃	末武 勲	エピジェネティクス	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	鈴木 守	超分子構造解析学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	高木 慎吾	植物細胞生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	橘木 修志	感覚生理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	富永(吉野)恵子	比較生理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	中井 正人	生体反応統御学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	中川 拓郎	分子遺伝学	理学研究科 生物科学専攻
〃	三間 穰治	膜蛋白質化学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	名田 茂之	発癌制御学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	藤本 仰一	理論生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	古屋 秀隆	系統進化学	理学研究科 生物科学専攻
〃	増井 良治	生体分子機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	HENRICH Thorsten	バイオインフォマティクス学	インターナショナルカレッジ
招へい准教授	猪股 秀彦	体軸動態学	独立行政法人 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
〃	小田 広樹	分子進化学	株式会社 JT生命誌研究館
〃	北島 智也	染色体分配学	独立行政法人 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
〃	近重 裕次	細胞機能構造学	独立行政法人 情報通信研究機構
講師	伊藤 一男	系統進化学	理学研究科 生物科学専攻
〃	李 映昊	蛋白質構造形成学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
助教	浅田 哲弘	植物・形態学	理学研究科 生物科学専攻
〃	有賀(木股)洋子	生体反応統御	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	小沼 健	発生生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	北郷 悠	分子創製学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	木村 博信	エピジェネティクス	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	後藤 直久	ゲノム情報解析学	微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター
〃	笹村 剛司	細胞生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	佐藤 毅	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	佐貫 理佳子	分子発生学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	高田 忍	植物分子生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	鷹野 優	蛋白質情報科学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	高橋 達郎	分子遺伝学	理学研究科 生物科学専攻
〃	田中 秀明	蛋白質結晶学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	田中 博和	植物分子生物学	理学研究科 生物科学専攻

職名	氏名	分野	所属
助教	中川紀子	生体分子機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	中村昇太	ゲノム情報解析学	微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター
〃	長谷川孝一	神経発生制御学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	藤原一志郎	神経発生制御学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	松木陽	蛋白質機能構造学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	三村覚	核機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	宮永之寛	1分子生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	山川智子	細胞生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	山下栄樹	超分子構造解析学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	山田雅司	細胞外マトリックス学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	和田恭高	感覚生理学	生命機能研究科 生命機能専攻
特任助教	東浦彰史	超分子構造解析学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター

高 分 子 科 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	青 島 貞 人	高分子合成化学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	井 上 正 志	高分子物性論	理学研究科 高分子科学専攻
〃	今 田 勝 巳	生体高分子科学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	鬼 塚 清 孝	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	栗 栖 源 嗣	生体高分子機能論	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	後 藤 祐 児	生体高分子溶液学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	佐 藤 尚 弘	高分子溶液論	理学研究科 高分子科学専攻
〃	中 川 敦 史	生体高分子構造論	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	原 田 明	超分子科学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	☆山 口 浩 靖	高分子機能化学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	山 本 仁	環境安全化学	安全衛生管理部
准 教 授	岡 村 高 明	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	金 子 文 俊	高分子構造物性論	理学研究科 高分子科学専攻
〃	金 岡 鐘 局	高分子合成化学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	鈴 木 守	生体高分子構造論	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	橋 爪 章 仁	高分子集合体科学	理学研究科 高分子科学専攻
講 師	浦 川 理	高分子材料科学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	寺 尾 憲	高分子溶液学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	李 映 昊	生体高分子溶液学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
助 教	金 澤 有 紘	高分子合成化学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	川 口 辰 也	高分子構造物性論	理学研究科 高分子科学専攻
〃	神 林 直 哉	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	高 島 義 徳	超分子科学	理学研究科 高分子科学専攻
〃	田 中 秀 明	生体高分子機能論	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	山 下 栄 樹	生体高分子構造論	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
特任助教	東 浦 彰 史	生体高分子構造論	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター

宇宙地球科学専攻

☆印は専攻長を示す。

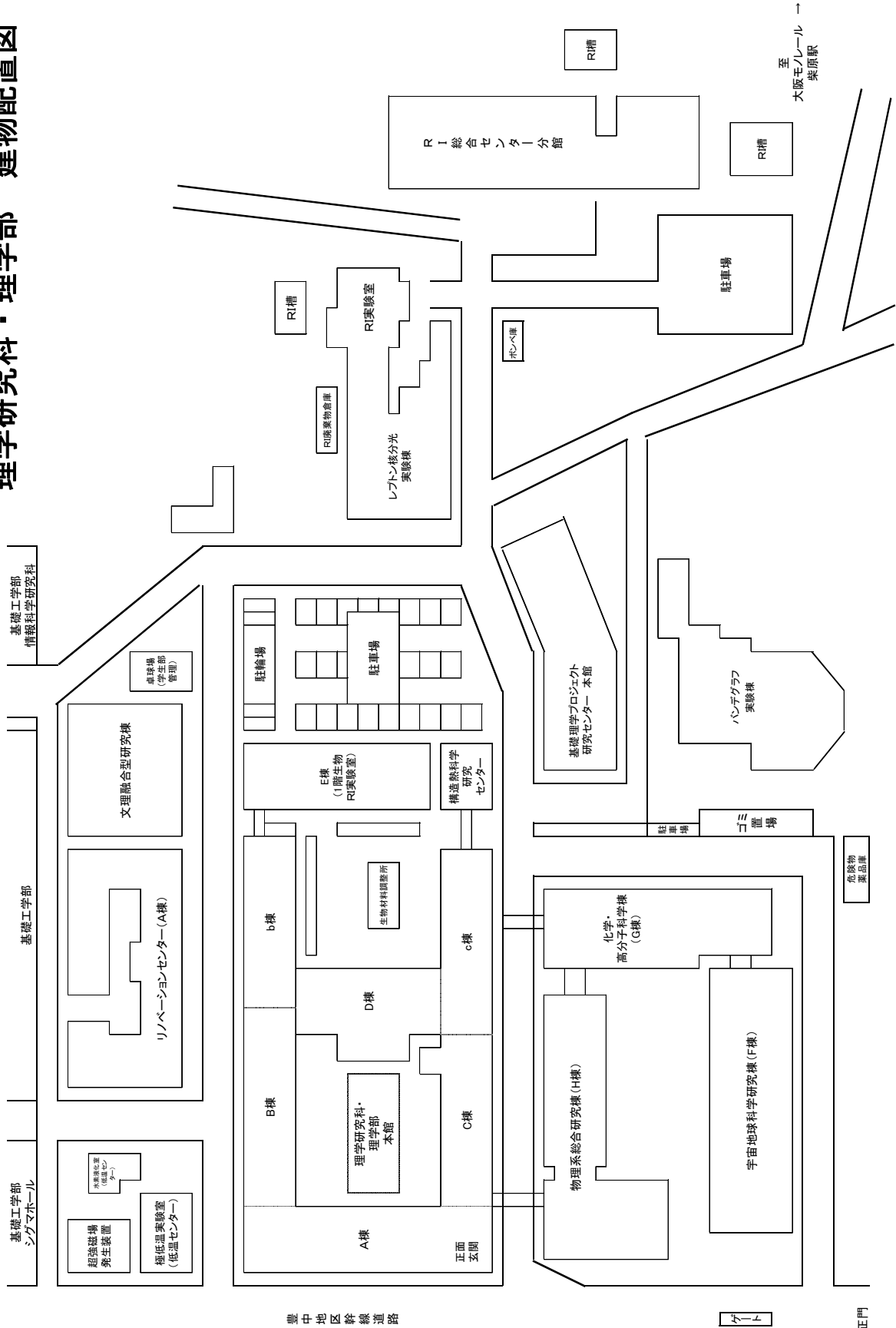
職名	氏名	分野	所属
教授	川村 光	物性理論	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	近藤 忠	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	佐々木 晶	惑星探査学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	芝井 広	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	高部 英明	プラズマ物理学	レーザーエネルギー学研究センター 高エネルギー密度科学研究部門
〃	☆常 深 博	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	寺田 健太郎	宇宙地球化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	中嶋 悟	地球物理化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	長峯 健太郎	宇宙物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
准教授	植田 千秋	惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	大高 理	高圧物性学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	坂和 洋一	プラズマ物理学	レーザーエネルギー学研究センター 高エネルギー密度科学研究部門
〃	佐伯 和人	固体惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	住 貴 宏	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	谷口 年史	物性実験	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	寺崎 英紀	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	林田 清	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	久富 修	生物物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	廣野 哲朗	地震物質科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	藤田 裕	宇宙物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	山中 千博	地球物性学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	湯川 諭	物性理論	理学研究科 宇宙地球科学専攻
助教	桂 誠	地球物理化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	境家 達弘	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	田越 秀行	宇宙物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	谷 篤 史	地球物質科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	中嶋 大	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	橋爪 光	惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	深川 美里	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	横山 正	地球物理化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	藪田 ひかる	宇宙地球化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻

学 外 非 常 勤 講 師

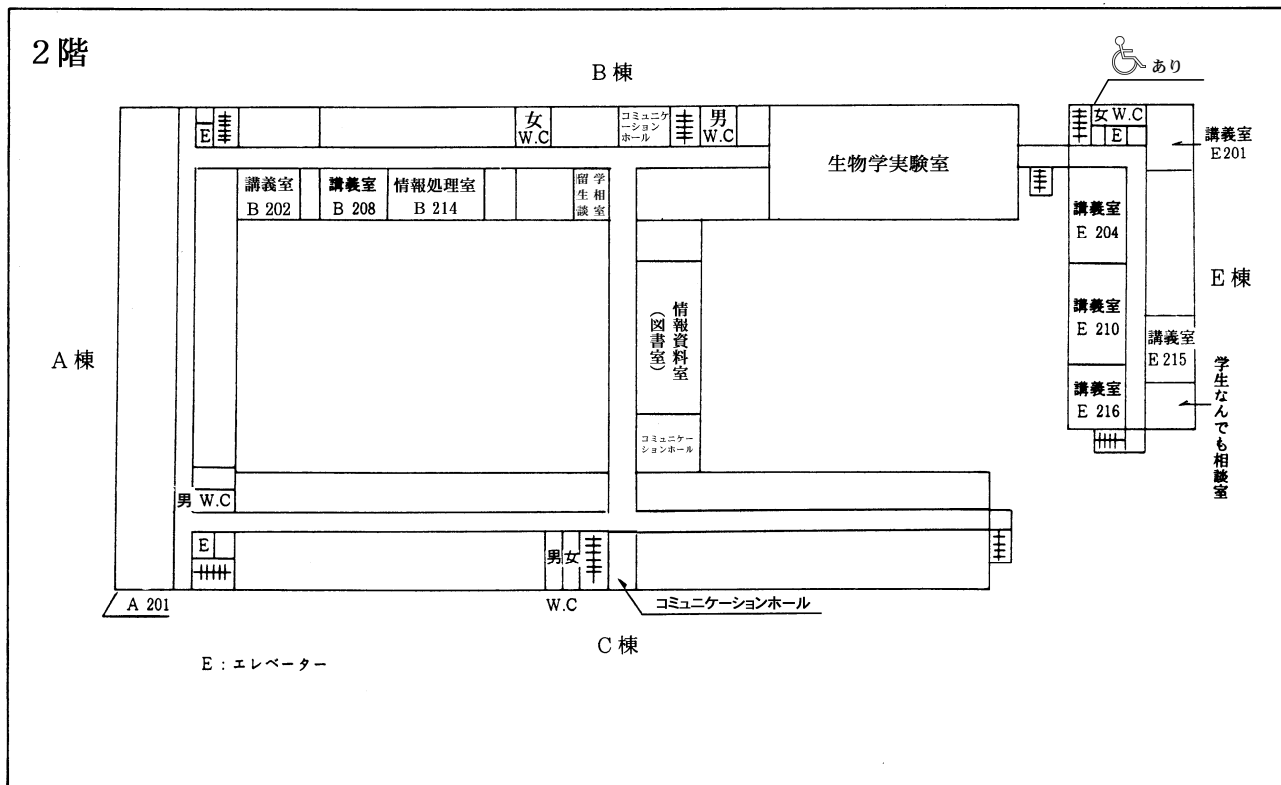
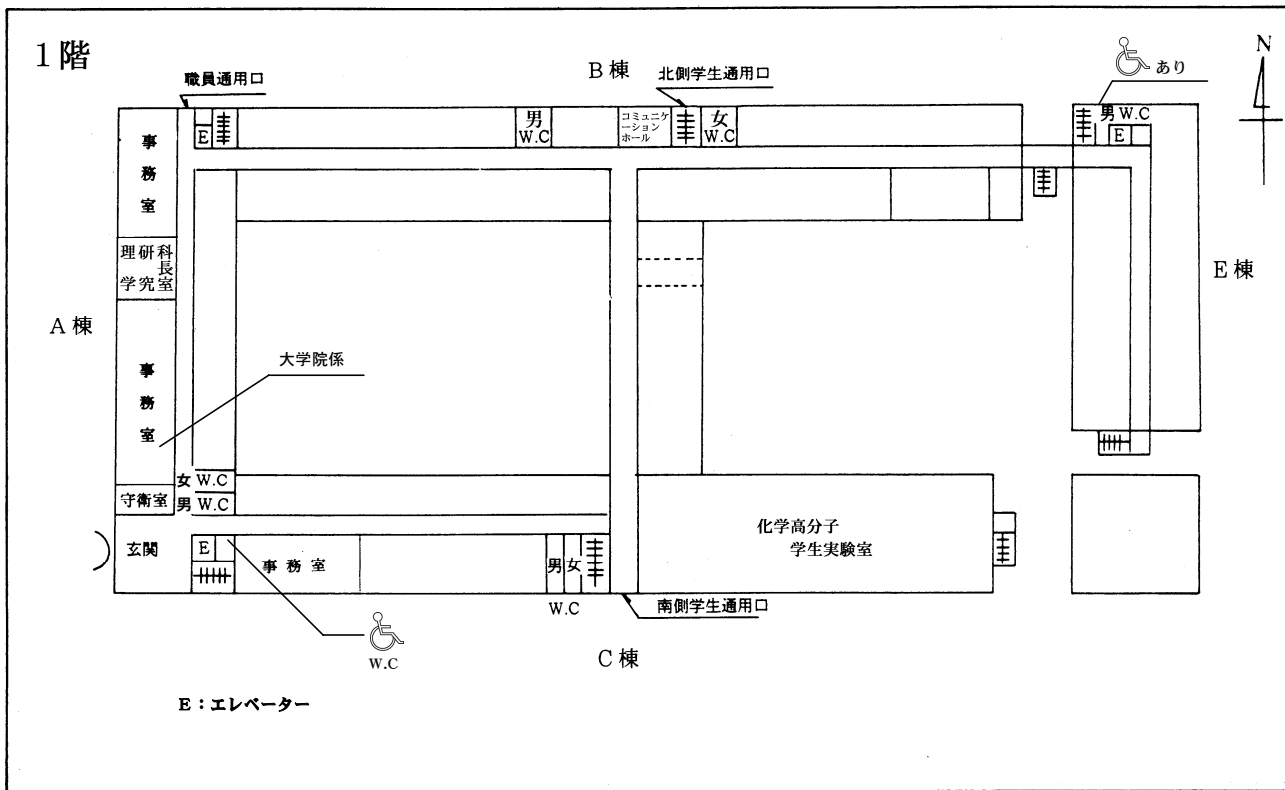
専攻名	氏名	所属
各専攻共通	青山 道夫 上垣 浩一 高橋 里美 林 文晶 E. M. ヘイル	福島大学環境放射能研究所 産業技術総合研究所関西センター (株)カネカ 理化学研究所横浜研究所
数学専攻	池田 京司 遠藤 久顕 加藤 圭一 斎藤 毅 庄司 俊明 辻井 正人 山ノ井 克俊	東京電機大学工学部 東京工業大学大学院理工学研究科 東京理科大学理学部 東京大学大学院数理科学研究科 同済大学数学系 九州大学大学院数理学研究院 東京工業大学大学院理工学研究科
物理学専攻	大西 明 川越 清以 楠瀬 博明 越野 幹人 島田 賢也 杉山 直 立川 裕二 中村 哲 松田 真生 森田 浩介 和田 信雄 Adam Paweł Falkowski	京都大学基礎物理学研究所 九州大学大学院理学研究院 愛媛大学大学院理工学研究科 東北大学大学院理学研究科 広島大学放射光科学研究センター 名古屋大学大学院理学研究科 東京大学大学院理学系研究科 東北大学大学院理学研究科 熊本大学大学院自然科学研究科 九州大学大学院理学研究院 名古屋大学大学院理学研究科 パリ大学オルセー校
化学専攻	楠見 武徳 永島 英夫 西原 寛 長谷川 淳也	東京工業大学大学院理工学研究科 九州大学先端物質化学研究所 東京大学大学院理学研究科 北海道大学触媒化学センター
生物科学専攻	中垣 俊之 野口 航 飛龍 志津子 依田 憲	北海道大学電子科学研究所 東京大学大学院理学系研究科 同志社大学生命医科学部 名古屋大学大学院環境学研究科
高分子科学専攻	竹岡 敬和	名古屋大学大学院工学研究科
化学・生物科学・高分子科学 専攻共通科目	大菊 鋼 Olaf Karthaus	田辺三菱製薬(株) 千歳科学技術大学光科学部
宇宙地球科学専攻	生駒 大洋 小暮 敏博 立松 健一 西森 拓	東京大学大学院理学系研究科 東京大学大学院理学系研究科 国立天文台 広島大学大学院理学研究科

(職名・敬称略。なお、氏名の記載は50音順とします。)

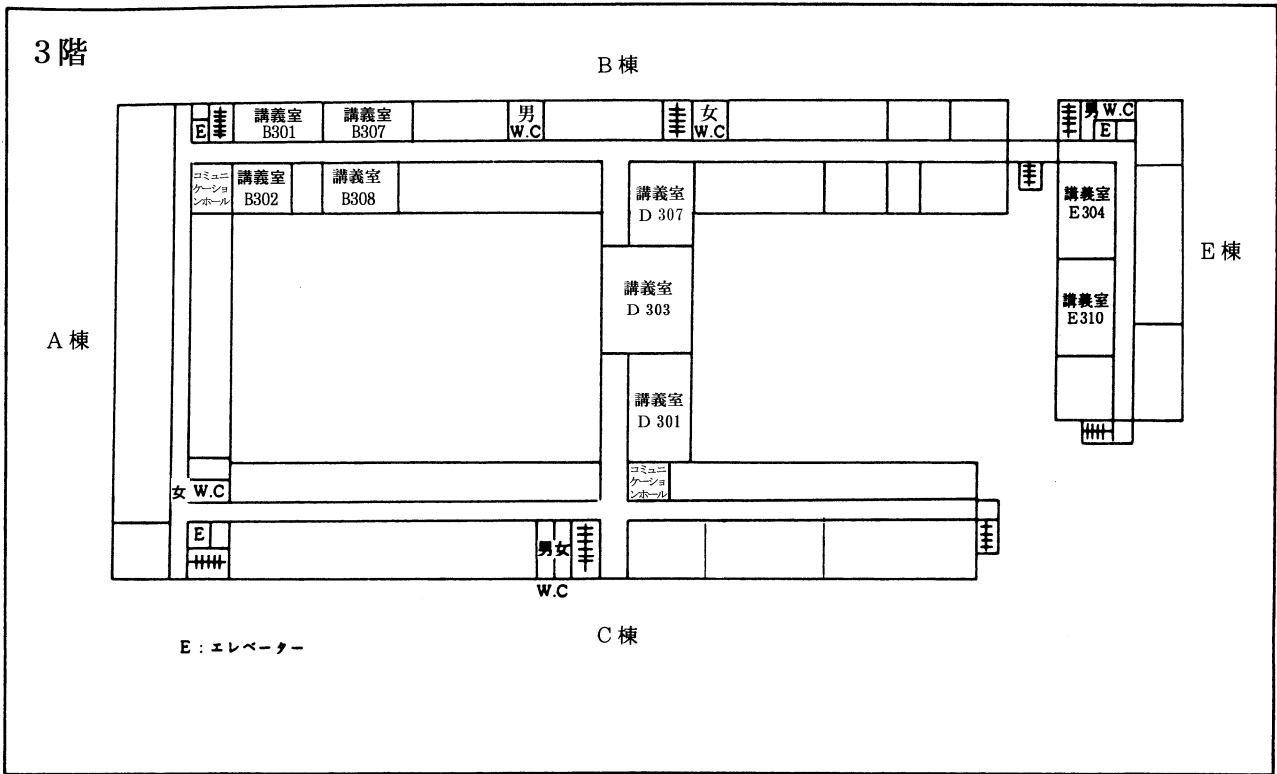
理学研究科・理学部 建物配置図



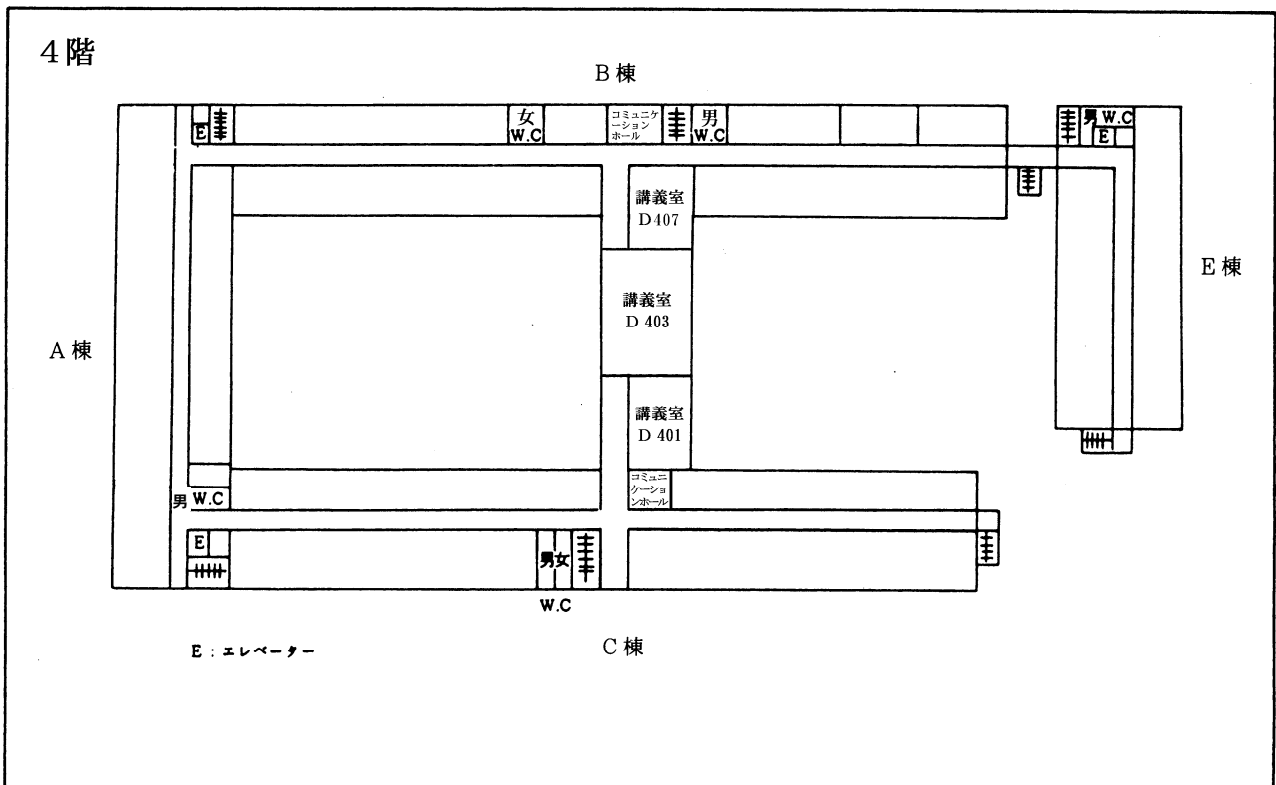
講義室等案内図

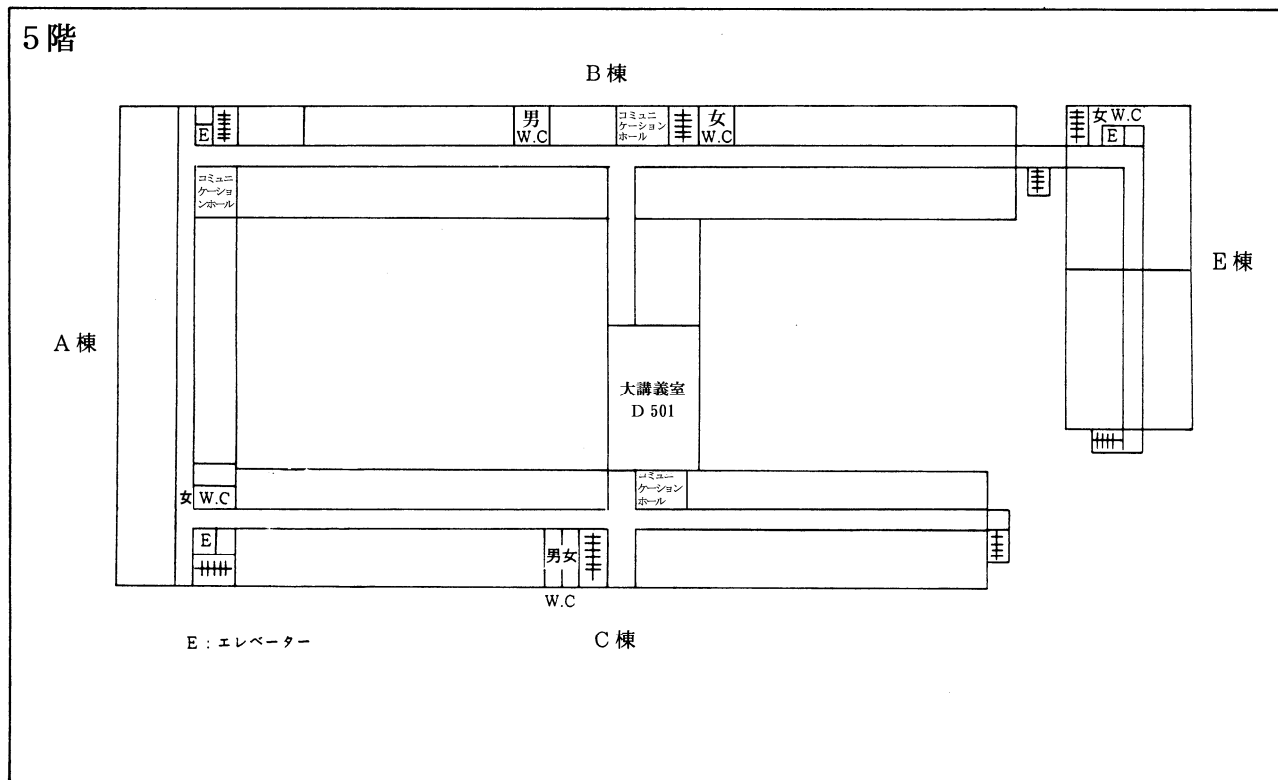


3階

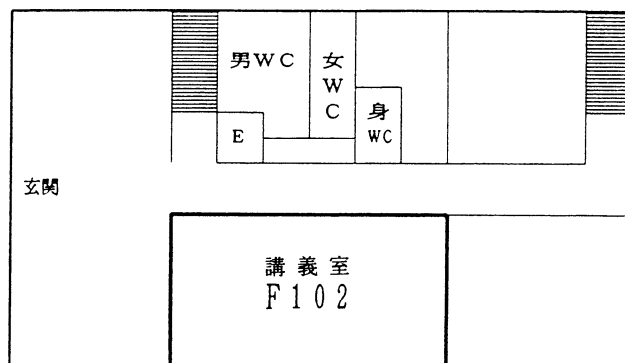


4階



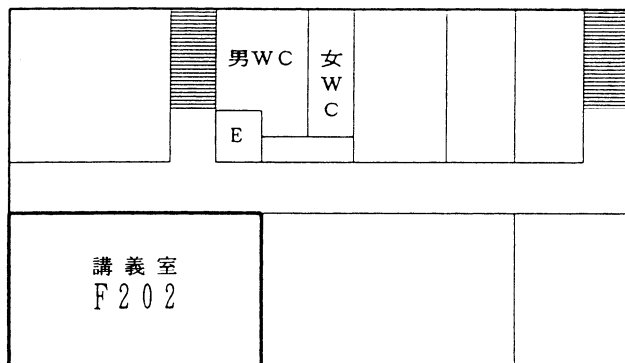


1階



2階

F棟



大阪大学大学院理学研究科

〒560-0043 豊中市待兼山町1番1号

電話 06 (6850) 6111 (代表)

<http://www.sci.osaka-u.ac.jp>